



沖繩県薬剤師会報

No.318. 2023(令和5年) 5・6・7月号



沖繩県薬剤師会

目次

表彰	令和5年度日本薬剤師会有功賞受賞 …………… (1) 久貝節子先生、城間盛光先生、永迫洋子先生、普天間公子先生 山城恵子先生、池間正先生、眞榮城紀美子先生、宮里郁子先生 令和4年度公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰 仲真良重先生 …………… (2) 令和5年度那覇地区学校保健功労者表彰 新垣紀子先生 …………… (2)
トピックス	新型コロナウイルス感染症対策に係る記者会見…………… 吉田 典子 (3)
転載記事	「抗原検査キット準備を」医療現場の負担軽減へ…………… (4)
役員紹介	新理事・新監事紹介…………… (6)
第88回総会	第88回定時総会会長演説…………… 前濱 朋子 (9) 第88回定時総会次第…………… (10) 第88回定時総会概要報告…………… 徳元 あおい (13)
第88回総会資料	令和4年度会務並びに事業経過報告および令和4年度決算、その他議題資料…………… (25)
第88回総会懇親会	第88回定時総会懇親会報告…………… 徳元 あおい (51)
実務実習	令和5年度第Ⅰ期薬学生実務実習報告 …………… 宮本 直樹 (52) 令和5年度第Ⅰ期実務実習薬学生からの体験記・感想 …………… (54) 第83回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加して…………… 村田 智哉 (56) 第84回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加して…………… 後藤 彬宏 (57)
女性薬部会	令和5年度女性薬剤師部会通常総会・講演会報告 …………… 草壁 瑞恵 (58)
転載記事	沖縄の50年 法廷で見つめ 米兵少女乱暴事件も担当…………… (60)
その他会務報告	沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊…………… 大城 喜仁 (61)
地区だより	第21回北部地区薬剤師会定時総会・懇親会報告…………… 屋嘉比 康太 (62) 令和5年度宮古地区薬剤師会総会報告 …………… 下地 睦夫 (64) 令和4年度八重山地区薬剤師会総会報告 …………… 荒谷 敏巳 (65)
県民の皆様へ	あまくま薬立つ情報…………… 薬達ちやー (66)
D I	薬事情報おきなわNo. 275…………… 薬事情報センター (67)
リレー随筆	MR残酷物語—回顧録— (完結編) …………… 詫摩 敏康 (79)
薬草学	身近な薬草を知ろう 第60回アテモヤ…………… 狩俣 イソ (80)
ぶれいくたいむ	仕事の矜持…………… 崎濱 祐美子 (82)
薬連だより	令和5年度沖縄県薬剤師連盟定時評議員会報告 …………… 徳元 あおい (83) オレンジ日記「新年度にあたって～近況のご報告～」 「法案成立を通して感じること」「令和6年度予算編成に向けて」…………… 本田 顕子 (86) 政幸だより 「内閣委員会で創薬ベンチャーについて質問しました」 「薬事に関する小委員会」「厚生労働委員会で質問に立ちました」… 神谷 政幸 (88)
転載記事	プロの視界「薬剤師」薬で健康を支える使命 安次富大さん…………… (90) 医療従事者ら糸満で慰霊祭 県医師会・県薬剤師会…………… (92) 喫煙 八重山37%最多 協会けんぽ 薬局連携、禁煙拡大へ…………… (92) 那覇市の古謝副市長が県薬副会長に 沖縄県薬、薬学部新設や「第8次」での活躍期待 (93)
計 報	山城貞国先生、平尾秀子先生、ご冥福をお祈り申し上げます。…………… (93)
会務報告	令和5年4月～6月分 …………… (94) 沖縄県薬剤師連盟会務報告 令和5年4月～6月分 …………… (97)
会員作品	誌上ギャラリー (裏表紙) について…………… (98)
編集後記	…………… (98)
お知らせ	地区・部会からの原稿をお寄せ下さい！…………… (63) 会報原稿募集のご案内…………… (82) 沖縄県薬剤師連盟Facebookをご覧ください！…………… (85) 会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について…………… (93) 沖縄県薬剤師会Facebookをご覧ください！…………… (99)

・表紙

題字：豊平峰雲 とよひらほううん

「韓国(釜山)の薬局」 photo by 山里 美恵子

コロナ禍の規制が緩和され、賑わいを取り戻しつつある街角の薬局です。

令和5年度 日本薬剤師会有功賞 受賞



おめでとうございます

久貝 節子先生 城間 盛光先生 永迫 洋子先生
普天間 公子先生 山城 恵子先生 池間 正先生
真栄城 紀美子先生 宮里 郁子先生



<見本>

寸法：縦195mm × 横145mm
本体：木製（背面にスタンド有り）
レリーフ：鉄製（金塗装）
プレート：アルミ製（レーザー加工印刷）

※受賞者の功績を称え誇りを維持し、より親しみを感じて頂ける形として、日本薬剤師会の組織・会員委員会で検討した結果、これまでの表彰状および記念品を令和4年度から「表彰盾」に変更することになった。

※同賞の伝達授与は8月20日（日）開催予定の熟年の集いにて執り行われます。受賞者には案内文書をお届け致します。

令和4年度公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰

仲真 良重先生、おめでとうございます



仲真良重先生は、昭和63年から長年にわたり、学校薬剤師として学校環境衛生の改善に尽力し、現在に至るまで学校長及び養護教諭と連携し積極的に学校薬剤師活動を行っておられます。薬の専門的立場から薬の正しい使い方や薬物乱用防止に関する講話等の学校保健、学校環境衛生に関し公衆衛生的見地から指導助言を行い、発展に貢献されたことで今回の受賞となっております。

仲真良重先生、この度の受賞、誠にありがとうございます。

(文：事務局 平安山丈継)

令和5年度那覇地区学校保健功労者表彰

新垣 紀子先生、おめでとうございます

令和5年度那覇地区学校保健功労者表彰が、去る6月8日午後2時から沖縄県立博物館・美術館において執り行われ、本会から推薦した新垣紀子先生へ賞状が授与されました。

長年にわたり、那覇市の学校薬剤師として学校環境衛生の改善に尽力し、担当校の学校保健委員会を通して学校環境衛生の重要性を説き、平成30年には学校薬剤師部会的那覇地区の支部長に就き、組織の強化、会員の資質向上を図り学校保健の発展に貢献されたことで今回の授与となっております。

新垣紀子先生、この度の受賞、誠にありがとうございます。

(文：事務局 平安山丈継)



新垣紀子先生（右から3人目）

トピックス

新型コロナウイルス感染症対策に係る記者会見

日時：令和5年7月4日（火）13:00～13:30

会場：沖縄県庁 記者クラブ室



薬事情報担当理事
吉田 典子

去る7月4日、県庁にて前濱朋子会長、阿部義則専務理事に同行し記者会見を開きました。

最初に阿部専務理事が今般の記者会見の経緯説明を行った後、前濱会長より、「新型コロナウイルスの感染拡大により、各医療機関で病床確保が困難となり、一般診療を制限する事態になっていることから、県は検査目的の受診や軽症の救急受診を控えるようと呼びかけています。本会としましても抗原検査キットや解熱鎮痛薬の供給等を通して、医療現場が逼迫する事態を未然に防ぐため対応していきます。また、体調が悪くなる前に、抗原検査キットおよび解熱鎮痛薬をご家庭にて準備していただくようお願いいたします。」と県民に呼びかけました。抗原検査キットについては、本会ホームページに掲載されている販売薬局一覧（7月3日現在216薬局）を見ていただき、最寄りの薬局・薬剤師を利用するよう重ねて呼びかけました。また、地元紙2社の紙面上に掲載の救急当直医欄にある抗原検査キット販売薬局案内窓口（TEL：098-963-8931）については、平日・土・日・祝日ともに午前9時～午後5時で、薬剤師がご案内、ご相談を受け付けていることも広報いたしました。

ただし、今回の呼びかけにより重症化リスクの高い患者が受診控えにならないよう、日頃からかかりつけ医、かかりつけ医療機関へ相談できるような体制をとっていただくことも説明いたしました。

その後、薬局での抗原検査キットの在庫状況や抗原検査キット販売薬局を案内するマップの利用方法等についての質疑応答も行われ、記者会見は終了しました。

現在、感染者数が全国的にも突出し医療提供体制が危機的な状況となった沖縄県では、医療会全体で新型コロナウイルス感染症対策に関する取り組みを行っています。本会としましても、このような啓発・広報活動により、県民が安心して抗原検査キットや解熱鎮痛薬を使用できるよう、引き続き体制整備や情報発信に取り組んでいきます。会員薬局におきましては、これまでも発熱外来の対応や抗原検査キットの販売等にご尽力いただいておりますが、引き続き、県民へ周知していただくようお願いいたします。

なお、この度の記者会見は沖縄県保健医療部衛生薬務課のお力添えがありましたことを申し添えます。

転載記事

琉球新報 令和5年7月5日(水)

「受診先見つからない」

コロナ拡大 県へ問い合わせ300件

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、県が発熱者向けに公表する外来対応医療機関が、対応できないケースが増えている。「電話しても受診先が見つからない」などの問い合わせが相次いでいる。

県ワクチン・検査推進課によると、5～6月に約300件の問い合わせがあり、感染が急拡大した6月下旬からはさらに急増しているという。県はホームページで外来対応医療機関278カ所を公表しているほか、

発熱コールセンターでも受診先を案内紹介している。県内では5月下旬から感染が広がり、最新の定点報告(6月19～25日)で1週間の推計患者報告数は1万人を超えた。比例するように県民から

「数力所の医療機関に電話しても受診できない」「対応できない」として断られた」などの問い合わせが増えている。

同課の担当者は「発熱患者の増加で医療機関の対応も難しくなっている。熱が出ても受診まで時間がかかる恐れもあるため、感染対策とともに、自宅療養に備えて抗原検査キットや薬などを用意してほしい」と呼びかけた。

(嘉陽拓也)



医療用抗原検査キットや解熱鎮痛薬などの準備を呼びかける県薬剤師会の前濱朋子会長(中央)、吉田典子理事(左)、阿部義則専務理事(右)4日、那覇市の県庁記者クラブ

「検査キット準備を」

県薬剤師会 医療現場の負担軽減へ

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、県薬剤師会(前濱朋子会長)は4日、那覇市の県庁記者クラブで会見を開き、新型コロナウイルスの医療用抗原検査キットや解熱薬を事前に家庭で準備しておくことなどを呼びかけた。各医療機関では病床確保が困難になり、一般診

療を制限する事態になっている。県は検査目的や軽症の救急受診を控えることも呼びかけている。前濱会長は「医療現場がひっ迫する事態を未然に防ぐため、対応していきたい」と述べた。同会が医薬品卸売業者に確認したところ、現在、検査キットの流通に

問題はないという。重症化リスクのある患者については、受診控えをすることなく、かかりつけ医への相談を呼びかけた。薬剤師会や県のホームページで検査キットを販売する薬局のリストを掲載している。南風原町の会営薬局医療センター前の薬局では、午前9時～午後5時まで、医療用抗原検査キットなどを購入できる。問い合わせは電話098(963)8931。(中村万恵子)

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

転載記事

沖縄タイムス 令和5年7月5日 (水)

「抗原キット準備を」 県薬剤師会 呼びかけ



医療逼迫を防ぐため、抗原検査キットや解熱鎮痛薬の準備を呼びかける県薬剤師会の前濱朋子会長（中央）ら＝4日、県庁記者クラブ

新型コロナウイルスの感染拡大で救急医療が逼迫する現状を受け、県薬剤師会の前濱朋子会長らが4日、県庁内で記者会見した。抗原検査キットや解熱鎮痛薬の在庫は十分あるとして、重症化リスクのない人などは事前に準備するよう呼びかけた。

県内の新規感染者数の推計値は1万人に達し、入院患者数も千人を超えるなど、年明けの第8波のピークを超える状況になっている。各医療機関では病床確保が困難になり一般診療を制限する病院も出ていることから県や県医師会は検査目的や軽症者の救急受診を控えるよう訴えている。

県薬剤師会によると5月下旬から6月に入って抗原検査キットの問い合わせが急増。同会のホームページに販売薬局の一覧や解熱鎮痛薬のリストを掲載した。前濱会長は「地域の最寄りの薬局を活用することで、医療逼迫を未然に防いでほしい」と強調。重症化リスクがある人には「受診控えせず、かかりつけ医などに相談してほしい」と話した。同会が運営する抗原検査キット販売案内窓口は薬剤師が常勤し、土日祝日も相談を受け付ける（午前9時～午後5時）。問い合わせは電話098（9263）8931。

（社会部・下里潤）

2023年7月5日水曜日

PHARMACY NEWSBREAK 2402号



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

© 2023じほう

PHARMACY NEWSBREAK

株式会社 じほう

弊社の許諾なしに、転送・転載、複写そのほかの複製、翻訳、およびデータの使用は固くお断りいたします

感染再拡大の沖縄、備え呼びかける県薬 検査キット扱い薬局のリスト更新

沖縄県内で新型コロナウイルスの感染が再拡大していることを受け、県薬剤師会は県民に定性検査キットや解熱薬の準備を改めて呼びかけている。3日には検査キット取り扱い薬局のリストを更新。最寄りの店舗を紹介している。

県内の1週間の定点当たりの感染者数は、10.35人だった5月22～28日の週から4週連続で増加し、6月19～25日の週は39.48人で全国最多。同期間の全国平均6.13人を大きく上回っている。

県薬によると、検査キットは3日時点で県内216店舗が販売。ホームページ上にリストを公表し、電話番号や開局時間、コロナ・インフル同時検査キットの有無などを伝えている。さらに、薬局やドラッグストアで買える主な解熱鎮痛薬の一覧も掲載。県民に事前購入などの準備を呼びかけている。

[許諾番号20230706_03]

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

新 理 事 紹 介

①生年 ②出身校 ③勤務先 ④担当職務、地区・職種部会代表



- ①昭和38年生
- ②名城大
- ③つる薬局

会 長 マエハマ トモコ
前濱 朋子



- ①昭和44年生
- ②北海道大
- ③琉球大学病院
- ④学術研修

副会長 ナカムラ カツノリ
中村 克徳



- ①昭和47年生
- ②北陸大
- ③ミント薬局
- ④財務、地域医療提供体制対策

副会長 カワミツ ナオキ
川満 直紀

(新)



- ①昭和58年生
- ②東京大
- ③那覇市役所
- ④行政薬剤師部会代表、薬学部創設推進、地域医療提供体制対策

副会長 コジマ ゲンタ
古謝 玄太



- ①昭和32年生
- ②昭和薬科大
- ③沖縄県薬剤師会
- ④統括

専務理事 アベ ヨシノリ
阿部 義則



- ①昭和38年生
- ②第一薬科大
- ③(株)薬正堂・すこやか薬局グループ
- ④薬学生実務実習受入

常務理事 サトウ マサミ
佐藤 雅美



- ①昭和38年生
- ②名城大
- ③(株)沖縄健康企画
- ④医療保険

常務理事 ミヤギ ユキエ
宮城 幸枝



- ①昭和40年生
- ②第一薬科大
- ③大浜第一病院
- ④病院薬剤師部会代表、災害対策、地域医療提供体制対策

常務理事 ヒメノ コウイチ
姫野 耕一



- ①昭和53年生
- ②名城大
- ③サンアイ薬品
- ④学校薬剤師部会代表、試験検査センター

常務理事 チナ ヒロキ
知名 博樹

(新)



- ①昭和59年生
- ②日本薬科大
- ③はれ薬局
- ④青年薬剤師部会代表、地域医療提供体制対策

常務理事 キユナ トモフミ
喜友名 朝史

新 理 事 紹 介

①生年 ②出身校 ③勤務先 ④担当職務、地区・職種部会代表



- ①昭和51年生
- ②北海道医療大
- ③病院前薬局
- ④北部地区代表

理事 アサヌマ ケンイチ
浅沼 健一



- ①昭和50年生
- ②北海道医療大
- ③とくりん薬局
比屋根店
- ④中部地区代表、
会営薬局移転推
進

理事 イシカワ ケイイチ
石川 恵市

(新)



- ①昭和44年生
- ②北海道医療大
- ③ぐすく薬局
- ④那覇地区代表、
保健福祉

理事 マタヨシ チカコ
又吉 智賀子



- ①昭和52年生
- ②第一薬科大
- ③西崎病院
- ④南部地区代表

理事 ナカ ナリカツ
名嘉 紀勝



- ①昭和45年生
- ②北海道医療大
- ③コジャ薬局
東店
- ④宮古地区代表

理事 コジャ マサキ
古謝 真己



- ①昭和36年生
- ②第一薬科大
- ③幸地薬局
- ④八重山地区代表

理事 コウチ ヨシノブ
幸地 良信



- ①昭和25年生
- ②九州大
- ③うちどまり薬局
- ④女性薬剤師部会
代表、保健福祉

理事 ムラタ ミチコ
村田 美智子



- ①昭和37年生
- ②北里大
- ③(株)スズケン沖縄
薬品
- ④卸勤務薬剤師部
会代表、保健福
祉

理事 シマブクロ
島袋 さゆり

(新)



- ①昭和51年生
- ②九州保健福祉大
- ③あおぞら薬局
- ④災害対策

理事 チネン ダイスケ
知念 大輔



- ①昭和38年生
- ②名城大
- ③沖縄県薬剤師会
薬事情報センター
- ④薬事情報

理事 ヨシダ ノリコ
吉田 典子

新 監 事 紹 介

①生年 ②出身校 ③勤務先



エナツ キョウコ
江夏 京子

- ①昭和23年生
- ②名城大
- ③あかみち薬局



ヤマザト イサム
山里 勇

- ①昭和24年生
- ②名城大
- ③(株)沖縄三和
メディカル

ご退任されました役員の方、お疲れ様でした！



退任役員

左から盛本直也常務理事、西川裕常務理事、上原卓朗理事

第88回定時総会 会長演述

沖縄県薬剤師会第88回定時総会の開催にあたり、一言申し述べさせていただきます。

4年にも及ぶ、新型コロナウイルス感染症に関しましては、5月8日には感染症法上の位置付けが5類に移行され、県民の生活もコロナ禍前の日常に戻ってきております。これを踏まえ、本日の定時総会では感染防止に努めつつ、パーティーションも撤去するなど、現地参加型の開催といたしました。

会場にご参集いただきました代議員の皆様にはご理解いただき、個々での感染防止など、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

4年におよぶコロナ禍では、病院、開局、卸、行政などに勤務する薬剤師との連携に加え、病院、診療所の医師との連携も進展したように感じます。これらの業務連携を通じたことにより、薬剤師機能が県民にも広く周知されることになりました。

その結果、沖縄県知事との新型コロナウイルス感染症対策等に係る意見交換会に参加案内があり、錚々たる医師らに加えて看護協会会長とともに参加して参りました。そのような場で、発言の機会もいただいたので、他の医療職種との連携の中で薬剤師機能が進展し

たことへの感謝と共に、コロナ禍の現場では薬剤師不足をより感じたことから、薬剤師養成校の設置について申し上げましたところ、閉会の際に沖縄県知事の挨拶で、沖縄県薬剤師会からの要望を承りましたとの心強いお言葉をいただくことができました。

このように薬剤師が好意的に受け入れられたのも、これもひとえに、会員の皆様の、長いコロナ禍における日々の患者目線の活動が認められたものであります。皆様のご尽力に感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したとはいえ、予断を許さない状況であります。6月2日には、変異株3種類を県内で初確認したと発表されたところです。会員の皆様におかれましては、引き続き、キット販売、発熱外来への対応に加え、経口抗ウイルス薬の取り扱いなど、地域への医薬品提供体制に混乱が生じないように、適切なお対応をよろしくお願い申し上げます。

本日は、令和4年度決算承認の他、新役員候補につきましても、忌憚なきご意見を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年6月18日
会長 前濱 朋子



<第88回定時総会次第>

○物故会員への黙祷

○開会の辞

○議長・副議長登壇挨拶
(点呼・宣告)

○日程説明

○会長あいさつ

○報告 第1号 令和4年度会務並びに事業経過報告

第2号 令和4年度会務並びに会計監査報告

○議案 第1号 令和4年度決算承認の件

第2号 一般社団法人沖縄県薬剤師会監事選挙の件

選挙管理委員会委員長 野崎真敏

第3号 一般社団法人沖縄県薬剤師会理事選出承認の件

会長候補者 前濱朋子

○地区薬剤師会代表質問

順番：①北部地区 ②南部地区 ③八重山地区 ④中部地区 ⑤宮古地区 ⑥那覇地区

○一般関連質問

○採決（議案第1号～3号の採決）

○閉会の辞

司会 常務理事 宮 城 幸 枝

副 会 長 中 村 克 徳

議 会 長 知 念 大 輔

副 議 長 又 吉 智 賀 子

常 務 理 事 盛 本 直 也

会 長 前 濱 朋 子

常 務 理 事 西 川 裕

監 事 山 里 勇 紀

副 会 長 川 満 直 紀

副 会 長 野 崎 真 敏

副 会 長 前 濱 朋 子

副 会 長 前 濱 朋 子

副 会 長 前 濱 朋 子

副 会 長 前 濱 朋 子

副 会 長 前 濱 朋 子

副 会 長 前 濱 朋 子

副 会 長 前 濱 朋 子

副 会 長 村 田 美 智 子



物故会員への黙祷

【第88回定時総会スナップ写真】



開会の辞
中村 克徳 副会長



左から議長：知念 大輔代議員、副議長：又吉 智賀子代議員



日程説明
盛本 直也 常務理事



報告第1号
西川 裕 常務理事



報告第2号
山里 勇 監事



議案第1号
川満 直紀 副会長



議案第2号
野崎 真敏 選挙管理委員長



代議員席側

〔第88回定時総会スナッフ写真〕

＜地区薬剤師会代表質問・一般関連質問＞



屋嘉比 康作 代議員
(北部地区薬剤師会代表)



松本 圭五 代議員
(南部地区薬剤師会代表)



新嵩 由香 代議員
(八重山地区薬剤師会代表)



藤原 明人 代議員
(中部地区薬剤師会代表)



下地 仁 代議員
(宮古地区薬剤師会代表)



安次富 長洋 代議員
(那覇地区薬剤師会代表)



戸田 澄之 代議員
(那覇東支部)



普久原 隆 代議員
(沖縄支部)



阿部 義則 理事
薬剤師確保対策、薬学部創設、
会営薬局移転関連質問答弁



佐藤 雅美 常務理事
実務実習関連質問答弁



閉会の辞
村田 美智子 副会長



司会
宮城 幸枝 常務理事

第88回総会**第88回定時総会概要報告**

日時：令和5年6月18日（日）13:40～16:10

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

司会の宮城幸枝常務理事の進行で、定時総会を開催する旨の案内が定刻の午後1時40分にアナウンスされ、開会した。

新型コロナウイルス感染症の5類移行後の今回の開催の取り扱いについては、新型コロナウイルス感染症等の予防対策に留意した上で会場を設けているが、発熱や風邪様症状等があり体調に不安がある場合等は参加の自粛を要請、また、参加に際しては、マスク着用や手指消毒等の感染予防を心掛け、濃厚接触を避けていただくこととし、どうしても出席を避けたい、他事由により出席できない場合は、「予備代議員を出席させる」もしくは「議決権の代理行使」の提出による出席扱いとさせていただき旨の案内をした。現地参加している代議員は40名、「議決権の代理行使」を議長に委任することで出席の提出をした代議員が9名の計49名となっていることが述べられた。

開会挨拶の前に、物故会員6名（新垣順子氏、内間俊和氏、江口幸典氏、神谷正秀氏、川武政子氏、山城貞国氏）の冥福を祈るため、起立黙祷した。

中村克徳副会長が、「県内では、再び、新型コロナウイルス感染症の感染者が増えているが、このような時こそ、薬剤師の力が試される。薬局、病院の薬剤師が力を合わせて、新型コロナウイルス感染症の新しい治療薬を上手く使用する等、腕の見せどころである」と挨拶し、第88回定時総会の開会を告げた。

定款第15条の規定により、議長、副議長を選出。議長は南風原支部の知念大輔代議員、副議長は小禄支部の又吉智賀子代議員が選出された。盛本直也常務理事が、定時総会の日程及び議題の審議について説明し、前濱朋子会長が挨拶した。

<報告第1号 令和4年度会務並びに事業経過報告>

西川裕常務理事が、(1) 会員・薬局等の業態現況報告、(2) 会務報告、(3) 講演会・研修会・説明会等の開催状況、(4) 公的機関等の会議・活動・その他、(5) 各種委員会の開催状況、(6) 公的機関への協力、(7) 地区・支部活動について、配付資料に基づき報告した。

続けて、令和4年度事業（沖縄県内の国公立大学への薬学部創設に向けての活動、地域医療提供体制対策、生涯学習、医療安全対策、医療保険、保健福祉、薬学生実務実習受入、災害支援対応、各部会活動、「薬と健康の週間」行事、日本薬剤師研修センター認定研修会の受講状況、試験検査センター事業、薬事情報センター事業）の経過について、主な事項を配布資料に沿って具体的に報告した。

<報告第2号 令和4年度会務並びに会計監査報告>

山里勇監事が、定款第26条に基づいて、令和5年5月11日に江夏京子監事と共に執り行った一般社団法人沖縄県薬剤師会の令和4年4月1日から令和5年3月31日までの令和4年度における会計及び業務の監査実施に基づく監査報告書（添付資料）を読み上げて監査報告とした。

1. 監査の方法の概要

(1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。

(2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

(1) 正味財産増減計算書、貸借対照表等は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財政状態を正しく示していると認める。

(2) 事業報告書の内容は真実であると認める。

(3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

<議案第1号 令和4年度決算承認の件>

川満直紀副会長が、比較正味財産増減計算書を基に、各事業部の数字を読み上げ、その後概要について説明した。

会営薬局医療センター前については、土日祝日の発熱外来患者数の影響等による処方箋枚数の増加や抗原検査キット販売による収入、及び国・県からの補助金や協力金収入もあり、前年比のほぼ2倍の事業収益を計上したこと、一方で、抗原検査キット仕入や急増した発熱外来患者対応のため仕入原価や人件費も前年度より増加したが、常態化していた赤字を大きく改善する財務状況となったと説明があり、5類への移行で赤字体質へ逆戻りすることも予想されるが、救急医療体制維持を目的とした新たな補助金も確定しているため、赤字の一部が補填できる見込みとなっていると述べた。

最後に、新型コロナウイルス感染症は5類に移行したが、当面8月末までは県からのコロナワクチン電話相談事業の委託契約延長が決定していること、数年後に迫った琉球大学病院の移転についてなど、それぞれの事業部ごとに課題もあるが、昨年度同様、会費収入だけに頼らない経常収益力の強化、及び国・県からの補助金等の獲得・拡充を図って効率的に事業を行うことなどを言い添えた。

<議案第2号 一般社団法人沖縄県薬剤師会監事選挙の件>

知念大輔議長が、監事立候補者は配付資料に掲載されている立候補者一覧のとおりであることを述べ、野崎真敏選挙管理委員長を入場させ、経緯説明等をするよう求めた。

野崎真敏選挙管理委員長は次のとおり述べた。「去る3月6日に前濱朋子会長名で今回の選挙の公示をした。これは、一般社団法人沖縄県薬剤師会会長候補者及び監事選挙規則、同施行細則により、本で行われる監事を決定するための選挙である。去る3月4日に開催した本会定例理事会において、同選挙の公示日並びに選挙期日等を決定し、本会ホームページ等に当該選挙に関する公示及びスケジュールを掲載した。この公示に基づき、6月2日の午後5時を以て候補者の届け出を締め切り、同選挙規則第6条により候補者一覧表を本会事務所に掲示した。立候補者は、江夏京子氏、山里勇氏の2氏から届け出があった。届け出に不備は無く、多くの推薦を得てこれを承諾し立候補の届け出をしている。このあと執行する監事選挙については、立候補者数が員数を超えていないことから、選挙規則第9条に則って、本日の定時総会に出席とみなされた代議員の議決を経て、投票を行わずに、その候補者をもって当選者としていただきたい。」

又吉智賀子副議長より、選挙規則施行細則第9条に、「立候補者、被推薦者または推薦者の1名は、所信表明または推薦演説をすることができる。」とあることから、立候補者は所信表明をするよう伝えた。副議長の進行により、江夏京子氏、山里勇氏の順で所信表明をした。副議長より、選

出については、後の採決の際に行うことが告げられた。

<議案第3号 一般社団法人沖縄県薬剤師会理事選出の件>

前濱朋子会長候補者が、6地区薬剤師会及び6部会から各1名ずつ推薦された候補者以外の7名の候補者は会長候補者として指名した。候補者名簿に指名事由となる担当や役割を記載しているが、沖縄県内国公立大学への薬学部設置に関する事項と第8次医療計画の策定に関する事項を特段考慮した人選である旨の説明をし、一般社団法人沖縄県薬剤師会の理事選任の承認をいただきたいと述べた。

休憩を挟み、再び議長と副議長が登壇して質疑応答の時間に入った。質疑応答は、前半に地区薬剤師会代表質問、後半に一般関連質問という構成である。地区薬剤師会代表質問の順番は去る4月の定例理事会にて地区代表理事によるクジ引きにより決定されたこと、1地区あたりの代表質問時間も去る4月の定例理事会で質疑応答を含め7分に決定したこと、また、時間超過で質問できなかった事項に関しては一般関連質問の際に質疑応答の時間を設けること等を、議長が説明した。

代表質問は、6地区薬剤師会から選出された代議員が、

- ①北部地区薬剤師会（名護支部：屋嘉比康作代議員）
- ②南部地区薬剤師会（糸満支部：松本圭五代議員）
- ③八重山地区薬剤師会（石垣支部：新嵩由香代議員）
- ④中部地区薬剤師会（嘉手納支部：藤原明人代議員）
- ⑤宮古地区薬剤師会（平良支部：下地仁代議員）
- ⑥那覇地区薬剤師会（那覇北支部：安次富長洋代議員）

の順で行い、これらの質問に対し各担当理事が答弁した。

地区薬剤師会代表質問

<北部地区薬剤師会>

屋嘉比康作代議員 質問：日本薬剤師研修センター認定の研修会開催について

コロナ禍において日本薬剤師研修センター認定の研修会が減少しているように思われる。令和4年度の受講率は全会員の31.7%、生涯教育目標単位（年間10単位以上）達成者は全会員の7%と決して高いといえる数値ではないと感じる。

その要因の一つとして、以前は医師会等との共催の研修会でも単位の取得が可能であったが、日本薬剤師研修センターの「薬剤師研修・認定電子システム（PECS）」への移行に伴い、共催による研修会の認定単位の付与が困難になった。元々医師会等との共催による研修会の開催が多かった北部地区としては、地区単独での研修会の開催には限界があり、このような結果に繋がっていると予測される。

この現状を踏まえて、新型コロナウイルス感染症が5類に変わった今、沖縄県薬剤師会として地区薬剤師会への支援等を含め、今後どのような取り組みを検討しているか。また、それに合わせて日本薬剤師研修センターへの働きかけ等も検討しているか伺う。

中村克徳副会長 答弁

ご質問頂いた通り、PECSの稼働に伴い、医師会や製薬会社等との共催による研修会において、

日本薬剤師研修センターへの単位申請が不可能となった。このため、他団体と共催での研修会単位認定が減少していると思われる。

沖縄県薬剤師会では、この対策として、薬剤師研修センターの研修開催助成金に応募・獲得し、昨年度は2回ハイブリッド形式で研修会を開催した。今年度も3件を助成金に応募している。この助成金を活用したハイブリッド研修会をぜひ活用していただきたい。また、沖縄県薬剤師会の共催で5月20・21日に開催したジェネリック医薬品・バイオシミラー学会も日本薬剤師研修センター6単位の対象となった。

現在は、日本薬剤師会研修プラットフォーム（manaable：マナブル）を活用することにより、全国の研修に参加することが可能になってきている。地区薬剤師会で研修会開催が困難なことへの対応として、沖縄県薬剤師会での研修会開催を充実させるとともに、プラットフォーム活用を推進していきたいと考える。

このことから、日本薬剤師研修センターへの働きかけについては、特段考えていない。

<南部地区薬剤師会>

松本圭五代議員 質問①沖縄県内の薬剤師不足について

沖縄県内の薬剤師不足の状況について、各地区（地域）の資料があれば聞きたい。また、県薬剤師会の薬剤師雇用促進活動があれば聞きたい。

阿部義則理事 答弁

県内の薬剤師不足の状況について、直接調査した資料はない。しかしながら、薬剤師の不足状況を間接的に知る手段として、人口10万人あたりの薬剤師数を用いることができると考えている。

因みに、令和2年の人口10万人あたりの薬剤師数は、県の衛生統計年報によると全国198.6人であるのに対し、北部地域が120.1人、中部地域が118.2人、那覇を含む南部地域が180.4人、宮古地域が81.5人、八重山地域が116.4人、県全体で148.3人となっている。何をもって不足とするかは今後の県の調査に委ねるとして、薬剤師数が全国最下位といわれている沖縄県全体の数字を上回っているのは那覇を含む南部地域のみとなっており、各地区での薬剤師不足が反映された数字と見ることができると考えている。

県薬剤師会の薬剤師雇用促進活動については、沖縄県の事業に協力する形で、平成26年度から全国の薬科大学等へ出向き、計18大学に就職斡旋の依頼を実施するとともに、県出身の薬学生や卒業生にU・Iターンの推進を関係大学と共に働きかけを行っている。

因みに、県では、その他に薬剤師確保対策モデル事業として、平成30年度から県内での就業を条件として奨学金返還額の一部を補助しており、令和3年度までに計78名に補助している。

松本圭五代議員 質問②：県内設置の薬学の大学について

県内設置の薬学の大学について、学部での設置か学科での設置か、県薬剤師会としては、どちらで活動をしているのか伺う。

また、定員は、どの程度を希望しているか伺う。その定員の根拠もあれば、合わせて伺う。

阿部義則理事 答弁

県が示した基本方針の冒頭「県内国公立大学への薬学部設置を早期に実現するための基本的な方針を示す。」としており、基本方針全体を通して学部での設置を前提としたものとなっている。

県薬剤師会としては、これまで県と連携し様々な要請活動や協議会、シンポジウム等に係わってきたところであり、今後も県と共にこの基本方針に沿って県内国公立大学に薬学部設置実現を目指す立場であることから、会の活動も学部での設置が前提となるものと考えている。因みに、医学部に薬学科を設置している大学は、少なくとも日本にはない。

定員については、県の基本方針に「入学定員は、80名程度」と記載されていることから、1学年80名、6学年で計480名となるものと考えている。

定員の根拠については、県の薬学部設置可能性等調査業務報告書において、「薬学部の入学定員については、国立では80名、公立では100～120名としている大学が多く、100名程度とすることが想定される。」とし、「この数字は、大学設置基準で求められる学生100名あたり28名の専任教員数の面からも妥当な水準と考えられる。」としている。このことを受け、基本方針の素案では、入学定員を100名程度としていたが、運営上の採算性、専任教員の確保の面等から80名程度となったと聞いている。

<八重山地区薬剤師会>

新嵩由香代議員 質問①：医薬品の安定供給について

医薬品の安定供給について、いまだに改善の兆しが見られない。いつになったら改善するのか。それぞれに原因があると思うが、今一度、関連団体、関係省庁へ強い要請をお願いする。

西川裕常務理事 答弁

医薬品流通に関する問題が長期化し、大変な混乱や不安が生じており、またこの傾向は北部地区や離島においてより顕著であると認識している。医薬品の安定供給される時期については、現時点において日本薬剤師会や厚生労働省からは示されていない状況がある。そのためか、医薬品の安定供給問題を踏まえた診療報酬上の特例措置が2023年4月から12月まで（9ヵ月間）時限的に適用されている。

また、本会としても日本薬剤師会に足並みを揃え、今一度、国の関係省庁や製薬メーカーなど関係団体へ働きかけるとともに、医薬品を使用する患者への安全・安心に対する信頼回復に向けて、地区薬剤師会や会員薬局と共に取り組んでいきたいと考える。

新嵩由香代議員 質問②：マイナンバー保険証について

マイナンバー保険証使用時の不具合やトラブルが報道されている。沖縄県内での不具合等の報告はあるか伺う。今後、報告があった場合には、情報共有をお願いする。

宮城幸枝常務理事 答弁

社会保険診療報酬支払基金沖縄審査委員会事務局、沖縄県国民健康保険団体連合会、全国健康保険協会沖縄支部に確認したが、現在のところ県内での不具合やトラブルは把握していないとのことだった。今後、報告を確認した場合は、本会ホームページやFAX一斉同報等にて速やかに情報共有する。

新嵩由香代議員 質問③：お薬手帳の必要性について

マイナンバー保険証が普及するにつれて、患者のお薬手帳持参率が下がる可能性がある。県薬剤師会として、今後もお薬手帳は持ってもらおう考えか伺う。

再度、お薬手帳の重要性を啓発してはどうか、県薬剤師会の考えを伺う。

宮城幸枝常務理事 答弁

マイナンバー保険証での健診結果やお薬の情報開示には、患者本人の同意が必要である。また、薬の情報に関しては、調剤報酬請求を行った分となるため、1ヵ月程度のタイムラグが生じる。一方、ご自身のお薬手帳には、OTCやサプリメント、現在服用中のお薬についてなど、普段気になっていることを書き込み、次回受診時に医師や薬剤師に相談する等の利点があるため、県薬剤師会としては、患者には今後もお薬手帳は持っていたきたいと考えている。そのため、赤ちゃんが生まれた時にRBC（琉球放送）からお母さんにプレゼントされる「はじめてばこ」にお薬手帳を入れる取り組みや「薬と健康の週間」において啓発するなど、これまでの啓発活動に加え、マイナンバー保険証取得後もお薬手帳が有用であるとの啓発活動については、今後、検討していく。

新嵩由香代議員 質問④：有事の際の連携について

尖閣、台湾問題により八重山はいつ戦争に巻き込まれるかわからない。

万が一、有事が起こった際に、避難先での薬剤師としての協力体制（医療職種間や行政との連携等）はどうするのか。

県外への避難となった場合、他県との連携はどうするのか、県薬剤師会の考えを伺う。

阿部義則理事 答弁

有事の際には、国民保護法に基づき住民の避難が最優先に行われるとともに、沖縄県では、危機管理対策本部及び各地方本部が設置されるものと思われる。県薬剤師会としても、会員の安全を最優先に避難を呼びかけるとともに、避難先等において、国・県等から協力要請がある際には、災害時の対応に準じて可能な限り協力していきたいと考えている。

避難先が県外となった場合にも同様との考えから、現時点では、特段他県との連携は考えていない。

<中部地区薬剤師会>

藤原明人代議員 質問：病院薬剤師の会費額の減額について

現在、病院薬剤師の会員数が少ない。理由としては、病院薬剤師は沖縄県病院薬剤師会と沖縄県薬剤師会の会費の二重払いになっているためと考えられる。そこで、入会しやすいように、県薬剤師会の会費額を減額することについて、県薬剤師会の考えを伺う。

病院薬剤師の会費減額による会員増については、以下の点でも有用と考える。

- 薬薬連携の向上を図るだけでなく、多職種連携の向上の面からも県薬剤師会にとって有用である。
- 在宅患者など、薬薬連携のメリットにもつながる。
- 刺激が加わることで、沖縄県薬剤師会のレベルアップに繋がることが期待される。

川満直紀副会長 答弁

病院薬剤師の入会にあたっては、薬薬連携の向上を図るだけでなく、多職種連携の面からも大いにメリットがあることは、薬薬連携会議や学会発表、研修企画の生涯学習などの県薬の事業においても実感している。

ご質問にもあるように、本会と病院薬剤師会の会費の二重払いが障壁となっている。会費額の改定については、総会の議案事項となっているので、まずは病院薬剤師会側との意見交換会等を開き、両会のメリットに結び付くよう理事会等で協議していきたいと考えている。

＜宮古地区薬剤師会＞

下地仁代議員 質問①：日本薬剤師会研修プラットフォームと研修シラバスの位置付けについて

日本薬剤師会が新設した「研修プラットフォーム」により、これから個人の意思で全国的に講習会を受講できる環境が整いつつある。研修受講が個人的評価になるにつれ、これまで地区薬剤師会として課せられていた「研修シラバス」の研修会開催義務はなくなると思うが、県薬剤師会の考えを伺う。

西川裕常務理事 答弁

「研修プラットフォーム」は地区薬剤師会として課されていた「研修シラバス」の研修開催の一部を担うものにはなるが、研修会の開催義務がなくなるものではないと考える。

研修プラットフォーム構築の背景には、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大してから、全国的に集合研修等の実施が困難となり、Zoom等を利用したオンライン研修が増える一方、薬剤師を対象とする全国統一的な研修基盤は確立されていなかったことがある。そのため、e-ラーニング配信を含む多機能な薬剤師研修プラットフォームが日本薬剤師会により構築された。

また、研修シラバスの研修の方法については「講義のみならず、グループ討議、症例検討等を中心に実践的なものを実施」するように記載されており、研修の実施に関しても「地域医療の担い手が自ら、こうした実践的な研修を企画・実施することを通じて、地域医療の質の向上に繋がることを期待する。」といった文言がある。

これらのことから、第一義的には、地区薬剤師会として課されていた「研修シラバス」の研修を開催しつつ、地区薬剤師会にて実施できない部分を補うものとして研修プラットフォームを活用していただきたいと考える。

下地仁代議員 質問②：地域活動証明書の発行について

かかりつけ薬剤師には「医療に関わる地域活動の取り組みに参画していること」の活動が必要であるが、他の都道府県薬剤師会によっては独自に「地域活動証明書」を発行していると聞く。この「地域活動証明書」について、以下の点について伺う。

(1) 「地域活動証明書」は地区薬剤師会が独自に発行したもの（様式も含め）で認められるか。

※宮古地区で「トライアスロン大会」への参加など

(2) 他の地区によっては「休日夜間薬局としての対応」「学校薬剤師業務」も地域活動として認められているとのことだが、県薬剤師会として具体的な「活動内容例」はあるか。

盛本直也常務理事 答弁

(1) 参加証や地域活動証明書については、本会や地区薬剤師会が発行したものでも認められている。既に、地区薬剤師会の中には、健康とおくすり相談会に参加した薬剤師に参加証を発行しているところもある。参考までに、参加証のひな型が県薬事務局にあるので、共有することも可能である。

なお、地域活動に参加していることが分かる書類を提出する際に、参加証の提出は必須と

はなっていない。事業の概要、参加人数、場所及び日時、当該活動への関わり方などを任意で作成した書類に記載して申請することも可能となっている。

また、宮古地区薬剤師会においては、毎年4月に開催される全日本トライアスロン宮古島大会の救護班を他医療団体とも連携して長年にわたって担当されている。この大会の主催は宮古島市と琉球新報社、主管は宮古島市スポーツ協会と宮古島トライアスロン実行委員会となっていることから、既に、地域活動として申請している薬剤師もいると聞いているので、是非、宮古地区薬剤師会において、同大会での活動を地域活動として活用するよう、地区薬剤師会会員の皆様に周知していただければと思う。

- (2) 平成28年5月19日付 厚生労働省保険局医療課から発出されている事務連絡にも示されているが、「行政機関や地域医師会、歯科医師会、薬剤師会の協力のもとで実施している休日夜間薬局としての対応、休日夜間診療所へ派遣されている場合」や「委嘱を受けて行う学校薬剤師」は地域活動として認められている。

本会では、コロナ禍で対面でのイベントが制限されていた時期には、九州厚生局沖縄事務所に確認を取り、本会が企画した残薬回収月間を地域活動として認めてもらっていたが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、対面でのイベントを開催できることになったため、今年度からは本会及び地区薬剤師会が主催する健康とおくすり相談会や毎年6月に開催される「ダメ。ゼッタイ。」ヤング街頭キャンペーン等に参加していただければと考えている。また、本会が開催するだけでは限りがあることから、地区薬剤師会主催の健康とおくすり相談会等の地域活動も積極的に開催していただきたいと考えている。

活動事例のないものについては、その都度、九州厚生局沖縄事務所に確認していく。

下地仁代議員 質問③：沖縄県薬剤師会の将来像について

琉球大学病院の移転について、沖縄県薬剤師会の収入の多くを担っている会営薬局うえはらは、諸事情により移転せずの決定を行った。それにより、県薬剤師会の財政状況は将来縮小していくことは必然と考える。このことに対し、現状のまま一般社団法人を継続するのか、それとも将来公益社団法人に変更するのか等、県薬剤師会のグランドデザインを検討していく考えはあるのか、伺う。

阿部義則理事 答弁

琉球大学病院移転に伴う会営薬局の敷地内移転については、日本薬剤師会の反対意見等を踏まえ断念したところだ。しかしながら、敷地外への移転や琉球大学病院跡地への他病院の移転による現在地での運営の可能性が無くなったわけではないことから、今後の状況を見ながら慎重に判断すべきものと考えている。

一方、ご質問のように、会営薬局うえはらの廃止を決断した場合には、ご指摘のとおり会の財政状況に大きく影響することとなるものと考えており、会営薬局とよみの運営判断も含め、段階的に将来は、公益認定を受け、より税制上の優遇措置を受けられる体制へと移行していくことも想定される。しかしながら、現時点で、沖縄県薬剤師会の将来像等のグランドデザインと呼べるものはなく、今後、会員のご意見を伺いながら、会の将来構想について検討していきたいと考えている。

<那覇地区薬剤師会>**安次富長洋代議員 質問①：将来の財政予想について**

琉球大学病院が1年半後の令和7年初頭に開院予定と差し迫っている。

現在の場所で運営継続か新病院の敷地外へ移転も考慮すると昨年答弁があったが、その後、特別委員会でどこまで検討されたのか伺う。

現病院の跡地に新しい医療機関の利用もなく、新病院の近くへの移転もない場合の対応について、現在の職員の異動等やどれくらいの赤字が想定されるのか、シミュレーションがあれば聞きたい。

川満直紀副会長 答弁

現時点において、移転後の琉球大学病院の跡地利用について、まだ確定した情報が得られていないため、会営薬局うえはらの存続や運営形態についても、引き続き、今後の状況を見ながら慎重に進めていく必要があると考えている。そのため、特別委員会では議論が特に進展していない状況である。

一方で、ご質問にもあるように、跡地に医療機関も設立されず、新病院近くにも移転しない場合は、ご指摘の通り財政状況が著しく落ち込むことが明白である。現段階で、具体的な損失額を示すことは大変難しい状況だが、3会営薬局全体の事業収益を考慮した職員の体制や配置、税制上の優遇措置を受けられる将来的な公益社団法人への移行等、会営薬局移転推進特別委員会等の関連する委員会や理事会で慎重に検討していきたいと考えている。

安次富長洋代議員 質問②：実務実習指導薬剤師について

沖縄県内に2028年薬学部が開学し、その約5年後には実務実習生が出てくる。

受け入れる薬局、指導薬剤師を今から相当綿密に計画を立てて養成していかなければならないと思われるが、どのようなスケジュールで、どこまで検討されているのか伺う。

また、現状の実績（今までの指導薬剤師の養成人数、現在の人数、県外へいなくなった人数、資格喪失した人数、一度も実習生を担当したことのない指導薬剤師の人数など）を聞きたい。

佐藤雅美常務理事 答弁

沖縄県内に2028年に薬学部が設置されると、2032年2月には実務実習がスタートする。その時点で何人の指導薬剤師が必要になるのか、そのために今後新たに何人の指導薬剤師を養成しなければならないかについて、所管機関である九州山口地区調整機関と話し合いながら進めていきたいと思っている。

その際に参考になるのが、2018年に薬学部を新設し、来年3月に初の卒業生を輩出する山口東京理科大学で、同大学薬学部は、1学年120人前後で、山口県内唯一の薬学部である。現在、薬局に在籍する指導薬剤師が200人程である。この数字が一つの目安になると考えている。

WS（ワークショップ）の人数を増やす時期については、大学と調整機構との契約後になるので、2027年度以降になると思われる。現在のWS参加人数は、年度により割当人数に違いはあるが、6人～10人である。2027年度からは15人～20人程度になると予測している。

薬学生の実習受入については、指導薬剤師の養成も含め、会員の協力なしでは進めることができない。研修会やWSへも積極的に参加していただき、2032年の実習スタートに備えることができるよう、今後ともご協力をお願いします。

次に、ご質問いただいた実績についてお答えする。これまでの指導薬剤師の養成人数は令和5年2月現在で118人、うち、退会者や無職の方、病院勤務を除く現在の薬局での指導薬剤師数は84人。県外へ行かれた方については、県外へ行かれたかどうかの正確な情報はないので退会者として18人。資格喪失した方24人。一度も実習生を担当したことがない方が29人である。

一般関連質問

一般関連質問の時間に入った。同時間は前述の議題及び地区薬剤師会代表質問に関連する質疑応答の時間として設けられている。

那覇東支部の戸田澄之代議員と沖縄支部の普久原隆代議員から質問があった。

戸田澄之代議員 質問

新しい代議員制度になってから、沖縄県薬剤師会の総会に出席するのは今回が初めてである。今回の総会で審議されているのは、前年度（令和4年度）の事業や会計の報告で、新年度（令和5年度）の予算や事業執行の計画が含まれていないが、これらは別の日に改めて総会を開いて審議されるのか。

川満直紀副会長、阿部義則理事 答弁

令和5年度の予算及び事業計画については、3月の臨時総会で、すなわち3月までの任期だった旧代議員により審議が行われ、承認をいただいている。本日の総会には、去る3月10日付けで当選した新代議員が出席しているが、新旧入れ替わりがあっても各支部の代表（代議員）のもとで審議・承認が行われていることをご理解いただきたい。但し、戸田代議員が言われるように、現在の事業計画や予算の執行状況がどうなっているかと思われる代議員が他にもいると思われることから、審議は行わなくとも、3月の臨時総会で決議された内容を、6月の総会でも資料として見ってもらうことを、次回より検討したい。

戸田澄之代議員 質問

例えば、琉球大学病院の移転について、「令和4年度予算・事業計画や各地区薬剤師会からの質問事項についての結果や、令和5年度における重点的な予算の配分」、あるいは、「沖縄県薬剤師会長の考えとして、どこに重点的に予算を配分する」という裏付ける事項があって然るべきだと思う。そうすることで、代議員もそれを各支部（各地区薬剤師会）に持ち帰って、報告することができる。旧代議員で審議・承認を行うよりも、新代議員で事業・予算計画を行うのがより現実的ではないかと思う。

阿部義則理事 答弁

戸田代議員の意見はごもっともである。但し、行政機関からの指導もあり、事業計画と予算は、その当該年度が始まる前までに決定されていなければならない。そのため、事業年度が始まる前の3月に臨時総会を開き、審議・承認をいただいている。

今回のご意見を受けて考えられる対応としては、例えば、執行中の事業の中で新たな課題や重点的な予算配分が必要な場合などには補正予算を組むような場合があるかと思うが、現状ではそ

のような状況にはないと考えているので、決議を受けた新年度の事業計画と予算をしっかりと執行していきたい。

普久原隆代議員 質問

令和4年度の決算は、令和3年度に比べて、補助金が1千万円程増えている。新型コロナウイルス感染症対策関連もあると思うが、これだけの事業を実施したことは凄いと思う。

地区薬剤師会では財政難の状況がある。もし今後もこうした補助を得た事業が継続できるのであれば、地区薬剤師会へ補填することはできないか。

川満直紀副会長 答弁

ご質問にもあったように、補助金の増額分のほとんどが新型コロナウイルス対策に関するものである。県の補助金700万円、国の薬剤交付金等が400万円で、計約1,100万円という内訳である。但し、5類移行に伴い、今後これらの補助は見込めない。その代わり、数年前から県に要望してきた結果、救急医療体制維持のための新たな補助金が決まっている。このように、今後も県や国の新たな補助金を獲得するために、所管課の行政薬剤師と情報交換を行いながら検討していきたいと考える。

<採決（議案第1号、第2号、第3号）>

議長が、議案第1号、第2号、第3号を一議案毎に読み上げ、賛成の挙手による承認を求めた。

議案第1号、令和4年度決算承認の件について、賛成多数で承認された。

議案第2号、一般社団法人沖縄県薬剤師会監事選挙の件については、野崎真敏選挙管理委員長から選挙規則第9条に則って、選ぶべき員数を超えていないので、投票を行わずに、その候補者をもって当選者とする事ができるとの説明があったことから、立候補者2名に対して挙手にて当選の承認を求めた。賛成多数の承認を得て、江夏京子氏と山里勇氏が監事に当選した。

議案第3号、一般社団法人沖縄県薬剤師会理事選出の件については、浅沼健一氏（北部地区薬剤師会代表）、阿部義則氏（法務対策・地域医療提供体制対策担当）、石川恵市氏（中部地区薬剤師会代表、会営薬局担当）、川満直紀氏（財務・地域医療提供体制対策担当）、喜友名朝史氏（青年薬剤師部会代表、地域医療提供体制対策担当）、幸地良信氏（八重山地区薬剤師会代表）、古謝玄太氏（行政薬剤師部会代表、薬学部創設推進・地域医療提供体制対策担当）、古謝真己氏（宮古地区薬剤師会代表）、佐藤雅美氏（薬学生実務実習受入担当）、島袋さゆり氏（卸勤務薬剤師部会代表、保健福祉担当）、知名博樹氏（学校薬剤師部会代表、試験検査センター担当）、知念大輔氏（災害対策担当）、名嘉紀勝氏（南部地区薬剤師会代表）、中村克徳氏（学術研修担当）、姫野耕一氏（病院薬剤師部会代表、災害対策・地域医療提供体制対策担当）、前濱朋子氏（会長候補者）、又吉智賀子氏（那覇地区薬剤師会代表、保健福祉担当）、宮城幸枝氏（医療保険担当）、村田美智子氏（女性薬剤師部会代表、保健福祉担当）、吉田典子氏（薬事情報）、以上の候補者が、賛成多数で理事就任を承認された。

議題を滞りなく進行した議長と副議長が降壇し、進行を司会に移した。

今回、新役員が承認されたことで、新任の理事4名（喜友名朝史氏、古謝玄太氏、知念大輔氏、又吉智賀子氏）を登壇させ、紹介した。

次に、退任する理事3名（盛本直也氏、西川裕氏、上原卓朗氏）を登壇させ、一言ずつ挨拶をいただいた。

最後に、村田美智子副会長が、多忙の時節に定時総会に参集いただいたこと、報告事項、議案事項について承認をいただいたことについて御礼を述べた上で、一般関連質問において2氏の代議員から質問が出たことに触れ、「薬剤師会を育てるのは代議員でもあり、今後も支部（地区）の代表として地区薬剤師会と県薬剤師会の繋役として、多くの意見を出していただきたい。また、前任の代議員からバトンを受け継いだ各支部（地区）の代表者でもあるため、それを念頭に役割を果たしてほしい。」と、今後の更なる会の発展のために協力を求め、閉会した。

（報告：事務局 徳元あおい）

[第88回定時総会出席者]

敬称略

<理事・監事>

- | | | |
|----------------|-----------------|----------------|
| ○前濱 朋子（会長） | ○川満 直紀（副会長） | ○中村 克徳（副会長） |
| ○村田美智子（副会長） | ○佐藤 雅美（常務理事） | ○西川 裕（常務理事） |
| ○宮城 幸枝（常務理事） | ○盛本 直也（常務理事） | ○阿部 義則（法務対策担当） |
| ○浅沼 健一（北部地区代表） | ○石川 恵市（中部地区代表） | ○名嘉 紀勝（南部地区代表） |
| ○古謝 真己（宮古地区代表） | ○幸地 良信（八重山地区代表） | ○島袋さゆり（卸部会代表） |
| ○知名 博樹（学薬部会代表） | ○上原 卓朗（青年部会代表） | ○吉田 典子（薬事情報担当） |
| ○江夏 京子（監事） | ○山里 勇（監事） | |

<代議員>

- | | | |
|---------------|----------------|---------------|
| ※玉城 純（名護支部） | ○藤田 由（宜野湾支部） | ○久場 良幸（浦添支部） |
| ※西坂 順（名護支部） | ○新垣 紀子（首里支部） | ○杉山 英司（浦添支部） |
| ○屋嘉比康作（名護支部） | ○仲村喜久子（那覇東支部） | ○鈴木 一徳（浦添支部） |
| ※江夏 恭範（うるま支部） | ○大城 聖子（那覇東支部） | ○武富 弘記（浦添支部） |
| ※瑞慶山純子（うるま支部） | ○玉村 澄恵（那覇東支部） | ○日高久美子（浦添支部） |
| ○徳嶺 恵子（うるま支部） | ○戸田 澄之（那覇東支部） | ※新垣 秀幸（糸満支部） |
| ○福地 健治（うるま支部） | ○普天間公子（那覇東支部） | ○伊敷松太郎（糸満支部） |
| ○阿嘉 秀寅（沖縄支部） | ※又吉 晴美（那覇東支部） | ○小湾 勝敏（糸満支部） |
| ○内嶺 陽平（沖縄支部） | ○安次富長洋（那覇北支部） | ○松本 圭五（糸満支部） |
| ○玉城 幸輝（沖縄支部） | ○平良 博文（那覇北支部） | ○川上雄一朗（南風原支部） |
| ○玉城 武範（沖縄支部） | ○宮本 直樹（那覇北支部） | ※川上 善久（南風原支部） |
| ○普久原 隆（沖縄支部） | ○池村由美子（那覇中央支部） | ○城間 盛伸（南風原支部） |
| ○諸見里めぐみ（沖縄支部） | ○大沼 優子（那覇中央支部） | ○鈴鹿 玲子（南風原支部） |
| ○四谷 祐子（沖縄支部） | ※小湾 喜彦（那覇中央支部） | ☆知念 大輔（南風原支部） |
| ○藤原 明人（嘉手納支部） | ○國吉 直子（小禄支部） | ○下地 仁（平良支部） |
| ○新垣 慶朗（宜野湾支部） | ◎又吉智賀子（小禄支部） | ○新嵩 由香（石垣支部） |
| ※新川 祥平（宜野湾支部） | | |

☆議長 ◎副議長 ○現地出席 ※議長委任

第88回総会資料

<報告第1号 令和4年度会務並びに事業経過報告>

令和4年度 会員・薬局等の業態現況報告

(1) 会員数

令和5年3月末現在

① 正 会 員	1,237 人	(A会員 583人、B会員 584人、C会員21人、特別会員A 8人、特別会員B 32人、特別会員C 9人)
(内 訳)	【前年度比較】総会員数 13人増 (A会員1人減、B会員12人増、C会員3人増、特別会員A1人減、特別会員B3人増、特別会員C3人減)	
名 誉 会 員	2 人	新垣正次、長嶺義仁
薬 局 開 設 者	171 人	
一 般 販 売 業	29 人	
卸 勤 務 薬 剤 師	28 人	
勤 務 薬 剤 師	848 人	薬局(788)、病院(59)、製輸(1)
そ の 他	159 人	行政(21)、教研(1)、他職勤務者(25)、無職(103)、学生(9)
② 賛 助 会 員 A	26 人	
合 計	1,263 人	① (1,237人) + ② (26人)

(2) 薬局開設者等 (前年度との比較)

令和5年3月末現在

	令和3年度	令和4年度	増減
薬 局 開 設 者	178 人	171 人	-7 人
一 般 販 売 業	30 人	29 人	-1 人
卸 売 一 般 販 売 業	27 人	28 人	1 人
勤 務 薬 剤 師	829 人	848 人	19 人
保 険 薬 剤 師	1,072 人	1,094 人	22 人
そ の 他	159 人	159 人	0 人

(3) 保険薬局等 (前年度との比較)

令和5年3月末現在

	令和3年度	令和4年度	増減
保 険 薬 局	549 軒	546 軒	-3 軒
処 方 箋 応 需 薬 局	544 軒	541 軒	-3 軒

第88回総会資料

令和4年度事業経過報告

1. 沖縄県内の国公立大学への薬学部創設に向けての活動

令和4年度における沖縄県内の国公立大学への薬学部創設を求めるための活動の経緯は下記のとおりである。

令和4年5月14日（土）沖縄ハーバービューホテル

翌5月15日の本土復帰50周年記念式典に岸田文雄内閣総理大臣が参列のため来沖に合わせて意見交換会が開催され、本会から前濱朋子会長、川満直紀副会長、大城喜仁事務局次長が出席した。

沖縄県内の国公立大学に薬学部を創設する活動の経緯と沖縄県内の現状を端的に説明のうえ、「県内国公立大学に薬学部を創設することにより、薬剤師不足による地域の医療提供体制の格差是正だけでなく、沖縄の天然資源を利用した医薬品開発の推進や医薬品製造に関連した新たな産業振興等が期待される。現在、琉球大学や名桜大学において薬学部創設について検討いただいているが、国立大学の定員の問題や建設費の財源等、様々な課題があり、大学側だけでは課題解決が大変難しいと聞いている。沖縄県は復帰50周年を迎えるが、これまで県内では薬剤師の養成教育が行われておらず、SDG s の目標4『質の高い教育をみんなに』の達成のためにも、岸田総理には、是非、県内国公立大学への薬学部創設の実現に向けて、力添えをいただきたい。」と記載した要請文を事前に提出した。

令和4年9月30日（金）沖縄県市町村自治会館

第1回 県内国公立大学薬学部設置推進協議会が開催された。

令和4年度から開催の同協議会では、主に「沖縄県内国公立大学薬学部設置に関する基本方針」について協議するが、その他にも、県内国公立大学への薬学部設置の推進に必要な事項について協議する。協議会の委員構成は、太田 茂（公立大学法人和歌山県立医科大学薬学部長）、佐々木 有朋（公立大学法人山陽小野田市立山口東京理科大学事務局長・理事）、糸数 公（沖縄県保健医療部部長）、平良 喜彦（国立大学法人琉球大学総合企画戦略部部長）、金城 正英（公立大学法人名桜大学学長補佐（法人企画戦略担当））、中村 克徳（沖縄県病院薬剤師会会長）、前濱 朋子（一般社団法人沖縄県薬剤師会会長）で、前濱朋子会長は委員長に就任した。

薬学教育をとりまく環境と県内での薬学部新設の効果等の調査結果の説明があった。県内国公立大学における薬学部設置の意義と期待される役割、県内国公立大学への薬学部設置において求められる県の支援等について意見交換がなされた。

また、文部科学省は、原則として薬学部新設を認めないとの方針を示しているが、薬剤師の地域偏在の解消が必要な地域については、一定の期間において、例外措置としての設置を認めるとしており、沖縄県内での薬学部新設の時期を早急に明確化する必要があることを確認した。

令和4年11月14日（月）沖縄県市町村自治会館

第2回 県内国公立大学薬学部設置推進協議会が開催された。

主に、「沖縄県内国公立大学薬学部設置に関する基本方針」（素案）について、ロードマップに関すること、薬学部設置に当たって想定する県の支援、薬学部設置を支援する大学の選定などの意見交換を行った。また、沖縄県における薬学部設置の最大の目的は薬剤師の偏在解消であり、薬剤師を輩出するために薬学部を設置することを強く打ち出す必要があることを盛り込むことの確認をした。

また、県内国公立大学への薬学部設置に向けた課題についても話し合われた。沖縄県出身高校生の薬学部進学者数と卒業後の県内勤務薬剤師の試算は、現在9～10歳の子どもたちが大学を受験する時の人口を踏まえて行う必要があることや、県内出身の学生が地域枠で入学しても、都会に憧れて県外に流出する卒業生も出てくると考えられるので、県内に残ってもらえるような制度などを工夫する必要がある。

令和5年1月16日（月）沖縄県市町村自治会館

第3回 県内国公立大学薬学部設置推進協議会が開催された。

「沖縄県内国公立大学薬学部設置に関する基本方針」（案）について意見交換を行った。ロードマップに関しては、薬学部開設が前回の素案から3年短縮されているが、人口減少や社会経済状況の変化に対応するためにも、関係者間の調整等により、もう1年ぐらいは短縮する。薬学部設置に当たって想定する県の支援については、建設工事をいかに前倒しにするかが、期間短縮につながるポイントであるが、そのためには財源確保の確認が必要である。県の支援は必須となることから、関係各所ともう少し調整を行う必要があるため、最終形については委員長預かりとする。その他に、地域枠の学生確保に対する県からの支援があれば、学生確保がかなり容易になり、大学運営上のプラスになるとの意見も交わされた。

また、設置する薬学部の入学定員については、今後の18歳人口の減少を見据えると80名が妥当であるが、附属病院がない大学に薬学部を設置する場合、実習先確保のためにかなり頑張らなければならないと思われることなどの意見も交わされた。

令和5年12月9日（木） 沖縄県立博物館・美術館 講堂

薬学部設置をさらに推進するためには、県民等の機運を醸成することが必要不可欠であることから、「令和4年度県内国公立大学薬学部設置シンポジウムー沖縄の新たな未来へ 薬学部設置ー」を開催した。本シンポジウムでは、県が決定した「沖縄県内国公立大学薬学部設置に関する基本方針」（別紙）の説明、薬学部設置による地域医療の向上・地域連携促進に関する講演、「薬学部の設置が地域社会にもたらす効果」をテーマに、パネルディスカッションが実施された。

基本方針の説明では、薬学部設置にあたって想定する県の支援のほか、令和10年4月までの開学目指すためのロードマップ等を示した。

講演では、和歌山県立医科大学の太田茂氏と昭和薬科大学の吉永真理氏から、地域医療への貢献、地域活性化、大学と地域が連携したまちづくりなど、先進的な事例を紹介いただいた。

さらに、パネルディスカッションでは、5名のパネリストが登壇し、沖縄県薬剤師会、その他関係機関による薬学部設置に向けた働きかけの経緯、県内に薬学部が設置されることの意義・効果、薬学部設置がもたらす沖縄の新たな未来への期待について、意見交換が行われた。本会の前濱朋子会長がコーディネーターとなった。

2. 地域医療提供体制対策

地域包括ケアシステムを基盤とした地域医療や保健等の提供体制における「患者のための薬局ビジョン」の実現に向けた薬局のあり方に係る「地域や病院（行政や他医療職種および病院薬剤師等）との連携に係る事業の企画」「かかりつけ薬局・薬剤師を基盤とする健康サポート薬局、地域連携薬局・専門医療機関連携薬局といった薬局の理念、機能を発揮できる環境整備のための各種施策の検討や実施」を行った。薬剤師が本来の役割を果たし、地域の患者を支援するための患者本位の医薬分業を実現するため、以下の事業を行った。

(1) 地域医療提供体制対策委員会主催研修会

令和4年9月4日に現地とWebのハイブリッド型配信を用いて、地域医療提供体制対策委員会主催研修会を開催した。同研修会のテーマが「心不全」だったことから、講師には心不全分野に造詣が深い、社会医療法人誠光会淡海医療センター薬剤部の大橋泰裕氏を招き、「実践！服薬フォローアップ～途切れない情報共有のためにできること～」と題し、オンラインより講演していただいた。

(2) 薬薬連携会議の開催（薬薬連携及び医療従事者間の連携事業推進）

令和4年9月4日に県内広域病院薬局長、各地区薬剤師会長、本会会長・副会長・常務理事及び薬薬連携担当者が参加し、薬薬連携会議を開催した。テーマを「心不全の薬薬連携」とし、同日研修会で講演いただいた大橋泰裕氏の講演内容を踏まえ、現地とWebのハイブリッド形式でディスカッションを行うことができた。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響より3年振りの開催となった。

(3) 健康サポート薬局100軒実現に向けての研修会

昨年度に引き続き、健康サポート薬局届け出数の増加を目的とし、それをめざす会員の便に供するために同研修会を開催した。

- 健康サポートのための多職種関連研修会 : 令和4年6月12日 参加者13名
- 健康サポートのための薬剤師の対応研修会 : 令和4年6月12日 参加者8名
- 無菌調剤共同利用施設の活用に関する研修会 : 令和5年2月13日 参加者8名

(4) 訪問薬剤管理指導推進事業の実施

- 同行訪問 1薬局にて6軒の患者宅を訪問した。(講師：石田 浩)
- 多職種連携会議への派遣
多職種連携会議・多職種コンソーシアム実践研修会へ薬剤師の派遣をした。
(助言者：金城 千春、副助言者：宮本 直樹)

(5) その他

- 令和4年度「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業【第2期】」における都道府県薬剤師会実施事業（モデル事業）に係る説明会
(参加者：西川 裕、盛本 直也) 令和4年11月1日
- 令和4年度「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業【第2期】」における事業1に係る説明会（参加者：西川 裕、盛本 直也） 令和5年1月16日

- 令和4年度「薬局ビジョン実現に向けた薬剤師のかかりつけ機能強化事業【第2期】」
における事業1に係る5疾病及びAMR対策に関する研修コンテンツに関するアンケート調査
(回答者：西川 裕、島袋 さゆり、吉田 典子)
- 令和4年度かかりつけ薬剤師・薬局推進指導者協議会
(参加者：西川 裕、阿部 義則) 令和5年3月17日
- 薬と健康の週間における県民への「かかりつけ薬剤師・薬局」の啓発
地元紙へ投稿：令和4年10月17日掲載
(執筆：浅沼 健一 理事：沖縄タイムス、阿部 義則 理事：琉球新報)

3. 生涯学習

(1) 新任・新人薬剤師研修会

令和4年7月3日にWebで開催し、39名の参加があった。

研修会では、「医薬品情報業務について」を薬事情報委員会の石井秀典氏が担当し、DI業務、情報検索の基本、検索サイト紹介など多岐にわたる有益な講義であった。「薬歴の書き方について」は、琉球大学病院薬剤部の池村憲明氏に薬歴の書き方について講義いただいた。「薬薬連携について」は、那覇市立病院薬剤部長の金城雄一氏と、すこやか薬局松島店管理薬剤師の古堅直也氏に講義いただいた。講義後は各部会について、行政薬剤師部会から沖縄県保健医療部衛生薬務課の石川理奈氏、学校薬剤師部会から知名博樹副部会長、女性薬剤師部会部から草壁瑞恵部会長、青年薬剤師部会から上原卓朗部会長が部会紹介を行った。講師やテーマを工夫することにより、連続聴講しても実りのある研修会となるよう今後も努力したい。

(2) 第35回沖縄県薬剤師会学術大会

令和4年10月23日にWebにて「50年後の沖縄県を見据えた薬剤師像」をテーマで開催された。今回もコロナ禍であることを踏まえ、Web参加型の開催とし、演者や大会関係者以外はオンラインでの参加となった。参加者は187名（県薬121名、病薬64名、薬学生2名）。中尾滋久大会実行副委員長の司会進行のもと、中村克徳大会副会長と前濱朋子大会会長の挨拶が続いた。

会員発表の部では、琉球大学病院薬剤部の池村憲明氏、大会委員の盛本直也氏の2氏が座長を務め、病院薬剤師関連から6演題、保険薬局・その他部会関連から7演題の合計13演題が発表された。大会奨励賞は、病院薬剤師関連部門では、中頭病院の池間瑞葵氏による「薬剤師から見た当院における骨折リエゾンチームの取り組み」が、保険薬局・その他関連部門では、薬事情報委員会の石井秀典氏による「海外のICT活用例から考える、今後の薬剤師業務」が受賞した。

特別講演では、琉球ミライ株式会社の古謝玄太氏に「沖縄県の未来づくり～薬剤師の皆様とつくりたいこの島の未来～」を講演いただき、大変好評であった。

その他、最新の自動調剤機器や薬歴システム等、10社の協賛企業の広告放映があり、潮平英郎大会実行委員長による閉会の辞で盛会の内に幕を閉じた。

九州山口地区において学術大会を継続開催している県は沖縄、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分の6県であり、令和4年で35回目を迎えられたことは大変誇れることである。

(3) 令和4年度第1回沖縄県薬剤師研修協議会主催講演会

(日本薬剤師研修センター研修会開催支援業務)

令和4年11月27日（日）ハイブリッド式にて開催し、現地15名、Web89名、計104名の参加があつ

た。テーマを「薬物動態と副作用・相互作用」とし、同分野に造詣が深い昭和薬科大学薬学部・薬物動態学研究室教授の山崎浩史氏を講師に招き、薬物療法時の相互作用や、薬物血中濃度とシミュレーションの視点など多岐にわたる有益な講演をいただいた。

**(4) 令和4年度第2回沖縄県薬剤師研修協議会主催講演会
(日本薬剤師研修センター研修会開催支援業務)**

令和4年12月18日（日）ハイブリッド式にて開催し、現地14名、Web79名、計93名の参加があった。テーマを「漢方薬はなぜ効くのか？～『証』の科学的解明に向けた挑戦～」とし、同分野に造詣が深い慶應義塾大学薬学部・大学院薬学研究科 医療薬学・社会連携センター医療薬学部門教授の中村智徳氏を講師に招き、漢方薬の特性や現在進行中の漢方研究など多岐にわたる有益な講義であった。

4. 医療安全対策

(1) 令和4年度医療安全講習会を開催

日時：令和5年2月19日（日）13：00～14：45 会場：沖縄県薬剤師会会館ホール

参加：164名（会場19名、Web145名）

<プログラム>

「調剤事故事例と事故発生時の対応」 講師：薬事情報担当理事 吉田 典子

「RMP（医薬品リスク管理計画）の活用について」

講師：中外製薬株式会社 安全性コミュニケーション部

スペシャリティー SE2G 兼 戦略企画 G 富谷 聡学

「添文ナビの気になるところ」 講師：薬事情報委員会 副委員長 中尾 滋久

(2) DEM（薬剤イベントモニタリング）事業

調査期間：令和5年2月1日（水）～2月28日（火）

(3) 高度管理医療機器販売等に係る継続研修会

医療機器販売等の営業所管理者・医療機器修理業の責任技術者に対する継続研修

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため、Web開催となった。：Web 251名

受講期間：令和4年12月1日（木）～12月7日（水）

(4) 新型コロナウイルス感染症対策関連

①新型コロナウイルスワクチン専門電話相談事業（沖縄県委託業務）

令和3年3月15日より事業開始、令和5年4月現在、継続事業となっている。

令和5年3月17日、24日には相談員の新規募集を行った。

・相談員： 延べ497名 ・調査件数： 665件 ・質問者数： 258人

②研修会開催

パキロビッド薬物相互作用対策に関する研修会

日時：令和4年5月30日（月）19：00～20：30 会場：沖縄県薬剤師会会館ホール

参加：97名（会場12名、Web85名）

<プログラム>

「パキロビッドの使いどころと、今後の流行の見込み」

講師：沖縄県立中部病院 感染症内科医師 横山 周平

「外来における新型コロナウイルス感染症の軽症・中等症Ⅰ患者を対象とする経口内服薬（抗ウイルス薬）について ～パキロビッド薬物相互作用対策を中心に～」

講師：薬事情報委員会委員長 糸嶺 達

③医療用抗原定性検査キットと解熱鎮痛薬の備え・検査キット販売薬局一覧について広報

○全保険薬局へ患者等の来訪者に周知するようFAX一斉同報を行った。（令和4年11月4日）

○県庁内記者クラブの会見で県民に対し販売薬局一覧を利用するよう呼びかけた。（令和4年11月11日）

○地元紙の副読紙（週刊ほ～むふらざ）の取材を受け、第8波に向けての対策とキット・市販薬の常備を呼び掛けた。（令和5年1月12日号掲載）

④医療用抗原定性検査キット販売薬局の案内窓口設置

県民が近隣の薬局で医療用検査キットを入手できるよう令和4年12月28日に薬事情報センターに案内窓口を設置した。地元放送局の取材、本会制作のTVCM放送、地元紙2社の紙面にある救急当直医欄等で周知した。問い合わせ件数は、令和5年3月31日現在132件。

5. 医療保険

8月19日に本会館ホール及びWebにて新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら会員向けに「令和4年度調剤報酬請求業務講習会」を開催した。

同講習会では、令和4年度の調剤報酬改定に係る調剤報酬請求業務の基礎と算定誤りの多い事例等について講習を行った。参加者は、189名（現地10名、Web179名）であった。また、同講習会にて録画した内容を薬局従事者も閲覧できるよう9月1日～9日まで本会ホームページでYouTubeにて公開し、1,740回の再生回数があった。

8月30日には、内閣府 食品安全委員会事務局 評価第一課長（前：厚生労働省保険局医療課薬剤管理官）の紀平哲也氏に、「令和4年度調剤報酬改定と薬剤師・薬局へのメッセージ」と題して、ご講演いただいた。参加者は105名（現地7名、Web98名）であった。

12月6日には、令和5年4月から施行されるオンライン資格確認の導入の原則義務化および令和5年1月からの電子処方箋運用開始に係る説明会を厚生労働省から講師2人をお招きし、導入方法や補助金等について具体的にご説明いただいた。参加者は134名（現地8名、Web126名）であった。

新型コロナウイルス感染症関連では、薬局における自宅療養等の患者に対する薬剤交付支援事業を厚生労働省から委託され実施し、全保険薬局に新型コロナウイルス感染症の自宅療養及び宿泊療養の患者に対して、薬局から患者宅等に薬剤を配送する場合の配送料を支援する事業の周知・対応を行った。同事業の対応薬局数は64薬局、対応件数1,940件、補助金額2,407,508円であった。また、同感染症に係る診療報酬上の臨時的な取扱いや、調剤報酬に関連する通知が発出された際には、その都度、全保険薬局にFAX一斉同報および本会ホームページにて周知した。

令和4年度に実施された指導は、九州厚生局による集団的個別指導42薬局、個別指導2薬局、新規個別指導15薬局、集団指導（新規指定）16薬局、集団指導（新規登録）49名、更新時集団指導32薬局であり、医療保険委員会からも指導立会者を派遣した。

おきなわ薬剤師会報に「調剤報酬請求業務Q&A」を掲載し、算定誤りの多い事例を周知した。

6. 保健福祉

(1) 健康とおくすり相談会等の薬剤師の予防医療に関わる事業

新型コロナウイルス感染者数が減少したため、12月と3月に約3年ぶりとなる健康とおくすり相談会を開催することができた。1回目は、琉球新報社にて10:00～16:00まで開催し、相談員13名、来場者57名と多くの方に来場いただいた。2回目も同じ場所・時間にて開催し、相談員20名（薬剤師7名、実習生13名）、相談員54名の参加があった。

参加者には、かかりつけ薬剤師の届け出要件の一つである地域貢献事業の参加に該当することを証明する参加証を発行した。

(2) 薬剤師の地域貢献に関する事業

昨年に引き続き、残薬回収月間を行った。令和4年度は3クール(第1クール:4月1日～5月31日、第2クール:8月1日～9月30日、第3クール:12月1日～1月31日)に分けて実施した。

延べ181名の薬剤師が参加し、患者・来局者への総声掛け数42,655名、残薬回収等の対応を行った方994名と多くの実績が得られた。同月間は残薬回収だけではなく、患者とのコミュニケーション向上やコンプライアンスの向上にもつながることが期待できる。

参加者には、かかりつけ薬剤師の届け出要件の一つである地域貢献事業の参加に該当することを証明する参加証を発行した。

(3) 自殺予防・対策事業

平成10年に3万人を超えた全国の自殺者も平成18年には自殺対策基本法が制定され様々な事業が全国で展開される中、平成23年には14年ぶりに3万人を切り、令和元年まで20,169人と減少してきた。しかし、令和2年は21,081人、令和3年は21,007名、令和4年は21,584名（速報値）となっており、コロナ禍前と比べ増加している現状がある。これらのことから沖縄県自殺対策連絡協議会は、引き続き関係機関と連携し自殺対策に取り組むことになっている。

研修会については、今年度も「気づき」「傾聴」「つなぐ」「見守る」ことを修得し、薬剤師としてスキルアップすることを目的に、令和5年3月12日に田崎病院の仲本晴男先生を講師に招き、ゲートキーパースキルアップ研修会を開催した。参加者は52名（現地7名、Web45名）であった。最後に、例年のように9月と3月に、国や県が制作した啓発ポスターを会員薬局に配付し、自殺予防広報を行った。

(4) 薬剤師認知症対応力向上研修

平成28年度より沖縄県の委託事業として行っている。令和4年度より、薬学的管理を適切に行い、認知症の人への支援体制構築の担い手となるためにテキストが改訂され、カリキュラムも変更となった。研修会は9月11日に現地とWebのハイブリッドにて開催した。参加者は80名（現地2名、Web78名）であった。これにより、延べ590名の薬剤師が研修し、修了者には沖縄県より修了証が発行されている。

(5) 禁煙事業について

平成19年に発足した県薬剤師会の禁煙支援サポート薬局・薬剤師の認定制度（3年毎更新）は、令和4年度末で認定薬剤師は71名、禁煙サポート薬局は18軒であった。以前より、禁煙支援に携わる薬剤師のモチベーションを高く維持するための工夫が必要であることが本年度も確認さ

れ、薬局における禁煙補助薬の販売ならびに指導について取り組むこととした。しかし、令和4年度は、禁煙サポート薬局支援継続事業として、例年実施している「禁煙アドバイザー育成講習会（日本禁煙科学会と共催）」も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から令和3年度に引き続き実施できなかった。また、県内の禁煙事業を多職種で集まって報告を行う“沖縄県禁煙協議会総会”も同様の理由から実施されなかった。

一方、学校薬剤師を中心とした教育現場における防煙（初めの1本を吸わせない）活動については継続して行われたと思われた。これらの活動が小学校から高等学校・専門学校の児童・生徒に対して継続して展開していることは、喫煙防止に大いに貢献するものである。加えて、「新型タバコ（加熱式タバコ、電子タバコ等）」についての情報提供も引き続き行った。さらに、健康増進法改正に伴う受動喫煙対策ならびにタバコはCOPDの大きなリスクファクターとしての位置づけからの禁煙・防煙活動の啓発も視野に取り組んだ。

(6) 地域ケア会議

平成30年度より全面実施の運びとなっている地域包括ケアに基づいた地域ケア会議において、薬剤師は“専門職アドバイザー、助言者”として参加が要請される。

沖縄県内における当事業の専門職アドバイザーの養成のための講習会は、沖縄県理学療法士協会が県より委託を受けた事業を行っており、当会は当初よりこの協力メンバーの団体の一つとなっている。令和4年度もこれらの事業の研修会（多職種コンソーシアム実践研修会：令和4年10月23日 ハイブリッド開催）に助言者及び副助言者を派遣した。同研修会は、昨年度より中央型から地域型へと変革されており、地域の市町村から委託を受けた各団体が出向き、活動する方向性となっている。

(7) オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤に関する研修会

令和4年10月2日に現地とWebのハイブリット形式にてDVD研修会を開催した。参加者は42名（現地3名、Web39名）であった。

予期せぬ妊娠を防ぎたい女性が必要な相談窓口に接し、安心・適切に緊急避妊薬にアクセスできる体制を構築するべく、研修会を継続して実施する。今後は、薬局での現状報告の共有および薬剤師の対応を再確認するためのフォローアップも行っていく。

また、厚生労働省のホームページへ緊急避妊薬の在庫を備蓄し、対応が可能な薬局として52薬局、薬剤師88名のリストを提出し、掲載されている。

7. 薬学生実務実習受入

実習生受け入れ13年目になるこの年は、16大学より1期17名、2期17名、3期2名、合計36名の実習受入を行った。大学の内訳は以下の通りである。第一薬科大学4名、九州保健福祉大学2名、福岡大学6名、長崎国際大学4名、崇城大学2名、徳島文理大学2名、山口東京理科大学1名、神戸学院大学2名、名城大学2名、広島国際大学3名、愛知学院大学2名、横浜薬科大学1名、金城学院大学1名、武蔵野大学2名、千葉科学大学1名、日本薬科大学1名。

認定実務実習指導薬剤師養成のための講座は、新規2回、更新2回開催し、認定実務実習指導薬剤師の養成のためのワークショップへは10名派遣した。

他に、早期体験実習10名を受け入れた。

8. 災害支援対応

沖縄県災害医療コーディネート研修会へ参加。沖縄県での被害想定について講義があり、グループに分かれて実際の災害を想定して、実践に則した演習を行った。

研修会関連では、8月25日（木）に、福岡大学薬学部の江川孝教授をお招きし、新興感染症への薬事対応と国際的人道支援と題して、台風や地震等の自然災害時のみならず、新興感染症や有事の際の薬事対応についての講演会を開催した。参加者は57名（現地7名、Web50名）であった。

12月19日（月）には、医療・保健・福祉が連携し、災害時に薬・処方箋が途切れることのない地域や街を如何に作っていくか薬剤師自ら認識して、スキルを習得する目的で薬剤師のための災害医療スキルアップセミナー in沖縄を開催した。参加者は94名（現地19名、Web75名）で、薬剤師のみならず、行政からの参加もあった。

災害時の刻々と変化する被害状況や医薬品の供給要請に対応するための情報を、収集し評価することが、災害対応の要と考え、FAXによる情報収集ではなく、情報収集システムを独自に検討し、試験運用を行いブラッシュアップしている。次年度も継続してより良いものを検討する。

新型コロナウイルス感染症関連の対応では、沖縄県病院薬剤師会や沖縄県、日本薬剤師会、その他関係団体と連携を取りながら以下の対応を行った。

- 沖縄県の新型コロナワクチン接種率が全国平均より低いことから、ワクチン接種推進担当の松野博一内閣官房長官が来沖され、沖縄県医師会、沖縄県看護協会と共にワクチン接種推進に係る意見交換を行った。
- 県民が近隣の薬局で体外診断用医薬品または第1類医薬品の抗原検査キットを入手できるよう、販売薬局一覧を昨年度に引き続き本会ホームページにて公表した。また、同一覧を沖縄県ホームページ、県内2紙（琉球新報、沖縄タイムス）、各関係機関にて周知し、県内2紙の当日の救急当直医欄に新型コロナウイルス抗原検査キット販売案内窓口を掲載した。
- 第7波の8月には、抗原検査キットを求める県民の需要が大いに高まり、夜間休日等の販売に対応するため、平日の夜と土日祝日に役員等の協力も得ながら、会営薬局を臨時的に営業時間を変更してキット販売に徹した。
- 12月20日、21日に抗原定性検査キットの販売体制の整備・充実にに関して、各地区薬剤師会、日本薬剤師会、他県薬剤師会、厚生労働省と意見交換会を行った。
- 本会が薬と健康の週間の周知のため作成したCM動画にテロップを追加し、発熱等の体調不良時に備えた検査キットと解熱鎮痛薬等を予め購入して備えておく旨のテレビコマーシャルを県民へ周知した。
- 日本薬剤師会や沖縄県、関係団体等と情報共有し、保険薬局・会員向けにFAX一斉同報（計24回）を行い、本会ホームページ等にて情報提供を行った。
- 昨年度に引き続き、沖縄県からの依頼で県内全保険薬局に自宅等療養者へ薬剤の配送に対応できる薬局をリスト化し、計94薬局のリストを提出した。
- 新型コロナとインフルエンザが同時流行した時期には、沖縄県医師会からの依頼により、沖縄県小児等発熱軽症者抗原検査センター（1月8日～2月12日の日・祝のみ運営）にてインフルエンザの陽性が判明した方へ発行される院外処方箋の対応を会営薬局医療センター前および近隣のすこやか薬局新川店、ミント薬局真地店、サン薬局と連携して開局し、延べ508名の患者対応を行った。
- 那覇市医師会が軽症者発熱外来を設置することになった際には、同外来の運営にあたり本会より役員を派遣し、現地の視察を行い、助言等を行った。同外来には、那覇地区薬剤師会にて輪番薬剤師を募り、派遣を行った。

○沖縄県及び県内離島町村から新型コロナウイルスワクチン接種会場におけるワクチン充填業務の派遣依頼があったため、沖縄県病院薬剤師会と連携し以下のとおり薬剤師の派遣を行った。

- 【4月】 多良間村 派遣日数：1日 派遣人数：1人
- 【5月】 多良間村 派遣日数：1日 派遣人数：1人
南大東村 派遣日数：1日 派遣人数：1人
北大東村 派遣日数：1日 派遣人数：1人
- 【6月】 南大東村 派遣日数：1日 派遣人数：1人
北大東村 派遣日数：1日 派遣人数：1人
- 【7月】 座間味村 派遣日数：2日 派遣人数：2人
南大東村 派遣日数：1日 派遣人数：1人
北大東村 派遣日数：2日 派遣人数：1人
- 【10月】 南大東村 派遣日数：1日 派遣人数：1人
- 【11月】 座間味村 派遣日数：1日 派遣人数：2人
- 【12月】 南大東村 派遣日数：1日 派遣人数：1人

9. 部会活動

(1) 学校薬剤師部会

①令和4年度学校薬剤師部会新人研修会

令和4年4月17日 沖縄県薬剤師会館及びWeb 講師：新垣紀子、知名博樹、上原卓朗
参加者 36名（現地 12名、Web 24名）

②令和4年度学校環境衛生・安全管理講習会

令和4年5月19日 沖縄県立総合教育センター 講師派遣：上原卓朗

③第50回学校薬剤師部会総会

令和4年7月10日 沖縄県薬剤師会館及びWeb

④令和4年度学校薬剤師部会主催研修会

令和4年7月10日 沖縄県薬剤師会館及びWeb
講師：アース製薬（山本先生）参加者 38名（現地 17名、Web 21名）

⑤令和4年度全国学校保健調査

令和4年6月～9月

項目：2021年度の換気対策、室内温湿度、プールの施設及び水質検査の定期検査
新型コロナウイルス感染症対策について等

⑥令和4年度第1回・第2回・第3回薬学実務実習生向け学校薬剤師説明会

第1回 令和4年6月30日 沖縄県薬剤師会館 講師：知名博樹
第2回 令和4年10月27日 沖縄県薬剤師会館 講師：知名博樹
第3回 令和5年4月6日 沖縄県薬剤師会館 講師：知名博樹

⑦令和4年度新任・新人薬剤師研修会（WEB）

令和4年7月3日 沖縄県薬剤師会館 講師派遣：知名博樹

⑧令和4年度日本薬剤師会学校薬剤師部会 環境衛生検査技術講習

令和4年8月21日（東京・竹橋） 派遣：新垣紀子

⑨第81回九州山口薬学大会 令和4年9月18日・19日

学校薬剤師協議会運営委員会 出席者：新垣紀子、知名博樹
シンポジウム（コロナ禍での学校薬剤師活動） 講師：新垣紀子

⑩第35回沖縄県薬剤師会学術大会（学校薬剤師部門）

令和4年10月23日 演題発表者：新垣紀子、久手堅奈央

⑪全国学校保健安全研究大会（盛岡市市民文化ホール・岩手県民情報交流センター）

令和4年11月10日 出席者：村田成夫

⑫令和4年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議大会（和歌山市）

令和4年11月17日・18日 出席者：長瀬涼

⑬令和4年度学校薬剤師部会九州ブロック連絡会議

令和4年12月3日 福岡県薬剤師会 出席者：前濱朋子、村田成夫、知名博樹

⑭「沖縄県未来の産業人材育成事業での講師派遣」（医療分野：薬剤師の職能について）

令和4年12月21日 沖縄市立美里小学校 講師派遣者：知名博樹

⑮令和4年度日本薬剤師会学校薬剤師部会全国担当者会議

令和5年3月16日 日本薬剤師会8階 出席者：知名博樹

⑯令和4年度学校薬剤師部会役員会の開催

第1回学校薬剤師部会役員会	令和4年4月17日（日）	10名参加
第2回学校薬剤師部会役員会	令和4年5月22日（日）	9名参加
第3回学校薬剤師部会役員会	令和4年6月5日（日）	8名参加
第4回学校薬剤師部会役員会	令和4年7月10日（日）	14名参加
第5回学校薬剤師部会役員会	令和4年8月28日（日）	9名参加
第6回学校薬剤師部会役員会	令和4年9月25日（日）	10名参加
第7回学校薬剤師部会役員会	令和4年10月30日（日）	7名参加
第8回学校薬剤師部会役員会	令和4年11月27日（日）	8名参加
第9回学校薬剤師部会役員会	令和4年12月18日（日）	8名参加
第10回学校薬剤師部会役員会	令和5年1月22日（日）	7名参加
第11回学校薬剤師部会役員会	令和5年2月19日（日）	6名参加
第12回学校薬剤師部会役員会	令和5年3月26日（日）	8名参加

(2) 女性薬剤師部会

①女性薬剤師部会総会

令和4年6月5日（日） 沖縄県薬剤師会館ホール 参加者：9名

②「薬剤師のツールとして血液データの深堀」

令和4年6月5日（日） 沖縄県薬剤師会館ホール 参加者：47名

講師 調剤薬局クオレ 平良仔己子

③「薬膳プレゼンテーション」

令和4年7月31日（日） 沖縄県薬剤師会館ホール 参加者：47名

講師 すこやか薬局宇地泊店 久場 良亮

④妊娠・授乳とくすり講座

令和4年9月11日（日） 沖縄県薬剤師会館ホール 参加者：108名

「妊娠・授乳とくすりの基礎知識 基礎Ⅱ」

講師 沖縄県立中部病院産科 副部長 大畑 尚子

令和5年1月29日（日）沖縄県薬剤師会館ホール 参加者：38名
 「妊娠・授乳とくすり」相談員要請のための講座 講師 こくら虹薬局 長嶺 奈津子

⑤漢方講座

令和4年11月13日（日）沖縄県薬剤師会館ホール 参加者：94名
 「炎症と漢方」 講師 那覇市立病院総括科部長 外科 友利寛文

⑥薬剤師継続学習通信教育講座 取りまとめ

令和5年2月26日（日）沖縄県薬剤師会館ホール
 薬剤師継続学習通信教育講座 スクーリング 参加者：21名（WEB：35名）

○「HPV感染症と子宮頸がん」HPVワクチン積極的推奨の再開

講師 県立北部病院 産婦人科医長 直海 玲

○「頭痛 / 進化する治療と新薬の登場」 講師 稲福内科医院 院長 稲福徹也

○「新型コロナウイルスのその後を追う」

講師 県立中部病院感染症内科 副部長 椎木創一

○「急性・慢性心不全 見逃せない動悸・息切れ・呼吸困難・浮腫み」

講師 中部徳洲会病院循環器内科統括部長 不整脈センター長 大城 力

⑦浦添市乳幼児一般健康診査での「おくすり相談会」 浦添市保健相談センター

令和4年4月10日（日） 午前9：00～12：30、午後13：00～16：30

令和4年5月15日（日） 午前9：00～12：30、午後13：00～16：30

令和4年6月19日（日） 午前9：00～12：30、午後13：00～16：30

令和4年7月10日（日） 午前9：00～12：30、午後13：00～16：30

令和4年8月28日（日） 午前9：00～12：30、午後13：00～16：30

令和4年9月25日（日） 午前9：00～12：30、午後13：00～16：30

令和4年10月9日（日） 午前9：00～12：30、午後13：00～16：30

令和4年11月6日（日） 午前9：00～12：30、午後13：00～16：30

令和4年12月18日（日） 午前9：00～12：30、午後13：00～16：30

令和5年1月15日（日） 午前9：00～12：30、午後13：00～16：30

令和5年2月19日（日） 午前9：00～12：30、午後13：00～16：30

令和5年3月12日（日） 午前9：00～12：30、午後13：00～16：30

⑧役員会

令和4年：6月5日（日）6月27日（月）7月31日（日）8月21日（日）

9月11日（日）11月7日（月）12月12日（月）12月14日（水）

令和5年：1月29日（日）2月4日（土）2月26日（日）3月13日（月）3月26日（日）

⑨薬草園の手入れ 隔週土曜日 午前

⑩おきなわ薬剤師会報「暮らしの中の薬草学 身近な薬草を知ろう」の執筆

⑪その他

- ・一般社団法人日本女性薬剤師会総会 令和4年6月12日（日）参加：草壁瑞枝
- ・日本女性薬剤師会九州ブロック会議 令和5年2月6日（月）zoom参加：草壁瑞枝
- ・JPLフォーラム 令和5年2月26日（日）参加：與儀和子
- ・九州ブロック会議 令和5年3月14日（火）Zoom参加：与儀和子

(3) 青年薬剤師部会

- ①令和4年度新任・新人薬剤師研修会
令和4年7月3日（日）Zoom開催 部会紹介：上原卓朗
- ②令和4年度日本薬剤師会学生会員への入会促進
第1回：令和4年5月23日（月） 沖縄県薬剤師会館
第2回：令和4年8月22日（月） 沖縄県薬剤師会館
- ③第17回青年薬剤師部会総会
令和4年12月4日（日） 沖縄県薬剤師会館
- ④令和4年度第1回青年薬剤師部会役員会
令和4年12月4日（日） 沖縄県薬剤師会館
- ⑤令和4年度青年薬剤師部会主催研修会
令和4年12月4日（日） 沖縄県薬剤師会館及びWEB 参加者30名（現地6名、WEB29名）
内容「医療麻薬の基礎知識～オピオイドの製剤の特徴と服薬指導のコツ～」
講師 社会医療法人敬愛会 中頭病院 薬剤科主任 島袋 朝太郎先生
- ⑥九州山口若手薬剤師協議会
第1回 令和4年12月6日 参加者 上原卓朗、西川裕
第2回 令和5年2月6日 参加者 上原卓朗、西川裕
第3回 令和5年2月28日 参加者 上原卓朗、喜友名朝史、桃原和樹
- ⑦海軍病院見学ツアー
令和5年2月23日（木） 在沖米国軍海兵隊基地内海軍病院 参加者12名

(4) 病院診療所薬剤師部会

- ①沖縄県病院薬剤師会 第51回 通常総会
令和4年6月4日（土） 18:00～20:00 ハイブリッド開催
【セッション①】18:00-19:00
「費用対効果と患者さんの視点を考慮した新たなGERD治療のパラダイム：ガイドラインの先にあるもの」
座長：医療法人おもと会 大浜第一病院 薬剤科 科長 姫野 耕一
演者：済生会野江病院 消化器内科 部長 羽生 泰樹
【セッション②】19:00-20:00
「薬の倫理とプロフェッショナルオートノミー」
座長：琉球大学病院薬剤部 教授・薬剤部長 中村 克徳
演者：神戸大学医学部附属病院 薬剤部長 教授 矢野 育子
- ②沖縄県薬剤師会 令和4年度新任・新人薬剤師研修会
令和4年7月3日（日）13:00～16:50 Zoom開催
・薬歴の書き方について 琉球大学病院 薬剤部 池村 憲明
・薬車連携について 那覇市立病院 薬剤部長 金城 雄一
- ③第35回沖縄県薬剤師会学術大会
令和4年10月23日（日）13:00～17:20 Zoom開催
会員発表（病院薬剤師関連部門）：6演題

(5) 卸勤務薬剤師部会

【学会等参加】

- ①令和4年5月 日本医薬品卸勤務薬剤師会理事会（書面決議）
- ②令和4年7月13日 日本医薬品卸勤務薬剤師会九州ブロック総会（WEB）
- ③令和4年7月 日本医薬品卸勤務薬剤師会沖縄県支部理事会・総会（書面決議）
- ④令和4年8月 日本医薬品卸勤務薬剤師会研修会（WEB）：3名
- ⑤令和4年10月23日 沖縄県薬剤師会学術大会（WEB）：4名
- ⑥令和5年2月 日本医薬品卸勤務薬剤師会フォーラム（WEB）：4名
- ⑦令和5年2月25・26日 日本災害医療薬剤師学会学術大会：1名
- ⑧令和5年3月 日本薬剤師会卸薬剤師部会研修会（WEB）：3名

【実務実習薬学生受入】 4社44名

【委員会への参加】 学術研修委員会、保健・福祉委員会、薬事情報委員会、災害対策委員会等

(6) 行政薬剤師部会

- ①令和4年8月14日～28日 会営薬局における医療用抗原検査キット販売業務応援
- ②令和5年1月3日 会営薬局における医療用抗原検査キット販売業務応援
- ③令和5年3月3日 令和4年度日本薬剤師会行政薬剤師部会講演会（WEB）

10. その他関連事業

- (1) 「薬と健康の週間」事業（10月17日～10月23日）
- (2) 各種関連協議会への参加協力
- (3) 関連機関団体との協議及び懇談
- (4) 関係行政当局との定期的連絡協議会
- (5) おきなわ薬剤師会報の発行
- (6) 薬剤師求人求職斡旋事業・薬剤師確保対策事業
- (7) 日本薬剤師会賠償責任保険・個人情報漏えい保険等の加入促進
- (8) 公共関連機関団体等への寄附
 - ・日本薬剤師会ウクライナ支援金
 - ・ファミリーハウスがじゅまるの家へ新型コロナウイルス抗原定性検査キットの贈呈
 - ・沖縄県交通遺児育成会募金 など

令和4年度 試験検査センター事業報告

1. 医薬品検査について

(1) 計画的試験

令和4年度の計画的試験検査については、試験検査センター委員会の了承を得て、

- 1) ジクロフェナクナトリウムの定量試験、2) イブプロフェンの定量試験及び
- 3) 漢方薬の細菌試験を実施した。検体の提出は 155検体であった。

1) ジクロフェナクナトリウムについては溶出試験の予定であったが、試験器の故障のため、定量試験に切り替えて実施した。

また、漢方薬の細菌試験については第十八改正日本薬局方「参考情報」を結果判定の参考とした。

検査対象	検査項目	検体数
ジクロフェナクナトリウム	定量試験	83検体
イブプロフェン	定量試験	12検体
漢方薬	細菌試験	60検体
合計		155検体

(2) 令和4年度医薬品精度管理試験（日薬）

日薬より試験実施要領及び検体が配布された後、下記の試験を行った。

エストリオール錠の定量試験 令和5年1月27日提出

(3) 令和4年度登録試験検査機関技能試験（厚生労働省）

国立医薬品食品研究所より検体及び試験法が配布され、下記の試験を行った。

カルベジロール錠の定量試験、純度試験 令和5年3月24日提出

(4) 依頼医薬品・化粧品検査

主に、化粧品の細菌検査及び医薬品の規格試験等の依頼を受けた。

	検査数	検査料金
依頼	11件	144,100円

2. 水質検査について

(1) 学校関係水質検査

学校関係の水質検査は以下のとおりである。

県立学校及び市町村立学校の水質検査、また、琉球大学附属小学校・中学校等の水質検査を行った。

ただし、学校によってはプール授業が中止または短縮となるなど、プール水の検査数は契約数より減じた。

	検査数		検査料金
	飲料水	プール水	
県立学校	78件	105件	2,553,320円
市町村 など	449件	334件	8,562,180円
計	527件	439件	11,115,500円

(2) 依頼水質検査

公立学校からの個別依頼、こども園などの検査を行っている。

	検査数	検査料金
一般依頼	130件	1,513,820円

3. 空気環境検査について

(1) ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の検査

県立学校及び那覇市等より空気環境検査の委託を受けた。
 検体を取りまとめ財団法人東京顕微鏡院へ分析を依頼した。
 東京顕微鏡院への外注費は、2,191,200円。

	検査数	検査料金
県立学校	81件	1,078,000円
市町村 など	142件	2,328,700円
計	223件	3,406,700円

(2) ダニ又はダニアレルゲン検査

県立学校、浦添市及び宮古島市等より委託を受け、検査を行っている。
 令和4年度より八重瀬町立小中学校の検査を実施した。

	検査数	検査料金
県立学校	234件	652,080円
市町村 など	739件	1,589,720円
計	973件	2,241,800円

4. 問い合わせへの対応

学校環境衛生や医薬品等の検査に関する問い合わせについて、資料提供を行った。
 「pH調整剤の使用方法について」「黒板の劣化について」など 38件

5. 試験検査センター委員会

日時：令和4年12月22日

場所：沖縄県薬剤師会館 研修室

(1) 報告事項

- ①令和3年度報告及び令和4年度中間報告（医薬品検査・水質検査等）
- ②日薬 医薬品試験検査に係る精度管理試験の結果報告（令和3年度）について
- ③登録試験検査機関の厚生労働省への登録手続きについて

(2) 議題

- ①令和4年度計画的試験について
- ②機器の更新について
- ③令和5年度 事業計画(案) について

6. 研修

(1) 日薬 試験検査センター連絡協議会・技術研修会

会期：令和4年11月15日

会場：高松センタービル会議室 201 号室

出席者：小泉宝之

研修内容

- ①第十八改正日本薬局方及び同第一追補の概要について
- ②医薬品製造販売における品質管理について
- ③計画的試験検査の事例紹介
- ④報告：医薬品精度管理試験について

令和4年度 薬事情報センター事業報告

1. 情報提供業務

(1) 質疑応答業務（集計内容の詳細は別紙参照）

- ①調査件数：925件／年（医療関係者412、医療関係者以外513） 77件／月
- ②質問者数：697人／年（医療関係者325、医療関係者以外372） 58人／月

(2) WEBサイト（ホームページ）による情報提供

- (3) 会報「薬事情報おきなわ」の編集・発行（隔月刊）No. 269～No. 273を発行
- (4) 会員向けメール配信業務（Weekly News）

2. 情報収集業務

- (1) 新規図書総数：31冊
- (2) 購読雑誌：20誌
- (3) 各都道府県薬剤師会機関誌：37誌
- (4) 業界新聞：4紙（薬事日報、薬局新聞、薬事ニュース、国保新聞）
- (5) メーカー・卸機関誌
- (6) 厚生労働省および日薬からの各種情報・通知
- (7) 製薬企業からの情報
- (8) 医療安全レポート（一般社団法人 医療安全全国共同行動発行）

3. 情報管理業務

- (1) 沖縄県薬事情報センター質疑応答データベース (ファイルメーカー Pro)
- (2) 日薬と協同作成のデータベース (文献書誌情報検索システム: Bunsaku)
担当雑誌 (「新薬と臨床」「総合診療」「臨床薬理」「おきなわ県薬会報」「産科と婦人科」)
- (3) 子ども医療電話相談事業 (#8000) の質問記録の管理

4. 会議及び研修会

- (1) 令和4年度 薬事情報センター委員会
 - ①第1回: 日時: 令和4年10月12日 (水) (県薬・Zoom)
 - ②第2回: 日時: 令和5年1月 (書面開催)
- (2) 令和4年度 都道府県薬剤師会薬事情報センター実務担当者等研修会 (Web)
日時: 令和5年3月24日 (金) (吉田典子)

5. アンチ・ドーピング関連

- (1) 令和4年度 スポーツファーマシスト連絡会議 (県薬会議室) (SP委員7名)
日時: 令和4年4月27日 (水)
- (2) 2022年度 沖縄県体育協会 スポーツ医・科学サポートプログラム説明会
日時: 令和4年5月13日 (金) (Web開催・オンデマンド配信)
ファーマシスト部会「アンチ・ドーピングについて」(講師: 笠原大吾)
- (3) 2022年度国民体育大会に向けたアンチ・ドーピング情報提供会 (主催: 日本スポーツ協会) (Web)
日時: 令和4年6月21日 (火)
- (4) 第77回国民体育大会関連会議 (主催: 沖縄県スポーツ協会)
アンチ・ドーピング研修会「アンチ・ドーピングに係わる留意点等について」
 - ①令和4年度第42回国民体育大会九州ブロック大会 監督会議 (夏季大会)
日時: 令和4年6月30日 (水) (講師: 吉田典子、参加: 南雲翔太・長瀬涼)
 - ②令和4年度第42回国民体育大会九州ブロック大会 監督会議 (秋季大会)
日時: 令和4年8月4日 (水) (講師: 笠原大吾)
 - ③第77回国民体育大会 (栃木国体) 監督会議
日時: 令和4年9月16日 (金) (講師: 笠原大吾)
- (5) 令和4年度第1回スポーツ医・科学委員会 (沖縄県スポーツ会館) (笠原大吾・吉田典子)
日時: 令和4年7月28日 (木)
- (6) 第76回国民体育大会ドクターズ・ミーティング (web開催) (笠原大吾)
日時: 令和4年9月17日 (土)
- (7) 令和4年度都道府県薬剤師会アンチ・ドーピング活動担当者講習会: web (主催: 日本薬剤師会)
日時: 令和4年12月1日 (木) (吉田典子)
- (8) 特別国民体育大会冬季大会沖縄県選手団結団式 アンチ・ドーピング研修会 (講師: 笠原大吾)
日時: 令和5年1月16日 (月)
- (9) 国体選手を中心としたアンチ・ドーピング教育・啓発委託事業 (日本スポーツ協会)
2023年アンチ・ドーピング研修会 (主催: 沖縄県スポーツ協会) (web開催・オンデマンド配信)
日時: 令和5年2月8日 (水)

「クリーンでフェアなスポーツを創るために」(講師:笠原大吾・吉田典子)

- ・スポーツの価値について考えよう!
- ・クリーンスポーツについて学ぼう!
- ・クリーンスポーツ行動をとろう!
- ・2023年の変更点と注意点

(10) 公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会 (主催:東京都薬剤師会)

日時:令和5年2月26日(日)(長瀬涼)

場所:ビジョンセンター東京 京橋(東京)

(11) 令和4年度 第2回スポーツ医・科学委員会 (主催:沖縄県スポーツ協会)(吉田典子)

日時:令和5年3月27日(月)

6. その他

(1) DI業務支援 平良 恭子:(半日/週)

(2) 沖縄県難病支援センター「アンビシャス」の原稿執筆(月1回)

令和4年 4月:漢方薬の服用方法と服用時間

5月:服薬支援グッズのご紹介

6月:口腔乾燥症について

7月:複数の点眼薬、間隔と順番は?

8月:飲み合わせ(2)「抗血栓薬と納豆」

9月:スマホの活用(医療情報)

10月:研究用検査キット

11月:インフルエンザの流行を前に

令和5年 1月:処方薬と市販薬の飲み合わせについて

2月:ビタミンは沢山摂っても大丈夫?

3月:目薬が溢れて大丈夫ですか

4月:毛虫皮膚炎

(3) 令和4年度アンチ・ドーピング教育・啓発事業(日本スポーツ協会委託事業)

アンチ・ドーピング普及・啓発リーフレット作成(令和5年2月)

「アスリートのためのアンチ・ドーピングトピックスと注意すべき薬について」

配布先:加盟団体、本県の国体、高校総体の出場選手・監督など

配布部数:600部

第88回総会資料

<議案第1号 令和4年度決算承認の件>

正味財産増減計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

一般社団法人 沖縄県薬剤師会

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	1,533	1,405	128
特定資産受取利息	1,533	1,405	128
受取入金会金	877,000	720,000	157,000
受取入金会費	877,000	720,000	157,000
受取会費	104,820,348	104,816,538	3,810
正会員受取会費	55,400,400	55,809,198	△ 408,798
賛助会員受取会費	49,103,948	48,674,340	429,608
特別会員会費	316,000	333,000	△ 17,000
事業収益	1,911,278,816	1,923,235,181	△ 11,956,365
出版物事業収益	4,998,450	3,909,880	1,088,570
広告料事業収益	410,000	260,000	150,000
その他事業収益	32,909,179	30,774,017	2,135,162
調剤報酬収入	1,663,400,879	1,702,989,408	△ 39,588,529
一部負担金収入	139,814,125	139,029,873	784,252
小分治療剤収入	10,254,605	9,211,682	1,042,923
保険外	33,473,328	12,443,287	21,030,041
受取手数料	5,443,780	5,376,252	67,528
保険等調整増減	△ 58,355	△ 687,460	629,105
新規契約賦課金	10,000	40,000	△ 30,000
利用契約金	2,180,000	2,320,000	△ 140,000
医薬品検査手数料	144,100	156,200	△ 12,100
水質検査手数料	12,638,780	11,699,133	939,647
空気検査手数料	5,651,445	5,700,409	△ 48,964
衛生検査手数料	8,500	12,500	△ 4,000
受取補助金等	16,325,820	6,367,631	9,958,189
受取国庫補助金	5,882,412	1,573,495	4,308,917
受取地方公共団体補助金	9,395,000	3,535,000	5,860,000
受取民間助成金	0	200,000	△ 200,000
受取補助金等振替額	1,048,408	1,059,136	△ 10,728
受取寄付金	265,207	265,207	0
寄付金収入	0	0	0
寄付金等振替額	265,207	265,207	0
貸倒引当金戻入益	80,000	130,000	△ 50,000
雑収	3,606,691	3,782,086	△ 175,395
受取利息	2,795	2,865	△ 70
雑収入	101,866	512,164	△ 410,298
事務受託金収益	3,502,030	3,267,057	234,973
経常収益計	2,037,255,415	2,039,318,048	△ 2,062,633

科目				当年度	前年度	増減	
(2)経常費用							
事	業	費		1,960,346,431	1,971,996,629	△ 11,650,198	
期	首	棚	卸	高	70,613,033	66,538,657	4,074,376
仕		入		高	1,622,377,377	1,647,519,027	△ 25,141,650
期	末	棚	卸	高	△ 73,529,740	△ 72,189,098	△ 1,340,642
役	員		報	酬	3,141,000	3,415,170	△ 274,170
給	料		手	当	107,964,794	105,957,617	2,007,177
雑				給	64,357,404	64,354,688	2,716
賞				与	17,249,900	15,688,050	1,561,850
退	職	給	付	用	2,306,352	2,585,936	△ 279,584
法	定	福	利	費	25,461,555	23,977,017	1,484,538
福	利	厚	生	費	603,600	722,685	△ 119,085
会		議		費	519,965	647,910	△ 127,945
旅	費	交	通	費	12,766,811	9,907,275	2,859,536
通	信	運	搬	費	8,127,826	6,526,856	1,600,970
減	価	償	却	費	10,249,102	11,311,058	△ 1,061,956
消	耗	品		費	7,864,151	7,449,663	414,488
修		繕		費	437,800	653,629	△ 215,829
研		修		費	23,700	9,000	14,700
出	版	物	印	刷	7,871,617	7,137,337	734,280
地	代		家	賃	19,476,380	19,803,075	△ 326,695
光	熱	水	料	費	7,109,800	6,388,309	721,491
賃		借		料	4,000,532	4,470,088	△ 469,556
広		報		費	4,683,270	5,135,350	△ 452,080
保		險		料	1,298,839	1,350,065	△ 51,226
諸		謝		金	962,161	981,532	△ 19,371
租	税		公	課	3,184,847	3,141,861	42,986
支	払	負	担	金	3,613,459	863,000	2,750,459
支	払	補	助	金	6,000,000	6,000,000	0
支	払	寄	附	金	133,000	100,000	33,000
外		注		費	2,240,480	2,399,100	△ 158,620
支	払	手	数	料	8,955,869	8,790,430	165,439
交		際		費	80,390	31,807	48,583
管	理	維	持	費	7,231,041	6,850,859	380,182
新	聞	図	書	費	969,286	725,774	243,512
貸	倒	引	当	金	160,000	300,000	△ 140,000
雑				費	1,200	0	1,200
支	払		利	息	593,561	685,357	△ 91,796
商	品	廃	棄	損	1,232,749	1,576,065	△ 343,316
雑		損		失	13,320	191,480	△ 178,160
管	理			費	39,304,860	39,724,040	△ 419,180
役	員		報	酬	964,000	1,099,830	△ 135,830
給	料		手	当	7,246,513	6,714,155	532,358
退	職	給	付	用	37,382	123,913	△ 86,531
法	定	福	利	費	1,562,137	1,389,526	172,611
福	利	厚	生	費	33,682	36,140	△ 2,458
会		議		費	400,428	216,361	184,067

科目	当年度	前年度	増 減
旅 費 交 通 費	3,795,700	2,607,724	1,187,976
通 信 運 搬 費	1,082,474	1,329,417	△ 246,943
減 価 償 却 費	1,055,283	1,047,425	7,858
消 耗 品 費	2,117,984	3,580,302	△ 1,462,318
修 繕 費	475,200	671,000	△ 195,800
研 修 費	0	25,000	△ 25,000
出 版 物 印 刷 費	0	190,300	△ 190,300
光 熱 水 料 費	706,212	712,236	△ 6,024
賃 借 料	738,016	751,456	△ 13,440
保 険 料	89,221	94,301	△ 5,080
租 税 公 課	505,648	421,539	84,109
支 払 負 担 金	15,420,400	15,868,600	△ 448,200
支 払 寄 附 金	100,000	0	100,000
支 払 手 数 料	1,753,057	1,446,044	307,013
交 際 費	469,969	416,652	53,317
管 理 維 持 費	406,768	583,140	△ 176,372
新 聞 図 書 費	259,216	300,175	△ 40,959
支 払 利 息	85,570	98,804	△ 13,234
経常費用計	1,999,651,291	2,011,720,669	△ 12,069,378
評価損益等調整前当期経常増減額	37,604,124	27,597,379	10,006,745
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	37,604,124	27,597,379	10,006,745
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固 定 資 産 売 却 益	0	0	0
車 両 運 搬 具 売 却 益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固 定 資 産 除 却 損	0	3	△ 3
什 器 備 品 除 却 損	0	3	△ 3
建 物 付 属 設 備 除 却 損	0	0	0
車 両 運 搬 具 除 却 損	0	0	0
経常外費用計	0	3	△ 3
当 期 経 常 外 増 減 額	0	△ 3	3
税引前当期一般正味財産増減額	37,604,124	27,597,376	10,006,748
法 人 税 等	7,678,300	2,071,000	5,607,300
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	29,925,824	25,526,376	4,399,448
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	806,632,313	781,105,937	25,526,376
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	836,558,137	806,632,313	29,925,824
II 指定正味財産増減の部			
一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	△ 1,313,615	△ 1,324,343	10,728
地 方 公 共 団 体 補 助 金	0	0	0
寄 付 金	0	0	0
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	△ 1,313,615	△ 1,324,343	10,728
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	21,266,601	22,590,944	△ 1,324,343
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	19,952,986	21,266,601	△ 1,313,615
III 正味財産期末残高	856,511,123	827,898,914	28,612,209

貸借対照表

令和5年3月31日現在

一般社団法人 沖縄県薬剤師会

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	309,047,422	305,026,479	4,020,943
未収入金	325,074,883	310,895,179	14,179,704
商品	72,296,991	70,613,033	1,683,958
立替金	2,444,048	245,920	2,198,128
前払費用	627,900	555,526	72,374
仮払金	0	0	0
貸倒引当金	△ 3,160,000	△ 3,080,000	△ 80,000
流動資産合計	706,331,244	684,256,137	22,075,107
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	53,693,831	59,841,477	△ 6,147,646
九山積立預金	9,420,081	9,420,003	78
法務対策積立預金	5,002,753	5,002,711	42
会館修繕積立預金	38,749,970	35,749,669	3,000,301
災害対策積立	3,001,766	3,001,742	24
移転積立預金	80,006,761	70,006,173	10,000,588
特定資産合計	189,875,162	183,021,775	6,853,387
(3) その他固定資産			
建物	117,092,775	122,231,235	△ 5,138,460
造作物	445,048	807,433	△ 362,385
建物付属設備	3,430,869	4,459,498	△ 1,028,629
構築物	2,787,035	3,221,887	△ 434,852
車両運搬具	4	330,524	△ 330,520
什器備品	4,028,712	5,715,543	△ 1,686,831
土地	157,097,850	157,097,850	0
電話加入権	2,765,413	2,765,413	0
ソフトウェア	264,000	496,708	△ 232,708
敷入金	1,250,000	1,250,000	0
差入保証金	5,067,640	5,067,640	0
その他固定資産合計	294,229,346	303,443,731	△ 9,214,385
固定資産合計	484,104,508	486,465,506	△ 2,360,998
資産合計	1,190,435,752	1,170,721,643	19,714,109
II 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	192,653,871	192,685,948	△ 32,077
未払金	19,048,452	19,931,127	△ 882,675
前受金	220,000	170,000	50,000
預り金	2,767,377	832,619	1,934,758
賞与引当金	5,129,650	4,965,750	163,900
未払法人税等	7,678,300	2,071,000	5,607,300
流動負債合計	227,497,650	220,656,444	6,841,206

科目	当年度	前年度	増減
2. 固定負債			
長期借入金	59,223,000	69,219,000	△ 9,996,000
退職給付引当金	47,203,979	52,947,285	△ 5,743,306
固定負債合計	106,426,979	122,166,285	△ 15,739,306
負債合計	333,924,629	342,822,729	△ 8,898,100
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
地方公共団体補助金	13,905,905	14,954,313	△ 1,048,408
寄付金	6,047,081	6,312,288	△ 265,207
指定正味財産合計	19,952,986	21,266,601	△ 1,313,615
2. 一般正味財産	836,558,137	806,632,313	29,925,824
(うち特定資産への充当額)	136,181,331	123,180,298	13,001,033
正味財産合計	856,511,123	827,898,914	28,612,209
負債及び正味財産合計	1,190,435,752	1,170,721,643	19,714,109

<議案第2号 一般社団法人沖縄県薬剤師会監事選挙の件>

監事立候補名簿

区分	受付番号	立候補者氏名	所属地区 薬剤師会名	推薦者代表
開局	201	江夏 京子	中部地区	村田美智子
卸	202	山里 勇	那覇地区	川満 直紀

<議案第3号 一般社団法人沖縄県薬剤師会理事選出の件>

一般社団法人沖縄県薬剤師会理事候補選出要綱に基づいて、六地区薬剤師会及び定款施行規則第4条に定める部会から各1人を理事候補として推薦されてきた理事候補者、並びに第87回臨時総会で執り行われた会長候補者選挙にて当選した会長候補者が提出する理事候補者は、下記名簿に示されたとおりである。一般社団法人沖縄県薬剤師会理事として選任いただきたい。

理事候補名簿

[50音順・敬称略]

No.		氏名	ふりがな	所属・担当
1	現職	浅沼健一	あさぬま けんいち	北部地区薬剤師会
2	現職	阿部義則	あべ よしのり	法務対策・地域医療提供
3	現職	石川恵市	いしかわ けいいち	中部地区薬剤師会 会営薬局
4	現職	川満直紀	かわみつ なおき	財務・地域医療提供
5	新	喜友名朝史	きゆな ともふみ	青年薬剤師部会 地域医療提供
6	現職	幸地良信	こうち よしのぶ	八重山地区薬剤師会
7	新	古謝玄太	こじゃ げんた	行政薬剤師部会 薬学部創設・地域医療提供
8	現職	古謝真己	こじゃ まさき	宮古地区薬剤師会
9	現職	佐藤雅美	さとう まさみ	実務実習
10	現職	島袋さゆり	しまぶくろ さゆり	卸勤務薬剤師部会 保健福祉
11	現職	知名博樹	ちな ひろき	学校薬剤師部会 試験検査センター
12	新	知念大輔	ちねん だいすけ	災害対策
13	現職	名嘉紀勝	なか のりかつ	南部地区薬剤師会
14	現職	中村克徳	なかむら かつのり	学術研修
15	現職	姫野耕一	ひめの こういち	病院薬剤師部会 災害対策・地域医療提供
16	現職	前濱朋子	まえはま ともこ	会長候補者
17	新	又吉智賀子	またよし ちかこ	那覇地区薬剤師会 保健福祉
18	現職	宮城幸枝	みやぎ ゆきえ	医療保険
19	現職	村田美智子	むらた みちこ	女性薬剤師部会 保健福祉
20	現職	吉田典子	よしだ のりこ	薬事情報

第88回定時総会懇親会

日時：令和5年6月18日（日）16:45～18:00

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

定時総会后、会場を研修室に移し懇親会が催された。司会の佐藤雅美常務理事により、会が進められた。

川満直紀副会長の開会の辞に続き、前濱朋子会長の挨拶、新城光雄沖縄県保健医療部保健衛生統括監が来賓の挨拶をされ、神村武之相談役の乾杯の音頭で歓談に入った。

歓談が落ち着いた頃、来賓の紹介、新役員の紹介（会長、副会長、専務理事、常務理事）、沖縄県薬剤師会職員への永年勤続表彰が執り行われた。永年勤続表彰は、30年勤続表彰として会営薬局うえはらの幸地多美子事務主任、10年勤続表彰として会営薬局医療センター前の城間盛光管理薬剤師が表彰され、一言ずつ挨拶した。

4年ぶりの開催で終始賑やかであった懇親会は、阿部義則専務理事の挨拶で閉会となった。

（文：事務局 徳元あおい）



来賓あいさつ
新城 光雄
沖縄県保健医療部
保健衛生統括監



乾杯の音頭 神村 武之相談役（第18代会長）



[永年勤続表彰]

城間 盛光
会営薬局医療センター前
管理薬剤師



幸地 多美子
会営薬局うえはら
事務主任



4年ぶりの開催で終始賑やかであった懇親会

実務実習

令和5年度第Ⅰ期薬学生実務実習報告

薬学生実務実習受入委員会
宮本 直樹



令和5年度第Ⅰ期薬学生実務実習が終了しましたので報告致します。

第Ⅰ期は2/20～5/6までの11週間で行われ、全11大学（福岡大学・第一薬科大学・長崎国際大学・九州保健福祉大学・山口東京理科大学・安田女子大学・広島国際大学・徳島文理大学・神戸学院大学・名城大学・武蔵野大学）から計22名の学生を受け入れました。

沖縄県では、同期間に実習を受ける学生同士、お互いに仲間意識を持って頂き、顔の見える関係として将来に亘って支えあい、切磋琢磨して欲しいと願いを込めて実習初日の午後にはオリエンテーションを実施しています。このオリエンテーションでは、自己紹介から始まり、実務実習での心構えの講義や、薬剤師綱領・薬剤師行動規範の読み上げなどを行います。ここで学生には行動規範の中で印象に残った項目を挙げてもらうのですが、それぞれ選んだ項目やその理由など個性・特徴が出て興味深いですし、考え方もしっかりしていて毎回感心させられます。実務実習受け入れ委員会として今後も続けていきたいと考えています。

実習はコアカリキュラムに沿った形で進められ、調剤薬局の薬剤師業務を肌で感じつつ、調剤業務や処方解析を行ったり、実際の患者さんに服薬指導を行ったりします。最初は緊張や不安を抱えていた学生たちが日に日に成長していく姿を見るのは指導薬剤師のやりがいでもあり楽しみでもあります。

また沖縄県では漢方製剤・薬局製剤・OTC・医薬品卸業務・夜間救急・学校薬剤師・在宅業務・災害時医療・行政薬剤師業務など1つの薬局では学びきることが難しい項目を、関係機関の協力を得つつ、外部実習として補填できる体制を整えています。さらに現役医学生であり薬剤師免許も持つ平井聖司先生による集合研修「実務実習のツボとコツ」は難しいながらも毎回好評の外部実習の1つでもあります。

今期も日々の業務で多忙な中で快く実習を受け入れて下さった各薬局・指導薬剤師各位・薬局スタッフの方々・外部実習でお世話になった先生方・関係協力機関には改めて感謝を申し上げまして、私からの報告とさせていただきます。



実習風景

実務実習薬学生・受入薬局

氏名	大学	受入薬局	指導薬剤師
大 城 萌	福岡大学	すこやか薬局 沖赤店	玉 村 澄 恵
久 場 麻梨花	福岡大学	こくら虹薬局	兼 城 明 子
津波古 菜々子	福岡大学	とくりん薬局 (南風原店)	兼 城 崇
東 江 美 和	第一薬科大学	いは薬局 (うるま市)	瑞慶山 礼 奈
當 山 雄 介	第一薬科大学	ゆうな薬局 (南城市)	高 木 宏 之
平 川 あみん	長崎国際大学	メイト平良川薬局	福 地 健 治
大 城 彩 香	長崎国際大学	いしみね薬局	盛 本 直 也
島 袋 祥 吾	長崎国際大学	そうごう薬局 新赤十字前店	西 川 裕
長谷川 美 羽	長崎国際大学	ミルク薬局 天久店	柘 井 亮 太
高良 美 帆	長崎国際大学	とくりん薬局 赤嶺駅前店	仲宗根 雅 恵
東川平 佳 暖	長崎国際大学	会営薬局とよみ	宮 里 威 一郎
山 城 大 輝	九州保健福祉大学	つる薬局	新 垣 紀 子
小 谷 恭 介	山口東京理科大学	あかみち薬局 (うるま市)	江 夏 恭 範
榮野川 文 音	安田女子大学	会営薬局うえはら	中曾根 鳴 香
喜屋武 有 咲	安田女子大学	経塚薬局	神 田 寛 之
久 場 裕 花	広島国際大学	ミドリ薬局 美里店	玉 城 武 範
並 里 莉理夏	徳島文理大学香川薬学部	ふく薬局 もとぶ店	玉 城 尚 洋
伊 波 佳 可	神戸学院大学	すこやか薬局 ライカム店	松 田 絵理菜
福 原 龍之介	神戸学院大学	すこやか薬局 牧港店	照 屋 勇 人
新 垣 あゆみ	名城大学	南薬局	具志堅 興 也
上 原 唯	武蔵野大学	ゆんたく薬局 おもろまち店	宮 本 直 樹



令和5年度第 I 期実務実習薬学生記念撮影

令和5年度第I期実務実習薬学生からの体験記・感想

徳島文理大学香川薬学部5年 並里 莉理夏
(ふく薬局もとぶ店 実習 指導薬剤師 玉城 尚洋)

薬局での実習が始まる前は、今まで勉強したことを発揮できるのか、患者さんと服薬指導する際にきちんと説明できるのか、薬剤師の方や事務の方とコミュニケーションをとれるのかなど、不安な点がたくさんありました。しかし、実際薬局での実習を行ってみると指導薬剤師の先生方や事務員の方々に温かく迎えて頂き、不安な気持ちはすぐにはなくなりました。

薬局の実務実習では、調剤や、処方箋の受け付けや服薬指導の患者対応や在宅訪問など、何もかもが初めてのことばかりで、たくさんのことを経験しているうちに、またたく間に実習期間が過ぎてしまいました。

調剤では一包化や粉碎など学校で体験したことがなかったので初めての経験でした。ピッキングも一度に調剤する量が多くとても驚きました。実習を通して、薬の種類が多い特に高齢の患者さんは自分で薬を管理することが難しく、薬の飲み間違いやアドヒアランスが悪くなってしまうことを知りま

した。こうした問題を改善するため、一包化が行われていることを学び、患者さんにあわせて工夫して調剤が行われていることが分かりました。

服薬指導では、患者さんとのコミュニケーションの取り方や薬の説明の仕方など難しいなと感じましたが、処方箋や、SOAPを見て、患者さんの症状を確認して話す内容を組み立て、アドバイスを行えるようになりました。説明が足りない部分は薬剤師の先生にフォローしていただき、次の服薬指導時に活かし改善することができたのでとても勉強になりました。

11週の薬局実習の間、様々なことを教えてくださった薬剤師の先生方、事務の皆さんにはとても感謝しています。至らない点が多く、たくさん迷惑をかけたと思いますが、先生方から数多くのことを学ぶことができ、とても充実した実習期間を過ごすことができました。次は病院での実習が始まりますが、薬局実習を通して学んだ経験を生かして、頑張っていきたいと思います。

第一薬科大学5年 東江 美和
(いは薬局 実習 指導薬剤師 瑞慶山 礼奈)

始まる前からずっと不安だった11週間の薬局実習を無事終えることができました。最初は、緊張して一包化もピッキングもいろいろミスをすることも多く、薬局の先生方にはとても迷惑をかけたと思います。そんな中でも、礼奈先生は優しく指導してくれ、わからないことがあったら聞いてね、今の服薬指導よかったよ、と温かい言葉をかけてもらいました。

私はこの実習でいろいろなことを経験させてもらいすべてにおいて感謝しているのですが、特に感謝していることがあります。それは、失敗をさせてくれたことです。私は保守的な人間で失敗したくないと思いながら生活しているため失敗がすごく怖かったです。しかし、礼奈先生は私自身に考えさせ、失敗したらその時考えようとおっしゃってくれて、いろんなことを考えて行って、失敗しても失敗したらどうするのかを一緒に考えてくれました。多くの失敗は、次はミスをしないように行おう、という気持ち芽生えさせ、いろいろなパターンの一包化を行ったので一包化は誰にも負けないぞ!の気持ちを持てるくらいに成長

しました。そして、調剤、監査、服薬指導すべてにおいてこの薬の先には患者さんがいて、自分のためだけに勉強してきた知識をすべて患者さんに届けることに繋がっていることを実際に行うことで学びました。

服薬指導においては不安な人、急ぐ人、話を聞いてほしい人など様々な患者さんが来る中で、それを読み取り適切な服薬指導を行える薬剤師はやはりコミュニケーション能力が必要で、私ももっと磨いていきたい能力だと気づくことができました。最後に、私の中で疑問や考えをすぐに聞いてもらえるという環境はとても大切なことでした。質問を思いっきりぶつけられる環境がうれしく先生方に聞いてばかりだったとは思いますが、より一層薬が好きになりもっと勉強したいと思いました。いろいろなことを教えてくださった礼奈先生をはじめとする先生方、いつも優しく話しかけてくれた事務の皆さん、本当にありがとうございました。この経験を忘れずに薬剤師国家試験合格に向けてさらに励んでいきたいと思いません。

名城大学5年 新垣 あゆみ
(南薬局 実習 指導薬剤師 具志堅 興也)

私は大学内で行った服薬指導練習で、模擬患者を目の前にすると頭が真っ白になって話すことを忘れて、同じ質問をしたりとミスばかりでした。そうした経験から薬局実習が始まるまで、自分は服薬指導が出来ない、コミュニケーション能力が低い人間であると思い、服薬指導や患者さんに接することを怖いと感じていました。しかし、薬剤師の先生方は服薬指導前に豊富な経験と想像力から、処方箋を見て病状を予測して的確なアドバイス内容を一緒に考えていただき、服薬指導後には良かった点と悪かった点を必ず教えて下さいました。

自分には向いていないと思っていた患者さんとの対話を通して、日々服薬指導に対する考え方が変わっていきました。コンプライアンスを改善するために、患者さんから仕事や家事などの日常生活を聞き、服薬しやすい時間を一緒に考えることの重要性に気づきました。例えば、带状疱疹の患者さんが带状疱疹後疼痛への恐怖心について不安を話したときは、病院に罹るまでの期間が早期であったため抗ウイルス剤の内服で症

状が落ち着いていくと話しました。症状が悪化しないように、用法・用量をしっかり守るように話すと、患者は安心して前向きに治療に取り組もうと考えてくれました。

薬局実習を通して多くの患者さんと症例に触れて、徐々に自信が生まれ、患者さんの症状や病気に対する不安や生活の悩みにまで寄り添ってアドバイスが出来るように成長出来ました。これからは薬物療法の知識を蓄え、患者さんや医師とのコミュニケーションスキルを磨き、多くの経験を積んでいきたいです。

最後になりますが、南薬局の薬剤師の先生方には、かけがえのない考え方や経験を与えて下さり誠にありがとうございました。これからは薬局実習を通して学んだことを大切に、日々精進していきます。薬局外実習でも、卸実習、災害医療の講義、在宅実習、学校薬剤師、夜間実習、薬局製剤、漢方製剤など多くの体験をして学ぶことが出来ました。関係者の皆様にも添えて感謝を伝えさせていただきます。

長崎国際大学5年 島袋 祥吾
(そうごう薬局 新赤十字前店 実習 指導薬剤師 西川 裕)

11週の薬局実習を通して、調剤や服薬指導だけでなく薬剤師としての地域貢献や災害時の活動など多くのことを学ぶことができました。実習期間中は指導薬剤師の先生をはじめとする薬局スタッフの方々に丁寧に教えていただき、たくさんの方に支えてもらった薬局実習だったと実感しています。

私が実習中とくに印象に残っていることが2つあります。1つ目は、服薬指導です。服薬指導が本格的に始まりOSCE対策のように、体調や前回からの経過、残薬や治療に関する不安などを聞くように意識しました。しかし、緊張もありうまく聞き出すことができず、一方的に薬の説明をするだけの時間になってしまうことが多々ありました。さらに、仮に患者さんの症状や訴えを聞き出すことができても、その結果をうまく評価し、患者さんに伝えることができませんでした。自分の知識や経験、コミュニケーションスキルが不十分であることを痛感しました。さらに、処方内容の妥当性、治療目標、併用薬の飲み合わせなど自分では判断しきれぬ場面も多く、他の薬剤師の方からフォローを受けることが毎日ありました。そのため実習中には知識を得るために、高血圧治療ガイドラインや心疾患に関する文献を

読み、1人の薬剤師として服薬指導を行えるように努力を重ね、結果として、実習前に比べて患者さんの体調や服薬状況についての的確に対応ができるようになったと自負しています。11週の中で多くの服薬指導を経験することができましたが経験不足は明白なため今後の課題だと感じています。

2つ目は、外部実習についてです。漢方実習、OTC医薬品に関するドラッグストア実習、薬局製剤、学校薬剤師や行政薬剤師の方々からの講演などさまざまなイベントに参加することができました。また、そうごう薬局間では他店舗実習というものがあり、多くの薬剤師の服薬指導や各薬局の特色などを学ぶ機会をいただきました。さらに、病院での薬局との連携会議、新薬の説明会、終末期医療に関する勉強会など大学では学ぶことができない体験をさせていただき、とても有意義な11週になりました。

今回の実習を通して学んだことを今後の病院実習や国家試験の勉強にも活かして頑張っていきたいと強く思っています。実習でお世話になった指導薬剤師の先生をはじめとするそうごう薬局のスタッフの方々、外部実習でお世話になった先生方、ご指導いただき本当にありがとうございました。

実務実習

第83回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加して

2023年1月8日、9日の2日間、認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加しました。新型コロナの為Zoomを利用したオンライン形式での開催でした。

オンライン開催に先立ち資料が郵送されてきました。その後に、当日スムーズにオンラインで進行できるように、アプリの説明、進行の流れの説明が1時間ほど行われました。

ワークショップ当日は薬剤師など総勢48名が参加しており、そこから1グループ8名の6グループに分けられ、スモールグループディスカッション (SGD) によりカリキュラムが進められて行きました。私のグループは大学教員、病院や薬局薬剤師などから集まった年齢性別も偏りなく構成されており、2日間ずっと同じメンバーでした。

ワークショップの内容ですが、ホワイトボードアプリであるmiroを使用したKJ法で「薬学教育の問題点」を皆で提案し合い、沢山の問題点を挙げました。

その後、私達のチームは薬学生が卒業時に修得していると期待される能力の1つである「地域包括ケアの参画」と言うテーマに対して、2日間にわたり (SGD) を行いました。

まずは「学習成果基盤型教育において求められる学習目標とは」にはじまり、「パフォーマンスを測る教育評価とは」「真の参加型と呼べる学習方略とは」「臨床現場での学習に有効な手段」「問題点への対応」「問題解決のプロセス」の順にSGDを行い、それぞれの考え方を時間内に出し合いそれをディスカッ

ションし発表できるようにまとめました。今回1つの評価項目を考えるためにこんなに話し合ったことで、今まで当たり前のように入用していた項目1つ1つに大きな労力と時間が費やされていたのだと感じました。

またカリキュラム毎に司会係、記録係、発表係の担当が順番に選出されました。私達のグループは比較的話し合いがスムーズに進むことが多く他人の意見を尊重しながら過不足ない意見が出るようにみんな話し合っている雰囲気を感じられ良かったのですが、そこはしっかりした意見のあるメンバーが集まっているためか一度議論が加熱するとなかなか止まらず時間という制約によって焦ることもありました。

今回の認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップは普段話すことの無い遠い人がオンラインで集まり、今後の実習に向けて真剣に話し合いながらグループとしての1つの結論を出すという過程が日常業務と大きく違っても刺激になりました。

大変なハードスケジュールのなかで大きな混乱もなく無事に進行が進んだことはタスクフォースの方々の努力の賜物であると感じて感謝しかありません。終始雰囲気が良く雑談ができるようにまでなっていたのはSGDがスムーズに進んだ一因だったと思います。

今回の経験を今後の実務実習の指導に生かし、学生の今後の薬剤師人生の糧になるような実習が行えるように努めていきたいです。

(文：ふく薬局もとぶ店 村田智哉)

第84回 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加して

2023年2月11日、12日の2日間、オンラインで開催された認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップに参加しました。

参加人数は48名であり、そこから2つの大グループに分かれており、さらに8名/1グループの6つの小グループでスモールディスカッション（以下、SGD）が行われました。私のグループは薬局薬剤師5名、病院薬剤師3名で構成されており、山口、大分、宮崎、長崎などの九州各地からの参加者でした。また、それぞれのグループには3人のタスクフォース（ファシリテータ）が付いており、ディスカッションの方向性が定まらない時や修正が必要な時、不明点がある時は適宜助言をいただけたため、円滑にディスカッションを進めることができました。

ワークショップはSGDを中心に進められていき、2日間で8回のSGDを実施しました。それぞれのSGD実施前に関係する講義を大グループで行い、進行・書記・発表の役割を分担しながらSGDを実施し、大グループで発表・質疑応答やディスカッションを行いました。

最初に簡単な自己紹介を大きなグループ内で行い、小グループで「砂漠で遭難した時にどうするか」というコンセンサスゲームを行いました。NASAの見解との誤差がディスカッション前後で少なくなっており、ディスカッションの重要性を学ぶことと同時にオンラインでのSGDの流れを把握することができました。

その後、2日間にわたり「薬学教育の問題点」「学習基盤型教育において求められる学習目標とは」「パフォーマンスを測る教育評価とは」「真に参加型と呼べる学習方略とは」「臨床現場での学習に有効な手法」「問題点への対応」「問題解決のプロセス」の順にSGDを行いました。

私のグループでは「薬物療法の実際」というテーマに対して、目標や評価計画、ルーブリック、方略をSGDで実際に作成しました。それぞれを作成するために様々な知識や視点が必要であることを学ぶことができました。また、SGDにて実習生にどこまでを求めどのように表現すれば実習生や指導薬剤師に理解されるかを言語化し、ディスカッションする事で理解を深めると同時に自身が実務実習に携わるための心構えができたと思います。

今回、オンライン形式でのワークショップという慣れない環境ではありましたが、タスクフォース含め運営スタッフの皆様のおかげで無事に修了することができました。また、自分とは異なる立場や就業環境、価値観をもった薬剤師とSGDを行うことで多くの学びを得ると同時に刺激を受けることができました。

ワークショップの中であった「教育＝学習者の行動に価値ある変化をもたらすプロセス」との言葉を忘れずに、実務実習受け入れの際だけでなく日ごろの業務にも活かしていきたいと思います。

（文：すこやか薬局登川店 後藤彬宏）

女性薬部会

令和5年度女性薬剤師部会通常総会・講演会報告

日時：令和5年6月4日（日）10：00～12：00

会場：沖縄県薬剤師会館 研修室

<総会次第>

○開会のことば

○部会長あいさつ

○会長あいさつ

○議題

報告 1. 令和4年度事業報告

2. 令和4年度会計報告

議案 1. 令和5年度事業計画案

2. 令和5年度予算案

3. その他

○閉会のことば

<基調講演> 「緊急避妊および緊急避妊薬等について」

<特別講演> 「法廷通訳人登録50年の薬剤師が関わった事件」

司会	狩 俣	イ ソ
副部会長	狩 俣	イ ソ
部会長	草 壁	瑞 恵
会 長	前 濱	朋 子
議 長	草 壁	瑞 恵
副部会長	狩 俣	イ ソ
部会会計	高 木	英 子
	狩 俣	イ ソ
	高 木	英 子
	狩 俣	イ ソ
	金 城	初 美

令和5年6月4日、沖縄県薬剤師会館にて女性薬剤師部会総会を開催しました。司会の狩俣イソ副部会長により会が進められました。

沖縄県女性薬剤師部会は、女性薬剤師の社会的地位の向上を図るとともに、国民の保健・医療および福祉の向上発展を目標に設立された、日本女性薬剤師会に所属しています。

議題として、令和4年度事業報告・会計報告を行い承認されました。引き続き令和5年度事業計画・予算案が報告され承認されました。

事業計画の中で、昨年までは乳児健診におけるおくすり相談会を浦添市だけで行っていました。本年度から那覇市乳児健診にも参加する経緯を説明し、会員の先生方の参加を呼びかけました。

基調講演、特別講演に入る前に、前濱会長よりご挨拶を頂きました。ご自分も女性薬剤師部会会員であり、女性薬剤師部会の活動に協力していきたいと、力強いお言葉を頂きました。

基調講演：

「緊急避妊および緊急避妊薬等について」

今までは産婦人科を受診し対面診療を受けないと処方箋の交付はできませんでしたが、2019年よりオンライン診療が解禁され、オンライン診療にて薬局で受け取ることができるようになりました。沖縄県の出生率は日本で第1位ですが、非嫡出子出生率も全国より高く、とくに若年層で高くなっています。この現実には性暴力被害も隠れている可能性もあるとも言われています。オンライン診療によって緊急避妊ピルを薬局で受け取ることができることを、どれだけの方が知っているのか不明です。私たち薬剤師も性教育について正しい知識を伝えていくことはとても大切なことで、今回は「オンライン診療に伴う緊急避妊薬の調剤と、薬局の対応について」、DVDにて勉強しました。

特別講演：**「法廷通訳人登録50年の薬剤師が関わった事件」**

「法廷通訳人登録50年の薬剤師が関わった事件」と題して、金城初美先生に講演をして頂きました。先生は高校を卒業後、公費での米国留学制度の試験を受けて合格（アメリカへは軍用機で行かれたとのこと）、その後米国ワシントン大学薬学部を卒業、薬学士号を取得し帰国後日本薬剤師国家試験に合格。米人スタッフや患者が多いアドベンチストメディカルセンターに就職、同時に英語通訳案内業国家試験に合格し免許取得され、那覇市裁判所でおよそ50年近く外国人事件の通訳を担当されました。関わった事件の中でも辛かったのは、1995年に発生した少女乱暴事件で、米兵3人の通訳では声を張りあげたくなるような憤りを感じ、悲しみに襲われたとのこと。2016年に起きた米軍属による女性殺人事件も耐えがたい内容だったが、私的な感情で訳が変わったことはなかったといいます。また、ベトナム戦争の頃に米兵による薬物事件が増えたのは、明日死ぬかもしれない若者が、お酒や薬物（大麻など）に溺れて

いったことが原因だったといいます。（当時の沖縄は米国統治下で、ベトナム戦争では米軍の主要な出撃基地だった）

法廷通訳人は潤滑油であり、通訳は天職だったと言われました。成功体験の積み重ねで、50年間、仕事をやり切ったといいます。沖縄はニライカナイ（海のかなた）からいいものを運んでくれると信じている。沖縄だからこそ成し遂げられたことだと言われました。先生のモットーはいざない＝頼まれたことは断らないことだそうです。

講演をお聞きし、薬剤師と法廷通訳人の二刀流で活躍されてきた先生の生き方にとっても感動しました。また凄いを成し得てきたにも関わらず、可愛らしくフレンドリーで、「私の職業は必ず薬剤師ですよ」と薬剤師の仕事にも誇りを持っていました。話をすればするほど、引き込まれていく素敵な先生でした。

昨年第5回JACI（日本会議通訳者協会）特別功労賞も受賞されています。これからも益々のご活躍をお祈りします。

（報告：女性薬剤師部会会長 草壁瑞恵）



特別講演講師・金城初美先生（中央）を囲んで記念撮影

転載記事

女性薬剤師部会特別講演で講師を務めた金城初美先生の紹介記事です。

沖縄の50年 法廷で見つめ



薬剤師の傍ら、50年にわたり法廷通訳人を務める金城初美さん。2月22日、浦添市内（薬師守昭撮影）

公判通訳「冷静、正確に」

米軍関係者による事件事故が多い沖縄で、本土復帰直後から日本語が分からない被告と裁判官らの橋渡し役を担っている。金城初美さん(75)＝浦添市＝は、薬剤師の傍ら、裁判で外国人の被告の通訳をする「法廷通訳人」として活躍してきた。今年で登録50年。米兵による少女乱暴事件や、米軍属による女性殺害事件なども担当した。「責任は重いが、私にとつて天職。社会貢献のつもりでやっていた」と振り返った。(1面に関連)

金城初美さん(75) 浦添市

中学から英語が好きで、ワシントン大学で薬学で、普天間高校時代は英会話クラブに所属した。米軍留学制度の試験を受けて合格。「せつかくなら英語で資格を取ろう」と、薬学部に進んだ。難解な専門用語に苦しめられたが、米国人の友人の助けもあり、必死で授業に付いていった。1971

国際女性デー
International Women's Day
2023

米兵少女乱暴事件も担当

人スタッフや患者が多いアドベンチアストメディアカールセンターに就職。父の友人から法廷通訳人を勧められ、裁判所の面接を受けるなどし、復帰翌年の73年に登録した。当初は性犯罪は男性の通訳人が担い、自身は薬物事件などが多かったが、次第にあらゆる事件を担当した。病院を退職して薬局を開業した80年以降は、通訳や翻訳の仕事も次々と受けた。法廷での通訳だけでなく、警察の取り調べや少年事件の調査官調査の通訳も担当した。被告の人生を左右する公判の通訳は「とても緊張感がある。冷静に、正確に」と心掛ける。最もつらかったのは、95年に発生した少女乱暴事件の米兵3人の通訳だ。法廷で被告から出た言葉は、被害少女に対する理解に欠けていると感じた。「あり得ない」。声を上げなくなるような憤りの

後、悲しみに震われた。一呼吸置いて、日本語に訳した。2016年に起きた米軍属による女性殺害事件も「耐えがたい内容」だった。「私的な感情で訳が変わったことは絶対にない」としつつ、「感情移入しないようにするが、被害者が女性の場合、同じ女性としてつらいと感じることはこれまでたくさんあった」。

「弱さだけでなく、法的知識も求められる。金城さんの場合はさらに薬剤師としての専門知識も持ち、法曹関係者からの信頼が厚い。ただ、09年の裁判員裁判導入後、対象事件の場合は法廷外での事前準備に時間を要し、負担は重くなったと感じる。

「家族の理解があり、ここまでできた」という「仕事はやりきった」という気持ちだが、裁判所からの依頼はなるべく受けるようにしている。「法廷通訳の仕事は、もう少し続かない」とはほほ笑んだ。(前森智恵子)

法廷通訳人 日本語が分からない外国人が被告となる刑事裁判などで通訳を務める。公的な資格はないが、各地の裁判所が面接を行い通訳がある場合に「通訳人候補者名簿」に登録する。最高裁によると2021年4月時点で名簿には全国で61言語、約3500人が登録されている。裁判所の職員ではなく、選任されると報酬が支給される。国際化や裁判員制度の影響で重要性が増し、負担が増える一方で、待遇が見合わないとの指摘もある。

琉球新報 令和5年3月9日 (木)

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

その他会務報告 沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊

令和5年6月23日（金）慰霊の日〔ひめゆりの塔構内：糸満市伊原〕



左より、沖縄県医師会の稲田隆司常任理事、田名毅副会長、安里哲好会長、
沖縄県薬剤師会の神村武之相談役、川満直紀副会長、古謝玄太副会長、村田美智子理事

参拝当日の沖縄戦殉職医療人之碑には、毎年、本会と沖縄県医師会、沖縄県歯科医師会の供花が添えられています。

今年の同碑の参拝には、本会から、神村武之相談役、川満直紀・古謝玄太両副会長、村田美智子理事が参列しました。（前濱朋子会長は、日本薬剤師会関連事業出席のため欠席）

また、沖縄県医師会とも参拝時間を合わせ、安里哲好会長、田名毅副会長、稲田隆司常任理事と合同で参拝することができました。

本会の沖縄戦殉職医療人之碑への慰霊は、毎年、午前10時30分から行っておりますので、ぜひ、一緒にご参拝いただけますと幸いです。

（文：事務局 大城 喜仁）

<沖縄戦殉職医療人之碑>

沖縄戦殉職医療人之碑は、昭和23年1月28日に沖縄医療団により、ひめゆりの塔の隣に建立された。題字は、翠宮城瑞芳氏の揮毫。

沖縄戦で軍に協力し、住民の衛生、保健、治療に活動し、各地で戦死した医師、歯科医師、薬剤師、看護婦等、約60余人を合祀している。戦時体制となった時、住民の生命を預かる医師の大半は日本本土へ疎開したが、「自分たちの郷土は自分たちの手で守り抜こう」と覚悟を決めた医師達は、郷土に踏み止まって住民の治療、衛生に努力した。戦局は不利となり、日を追って増加する傷病者の治療、看護に疲れて倒れる者、さらに、敵陣に斬り込み、自決する者等、実に仁術を天命として尽くし、最後まで闘って戦没した。

薬剤師は、県内・県外合わせて10人近くになると思われる。その内の1人、本会第2代会長の長田紀助氏（会員の故久場トヨ氏、長田紀昭氏の御尊父）は、厚生大臣任命で、佐官待遇の軍属として南部戦線に向かわれ、玉城村（現南城市）字糸数付近で戦没された。喜瀬乗垣氏（キセ薬局・故喜瀬乗惟先生の御令兄）は中国大陸の山野で没された。

地区だより

第21回北部地区薬剤師会定時総会・懇親会報告

日時：令和5年6月17日（土）19：00～21：30

会場：ホテルゆがふいんおきなわ

＜式次第＞

1. 出席人員確認・宣言	報告	第1号	令和4年度会務並びに事業経過報告
2. 開会の辞		第2号	令和4年度会計監査報告
3. 会長あいさつ	議案	第1号	令和4年度決算承認の件
4. 議長選出		第2号	令和5年度事業計画案の件
5. 議題		第3号	令和5年度予算案の件
6. 閉会の辞		第4号	役員選任の件
		第5号	顧問承認の件
		第6号	令和5年度借入金最高限度額承認の件

令和5年6月17日（土）19時よりホテルゆがふいんおきなわに於いて、第21回北部地区薬剤師会定時総会が行われ、令和4年度の事業経過報告・決算報告、令和5年度事業計画・予算案等の議案が審議されました。

冒頭では浅沼会長より、「約3年続いたコロナ禍も感染症分類が5類感染症へと変更され、新たな局面を迎えようとしています。行動制限のない年末年始を迎え、マスクの着用も個人の判断に委ねられる等徐々に緩和されてきました。一方で、いまだに続く医薬品流通問題は、今年度も状況はあまり変わらないことが予想されます。医薬品卸の存在しない北部地区にとっては、ますます厳しい状況となることも想定されます。このままでは、北部の地域医療は安心とは言えない。地域住民に対して、良質で安心安全な医療を提供するためにも、行動を起こす時だと考えます。そのア

クションの1つとして、地域フォーミュラリの実現です。我々も既に実施している県外の地域を参考にし、北部地区版の地域フォーミュラリの実現に取り組みたいと考えます。コロナ禍において活動の制限がありました。が、今年度からは研修会、会員支援事業等も新しい形で今の時代にマッチしたものに更新しながら実施出来たらと考えております。いろいろと変化のある1年ではありますが、役員一丸となって取り組みますので、皆様のより一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます」と挨拶されました。

令和4年度事業経過報告では、医薬品備蓄供給として、県立北部病院と北部地区医師会病院の採用薬品と後発医薬品の備蓄を維持し、広域病院以外の処方箋応需に対するための医薬品供給も行った。後発医薬品の供給不安に対して備蓄センターが小分け対応や地区内の医薬品検索を行い、北部地区の医薬品安定供給に努めた。卸業者による便益労務提供が撤廃されたことを受け、医薬品の小分け先を探すことが難しくなっている。そのため、今後は薬局間の医薬品在庫共有サービスの利用を推奨。医薬品在庫共有サービス『メドシェア』の活用を勧め、会員薬局間での普及を目指す。配送体制は備蓄センターの職員3名と配送車両3台を用いて運営した。



会長あいさつ
浅沼 健一 会長



令和4年度事業報告
友寄 安彦 副会長



総会風景



役員席

次に、広報活動としては、新型コロナウイルス感染症が徐々に落ち着き、3年ぶりに開催された名護市、国頭地区PTA連合会主催の「お仕事体験～やんばる☆きらりん～」、薬物乱用防止啓発の為に「名護さくら祭り仮装パレード」に参加する事ができた。少しずつではあるが、以前のように薬剤師職能をPRする事ができるようになった。それに伴い、ホームページや「北部地区薬剤師会公式facebook」の更新頻度も前年度に比べて増加した。

令和5年度事業計画では、医薬品備蓄センター事業及び会員支援事業（不動態在庫ネットワーク事業、廃棄医薬品回収事業、古紙回収事業、使用済み注射針回収事業）は継続していく。また、不動態在庫の処理や医薬品の小分け先を探すことが難しくなった。そのため、今後は会員薬局間で医薬品在庫共有サービス『メドシェア』の利用を推奨し、在庫情報の可視化

を勧める。

次に薬学生の実習受入に関して、「ふるさと実習」を通し地元出身の薬学生に地域医療への認識を育て、地域の人材育成に寄与することは会営薬局の大きな役割である。今年度は7月に指導薬剤師養成ワークショップへの派遣を予定している。

なお、決議事項につきましては、審議の結果、議案の全て満場異議なしで承認されました。

また、今回は任期満了に伴い会長選挙が行われ、病院前薬局所属浅沼健一先生が再任し、新執行部案が承認されました。

総会終了後には懇親会が行われ、会員の先生方が参加されました。今回は永きにわたり当会に貢献したFAXコーナーの職員2名に対し永年勤続表彰が行われ、和気藹々とした雰囲気の中で全日程を終了しました。

(報告:北部地区薬剤師会事務局 屋嘉比康太)



懇親会風景



お知らせ

地区・部会からの原稿をお寄せ下さい！

ぜひ“おきなわ薬剤師会報”へ地区薬剤師会、部会の活動・状況報告等を投稿して下さい。活動報告以外の情報も歓迎します！

地区だより

令和5年度宮古地区薬剤師会総会報告

日時：令和5年5月20日（土）18：00～19：30

会場：シモジ薬局2階

<式次第>

1. 会長挨拶		会 長	下 地 睦 夫
2. 議題 報告	第1号 令和4年度事業報告	事務局長	上川畑 剛
	第2号 令和4年度会計監査報告	監 事	上 里 雅 江
議案	第1号 令和4年度決算承認の件	会 計	古 謝 真 己
	第2号 令和5年度事業計画（案）承認の件	会 長	下 地 睦 夫
	第3号 令和5年度会費額に関する件	会 計	古 謝 真 己
	第4号 令和5年度FAX負担金に関する件	会 計	古 謝 真 己
	第5号 令和5年度予算（案）承認の件	会 計	古 謝 真 己
	第6号 役員及び担当者改正の件	事務局長	上川畑 剛
その他	第1号 沖縄県薬剤師会総会に於ける代表質問について		
	第2号 薬剤師連携強化について		
3. 閉会の言葉		副会長	古 謝 真 己

対面での総会は実に4年ぶりである。総会開始前に本田あきこ参議院議員のメッセージ動画が放映され、私（会長：下地睦夫）がナレーションを務めた。が、かわいい文章と私の声がマッチせずクーラーの効かない会場は更に蒸し暑さを増した。

動画放映が終了し、古謝副会長が「現地参加者9名、委任5名合計14名、会員21名の過半数を達しておりこの総会は成立する。」と宣言した。冒頭、私より、「コロナ禍もようやく収束の兆しが見え、久しぶりの対面での総会となった。この長いコロナ禍の中、応需薬局は1軒も休業せず、地域住民へ薬剤医療を提供し続けて来た。会員の努力に敬意を表す。さらに、有志会員によるワクチン作業では、地域の感染予防に大いに寄与し、地区の医療関係者や行政へ薬剤師の職能を印象付けることができた。また、昨年の参議院議員選挙では神谷まさゆき氏を当選に導くことができた。医薬品の供給不足はまだまだ続いているが、上川畑事務局長の作成した“薬の売買”LINEがうまく活用され応需薬局間で情報交換や薬剤の融通ができた。会員の協力に感謝する。」と挨拶した。その後、各報告事項、



総会風景

議案事項へと移り、事業報告では上川畑事務局長より「昨年度はコロナ禍の中、目立った会活動ができなかった。」と報告があり、会計担当の古謝副会長からは「沖縄県立宮古病院の院外処方箋発行枚数が年々減少している現状を踏まえ、一昨年FAX1枚当たり負担金を140円に値上げした。現在やや負債額は減ったものの、それでも赤字となっている。本年度も昨年同様140円で設定しているが、これ以上発行枚数が減少すれば年度中に値上げとなる可能性がある。その際は会員のご理解をお願いしたい。」との説明があった。その他、決算、事業計画、年会費額に関する議案は提案通り承認を得ることができた。今年度の事

業計画には、新たに各種健康イベントへの参加協力の項目に具体名として「宮古島健康フェスタへの参加」、薬剤師連盟の活動では「令和7年の参議院選挙で本田あきこ氏の当選を目指す」が新しく盛り込まれた。

今年は役員及び担当者の改選の年である。私から「今回は会長選挙を行いたかったが、都合により準備ができなかった。耳も遠くアナログ人間だし、この場で会長へ立候補したい方がいれば即交代する。」と懇願したが、会場からは笑顔の反応しかなく、結局、提

案通り旧体制での継続となった。「私はリードしていくタイプではないので、会員、役員の協力をお願いします。私は医師会、歯科医師会との夕食会のみ参加したい。」と、新たな任期への頼りない抱負を述べ、四期目突入となった。

今年は久しぶりに各施設の薬局長も招いて懇親会も行うことを当初予定していたが、徐々に増えてきたコロナ感染状況を鑑み、懇親会は予定を変更して中止となった。

(報告：宮古地区薬剤師会会長 下地睦夫)

令和4年度八重山地区薬剤師会総会報告

日時：令和5年4月14日(金) 20:00～21:30

会場：大濱信泉記念館 研修室

<式次第>

報告	令和4年度収支決算報告	石垣綾子
	令和4年度FAXコーナー収支決算報告	宮良善朗
議題	令和5年度予算案	石垣綾子
	令和5年度FAXコーナー予算案	宮良善朗
	令和5年度活動報告	荒谷敏巳

令和5年4月14日大濱信泉記念館において、令和4年度八重山地区薬剤師会総会が開催されました。(会員15名中出席者11名)

冒頭に任期満了に伴い役員選任の話し合いが行われ、引き続き現体制での運営を承認いただきました。

(会長) 荒谷敏巳
(副会長兼書記) 新嵩由香
(会計) 石垣綾子
(理事) 宮良善朗・波田江直也

担当理事より決算報告と予算案について説明があり、主に以下の内容が審議されました。

○FAXコーナー予算案

*今年度もFAX送信料受付1回あたり130円とすること。

○活動報告

*令和6年1月開催予定の八重山地区三師会新年会は薬剤師会が幹事役の年であるため場所や日時などの日程について。

*お薬相談会開催は多職種との連携による開催ができないか？ 関係団体への提案・協力依頼について。

*八重山病院薬局との分業連絡協議会については定期的開催や今後の日程等について。

報告・議題の全てにおいて満場一致で承認され令和4年度八重山地区薬剤師会総会は無事に終了しました。

(報告：八重山地区薬剤師会会長 荒谷敏巳)

県民の皆様へ

薬剤師会をご活用ください！

やくたっ
薬達ちゃーより

あまくま^{やくだ}薬立つ情報

➤ 健康とおくすり相談会

健康とおくすり相談会は、県内各地（離島も含む）の公共の施設や広場、デパート、ショッピングセンターにおいて、毎月開催！薬剤師がアドバイザーとして、直接、お薬や健康について無料で相談に応じています。また、相談会場では体成分測定機や動脈硬化度チェックなどの機器も備え、皆様の健康維持に役立つように取り組んでいます。（会場によっては、測定機器の内容が変わることがあります。）

開催日時や会場、相談会内容などについて、お気軽にお問い合わせください。

電話 098-963-8930

➤ おくすり相談室

県民の皆様からのお薬に関する疑問、質問にお答えしています。お気軽にご相談ください。（薬局・薬店で販売されているお薬や調剤されたお薬についてのご相談など）

電話 098-963-8935

➤ 試験検査センター

試験検査センターでは、薬事法施行規則第12条第1項に関する試験検査機関の登録機関として、医薬品等の検査を行っています。

薬局で調剤されたお薬について検査を行いたい時にご相談をお受けします。（検査の際は、調剤した薬局やその他の機関への協力を仰ぐことがあります。）

なお、当センター施設設備では対応が難しい場合がありますのでご了承下さい。

電話 098-963-8934

e-mail siken@okiyaku.or.jp

➤ 薬局情報・その他

沖縄県薬剤師会から県内の「薬局マップ」が得られます。禁煙サポート薬局や訪問服薬指導実施（在宅支援）薬局などの薬局情報もお知らせします。ぜひ、あなたの“かかりつけ薬局”をおもちになってください。（詳細は沖縄県薬剤師会ホームページを閲覧ください。）

沖縄県薬剤師会ホームページでは、「沖縄の薬草」や「サプリメント」などの情報も随時アップ
<ホームページアドレス <http://www.okiyaku.or.jp>>

薬事情報おきなわ No.275

薬価基準追補収載品目

●新医薬品 2023年5月24日付

区分	販売名 ()内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名: 適応症・効能効果
内 用 薬	ドブテレット錠20mg (AVA20)	20mg1錠	7,106.60	Swedish Orphan Biovitrum Japan	アマトロンボパグマレイン酸塩 : トロンボポエチン受容体作動薬(待機的な観血的手技を予定している慢性肝疾患患者における血小板減少症の改善)(新有効成分)
	オファコルカプセル50mg	50mg1カプセル	12,596.00	レクマド	コール酸 : 先天性胆汁酸代謝異常症治療薬(先天性胆汁酸代謝異常症)(新有効成分)
注 射 薬	ヴィアレブ配合持続皮下注	10mL 1瓶	13,277	アヅヴィ	ホスレボドパ・ホスカルビドパ水和物 : 抗パーキンソン剤(レボドパ含有製剤を含む既存の薬物療法で十分な効果が得られないパーキンソン病の症状の日内変動(wearing-off現象)の改善)(新有効成分、新医療用配合剤)
	エンタイビオ皮下注108mgペン	108mg0.68mL1キット	69,888	武田薬品工業	ベドリズマブ(遺伝子組換え) : ヒト化抗ヒト $\alpha_4\beta_7$ インテグリンモノクローナル抗体製剤(中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法(既存療法で効果不十分な場合に限り))(新投与経路)
	エンタイビオ皮下注108mgシリンジ	108mg0.68mL1筒	69,888		
	オンボー点滴静注300mg	300mg15mL1瓶	192,332	日本イーライリリー	ミキズマブ(遺伝子組換え) : ヒト化抗ヒトIL-23p19モノクローナル抗体製剤(中等症から重症の潰瘍性大腸炎の寛解導入療法(既存治療で効果不十分な場合に限り))(新有効成分)
	オンボー点滴静注100mgオートインジェクター	100mg1mL1キット	126,798	日本イーライリリー	ミキズマブ(遺伝子組換え) : ヒト化抗ヒトIL-23p19モノクローナル抗体製剤(中等症から重症の潰瘍性大腸炎の維持療法(既存治療で効果不十分な場合に限り))(新有効成分)
	オンボー点滴静注100mgシリンジ	100mg1mL1筒	126,798		
	パリンジック皮下注2.5mg	2.5mg0.5mL1筒	61,606	BioMarin Pharmaceutical Japan	ペグバリアーゼ(遺伝子組換え) : フェニルケトン尿症治療剤(フェニルケトン尿症)(新有効成分)
	パリンジック皮下注10mg	10mg0.5mL1筒	64,155		
	パリンジック皮下注20mg	20mg1mL1筒	65,468		
	バスレミ皮下注250 μ gシリンジ	250 μ g0.5mL1筒	297,259	ファーマエッセンシアジャパン	ロペグインターフェロン アルファ-2b(遺伝子組換え) : 抗悪性腫瘍剤/ロペグインターフェロン α -2b製剤(真性多血症(既存治療が効果不十分又は不適当な場合に限り))(新有効成分)
バスレミ皮下注500 μ gシリンジ	500 μ g1mL1筒	565,154			
アトガム点滴静注液250mg	250mg5mL1筒	75,467	ファイザー	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン : 免疫抑制剤(中等症以上の再生不良性貧血)(新有効成分)	
外 用 薬	アポハイドローション20%	20%1g	545.80	久光製薬	オキシプチニン塩酸塩 : 原発性手掌多汗症治療剤(原発性手掌多汗症)(新効能・新剤形)
	コムレクス耳科用液1.5%	1.5%5mL1瓶	1,584.50	セオリアファーマ	レボフロキサシン水和物 : フルオロキノロン系抗菌薬(適応菌種)本剤の感性的プロウ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ(プランハメラ)・カタラーリス、肺炎桿菌、エンテロバクター属、セラチア属、インフルエンザ菌、緑膿菌、アシネトバクター属(適応症)外耳炎、中耳炎(新投与経路)
	ネキソブリッド外用ゲル5g	5g1瓶 (混合用ゲル付)	162,995.90	科研製薬	バイナッブル茎搾汁精製物 : 壊死組織除去剤(深達性II度又はIII度熱傷における壊死組織の除去)(新有効成分)

●報告品目・新キット製品 2022年11月16日付

区分	販売名 ()内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名: 適応症・効能効果
内 用 薬	タリージェOD錠2.5mg (タリージェOD2.5)	2.5mg1錠	67.20	第一三共	ミロガバリンベシル酸塩 : 神経障害性疼痛治療剤(神経障害性疼痛)(再審査期間中の剤形追加)
	タリージェOD錠5mg (タリージェOD5)	5mg1錠	92.50		
	タリージェOD錠10mg (タリージェOD10)	10mg1錠	127.90		
	タリージェOD錠15mg (タリージェOD15)	15mg1錠	154.80		

●報告品目・新キット製品 2022年11月16日付

区分	販売名 ()内は識別コードまたは製剤表示	規格単位	薬価	会社名	成分名・適応症・効能効果
内 用 薬	タケキャブOD錠10mg	10mg1錠	100.50	武田薬品工業	ボノプラザン [®] マール酸塩: カリウムイオン競合型アシッドブロッカー -プロトンポンプインヒビター-(○胃潰瘍、十二指腸潰瘍、逆流性食道炎、低用量アスピリン投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制、非ステロイド性抗炎症薬投与時における胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制 ○下記におけるヘリコバクター・ピロリの除菌の補助 胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃MALTリンパ腫、特発性血小板減少性紫斑病、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎)(再審査期間中の剤形追加)
	タケキャブOD錠20mg	20mg1錠	150.50		
注 射 薬	レバスティブ皮下注用0.95mg	0.95mg1瓶 (溶解液付)	18,421	武田薬品工業	テデュグルチド(遺伝子組換え): GLP-2アナログ製剤(短腸症候群)(再審査期間中の規格追加)
	パドセブ点滴静注用20mg	20mg1瓶	61,276	アステラス製薬	エンホルツマブ ベドチン(遺伝子組換え): 抗悪性腫瘍剤/抗Nectin-4抗体微小管阻害薬複合体(がん化学療法後に憎悪した根治切除不能な尿路上皮癌)(再審査期間中の規格追加)
	マイトマイシン眼科外用液用2mg	2mg1瓶	1,563.90	協和キリン	マイトマイシンC: 眼科用マイトマイシンC製剤(緑内障観血的手術における補助)(新投与経路)
外 用	ベピオローション2.5%	2.5%1g	98.10	マルホ	過酸化ベンゾイル: 尋常性ざ瘡治療剤(尋常性ざ瘡)(再審査期間中の剤形追加)

* 識別記号の「@」は製薬会社のマークの代用としています。

●後発医薬品 令和5年6月16日付

薬価記載されたのは25社39成分71規格113品目。内訳は、内用薬27成分53規格89品目、注射薬7成分10規格10品目、外用薬5成分8規格14品目だった。初の後発品記載は、降圧剤の「アジルサルタン」(先発品名: アジルバ錠)など11成分25規格64品目。先発品メーカーから特許使用の許可を得て、後発品として発売するオーソライズドジェネリック(AG)、初後発に限るとアジルサルタンなど2成分5規格5品目が記載された。

医薬雑誌ひろい読み

Medical Magazines Browsing

在宅医療において必要なコミュニケーションスキル

医薬品情報提供とリスクコミュニケーション

日本医事新報 5162号

調剤と情報 4月号

【積極的傾聴】大切なことは、相手の話を強い関心を持って聴いているということを相手に伝えること。相づちを打つ、相手の目を見つめる、相手の話を繰り返すことも有効である。患者が「ここが痛かった」と訴えたとしたら、「ここが痛かったのですね」と繰り返す。「共感」や「ポジティブ・フィードバック」につなげるとさらに効果的となる。【質問】オープン・クエスチョンを使用する(Yes/Noで答えられない質問)。質問をするときに言葉を選ぶことも重要である。「死」→「旅立ち」, 「不安なこと」→「気がかりなこと」等, わかりやすく、不安をあおらないものに言い換えることが望ましい。【共感】できるだけ相手の感情に焦点を当てることが重要である。「つらかった」「心細かった」「悲しかった」などの感情を取り上げて、その感情が自然であることを伝える。たとえば「抗癌剤の治療中は体だけではなく、気持ちの上でもつらかったのではないですか」等, 感情としてのつらさも共感の対象として取り上げることも効果的である。さらに、「お気持ちわかります。当然の感情ですよ」等, その感情が理解可能であることを伝える。

鈴木内科医院
鈴木 央

リスクコミュニケーションとは「リスクに関する情報を関係者間において共有し、患者・消費者が健康や安全性などのリスクに関しシェアード・ディシジョン・メイキング(SDM)ができるように意図されたコミュニケーション」とされている。(SDM: 医療分野で使われることが多く、医療従事者と患者がエビデンスに基づいた情報を共有したうえで治療の決定を行うこと) その基本方針として、情報の透明化、共有化、双方向性が求められる。患者向けの医薬品情報を提供する際は、患者が必要とする情報が提供され、患者がそれを見つけられるか、患者が理解できる情報であるか、患者のdecision makingをサポートできるか、患者がそれをもとに適切に行動できるかをチェックしておきたい。患者への医薬品情報の提供(コミュニケーションとして)の意義は患者がそれを理解して、医薬品から得られるベネフィットを最大化、リスクを最小化し、行動変容に繋げることにある。

熊本大学大学院生命科学研究部
山本 美智子



Medical News

●電子カルテ情報、24年度から順次共有-医療DX工程表（日経新聞6月2日）

政府は2日、「医療DX推進本部」を開き、患者の医療情報を全国で共有できる「全国医療情報プラットフォーム」の運用時期などの工程表を確認した。プラットフォームは健診情報や電子カルテなどの医療情報のほか、介護情報を共有する基盤となる。それぞれの情報の読み取りや蓄積にシステム改修が必要になる。介護情報は2026年度の全国展開を目指す。電子カルテ情報の共有は24年度から一部の医療機関で運用を始め、遅くとも30年度の浸透を目指す。

●北海道薬 無薬局町村に薬剤師派遣-オンラインから方向転換（薬事日報6月5日）

北海道薬剤師会は、無薬局町村に近隣市町の薬局薬剤師を定期的に派遣し、地域住民に薬剤師サービスを提供する事業を計画している。服薬や残薬に関する相談会を開催するほか、薬剤師がケアマネージャーと同行して残薬の確認や服薬指導を行うことなどを想定している。無薬局町村の高齢患者に遠隔地域から情報通信機器を活用したフォローアップを行うモデル事業を展開してきたが、住民にすぐに実装させるのは難しいと判断。薬剤師を派遣することで、薬剤師が提供するサービスの価値を実感してもらい、オンラインによるフォローアップの具体的方法の検討へとつなげたい考え。

●調剤外部委託を特区で提案-27社がコンソーシアム発足（薬事日報6月5日）

調剤業務の一部外部委託の運用方法等を検証する「薬局DX推進コンソーシアム」が1日に発足。アインファーマシーズやウエルシア薬局など27社が名を連ねた。今月下旬に国家戦略特区事業として、調剤業務の一部外部委託の実施を内閣府に再提案する計画。早ければ今秋頃に開始したい考え。コンソーシアムは、3段階のフェーズで外部委託の運用を検証する構想で、実施地域は大阪市内に限定する。

●かかりつけ薬剤師浸透せず「知っている」は4割未満~健保連調査（薬事日報6月7日）

健康保険組合連合会は、「医療・介護に関する国民意識調査」の結果を公表し、かかりつけ薬剤師の知名度は4割未満で、2017年の前回調査から横ばいとなったことが分かった。一方、お薬手帳の利用率は5割を超え、70代では8割に迫るなど、高齢者ほど高い利用率を示した。調査は昨年7月に3000人を対象にインターネットで行った。

●要指導薬・濫用リスク薬の取扱いなどは規制強化に舵（薬局新聞6月28日）

医薬品の販売制度に関する検討会は12日の第5回会合で医薬品の販売区分と販売方法を議論し、焦点にあげられる要指導医薬品および濫用のおそれのある医薬品（濫用リスク薬）の取り扱い、処方箋医薬品以外の医療用薬販売では総じて規制強化が必要との展開を辿った。要指導薬は区分の見直しにおいて、アクセス向上の側面からデジタル活用やスイッチ促進を勘案した規制緩和の可能性も含む一方、濫用リスク薬では若年層における市販薬濫用問題を重視し、販売店舗の限定やネット販売の禁止といった強い対策を求める意見が集中。いわゆる零売薬局は第1回会合同様に問題点や危機感の指摘に終始し、何らかの法的な規制を促す方向性がさらに濃厚となっている。

●薬局・薬剤師めぐる課題に対する組織的活動強化（薬局新聞6月28日）

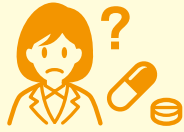
日本チェーンドラッグストア協会（JACDS）は16日に開いた総会で今年度事業計画と予算を固めるとともに、薬局・薬剤師を取り巻く問題への対応力向上を目的として組織の一部改編を行った。薬剤師や登録販売者、管理栄養士ら店舗に常駐する専門家のサービス向上を中核とする地域生活拠点化推進計画に沿ったもので、DgSの調剤実績拡大を背景とした診療報酬に対する組織的な要望をはじめ、薬局の機能や薬剤師職能に関する業界活動の強化を図る。

●政府 零売「調剤に該当せず」-早稲田議員への答弁（薬事日報6月30日）

政府は27日、処方箋なしに一部医療用医薬品を薬局で販売する「零売」について、薬剤師法に基づき、調剤に該当しないとする答弁書を閣議決定した。早稲田夕季衆議院議員（立憲民主党）が提出していた質問主意書に対するもの。早稲田氏は15日に、「零売が調剤に該当するかどうかに関する質問主意書」を提出。具体的内容として、零売は薬剤師法第23条における「調剤」に当たるかどうか政府の見解を求め、零売が調剤であるならば、その法的根拠も明らかにすべきとしていた。

●調剤一部外部委託で指針-温度管理必要な薬は不可~厚生労働省（薬事日報7月5日）

厚生労働省は6月30日、「調剤業務における調製業務の一部外部委託における医療安全確保と適正実施のためガイドライン（暫定版）」を公表。実施に当たっては、患者の同意を前提に手順書の整備や教育訓練、委託元の指示の記録、委託先での作業が確認できる記録の保存などを求めた。受託薬局が備えるべき規格として、調剤業務の一部受託における品質マネジメントシステムに関する国際規格「ISO9001」に第三者認証取得がなされていることを挙げた。



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2023年
No.4
事例3

疑義照会・処方医への情報提供

処方時の薬剤間違い



事例

【事例の詳細】

70歳代の患者に【般】アセトアミノフェン錠200mg 1回2錠1日1回7日分が処方された。患者から、左腰部に発疹があり受診したところ、医師からは带状疱疹と診断されたが、痛みはないことを聴取した。薬剤師は、処方された薬剤と患者から聴取した内容が一致しないことに違和感があったが、指示通りに服用するよう説明してカロナール錠200を交付した。その際、患者に、疑わしい点があれば医療機関に確認することも併せて伝えた。後日、医療機関から連絡があり、アメンナリーフ錠200mgの入力間違いであることが分かった。患者に連絡を取ったところ、すでに2錠服用していた。

【推定される要因】

薬剤を処方する際、薬剤名の頭文字の「ア」と末尾の「錠200mg」が同じであること、どちらも带状疱疹の患者に使用される可能性がある薬剤であることから、薬剤名の入力を間違えたと考えられる。薬局は、繁忙期である年末の昼前の時間帯であったため、多くの患者で混雑していた。当該患者は、混雑している医療機関で長時間待たされたためイライラしていた。薬剤師は、患者との会話がかみ合わないことに疑問を持ったが、患者に早く薬剤を交付しなければならないと焦り、疑義照会は行わずに薬剤を交付した。

【薬局での取り組み】

処方内容に疑わしい点がある場合は、医療機関に確認するよう患者に伝えるのではなく、薬剤師が疑義照会を行うことを改めて認識する。疑義照会を行う際は、疑義照会の必要性を患者に説明する。繁忙期だけでも人員を増やし、患者に丁寧に対応する時間を確保できるような体制にする。



その他の情報

有効成分	アセトアミノフェン	アメンナメビル
含量（1錠中）	200mg	200mg
薬剤名	先発医薬品	－
	後発医薬品	アセトアミノフェン錠200mg* カロナール錠200
薬効分類	解熱鎮痛剤	抗ヘルペスウイルス剤

2023年3月6日現在
※製薬企業名を除いて記載した。



事例のポイント

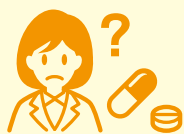
- 本事例は、処方意図と異なる薬剤が誤って処方された際、処方箋を応需した薬剤師が、処方内容と患者から聴取した内容が一致しないことに違和感を持ちながら、疑義照会を行わずに薬剤を交付した事例である。
- 薬剤師は、患者の症状や疾患を把握し、処方された薬剤の効能・効果と一致しているかを検討して、入力間違い等による誤った処方である可能性を排除せず、疑わしい点があれば処方医に疑義照会を行う必要がある。薬学的疑義を解消することなく、患者に薬剤を交付してはならない。
- 疑義照会を行う際は、患者に、その必要性や薬剤の交付までに時間がかかることを十分に説明し、理解が得られるよう対応する必要がある。疑義照会を行う場合があることについて待合室に掲示するなど、日頃からの患者への啓発も重要である。
- 疑義照会を行うことも含め、調剤に関する決められた手順を理解し、遵守することが重要である。多忙であっても手順通りに業務を遂行するためには、業務の効率化や環境整備にも取り組む必要がある。また、疑義照会を適切に行えるよう、薬学的知見を深めるための教育も重要である。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2023年
No.5
事例2

疑義照会・処方医への情報提供

副作用の回避



事例

【事例の詳細】

救急外来を受診した80歳代の患者に、プチルスコボラミン臭化物錠10mg「ツルハラ」が処方された。患者にとって、処方した医療機関と当薬局の利用は初めてであった。薬剤師は、患者が持参したお薬手帳に緑内障連絡カードが挟まれていることに気付いた。その緑内障連絡カードに、当該患者の緑内障の病型についての記載はなかったが、「抗コリン作用・交感神経刺激作用のある薬剤の使用禁止」の欄にシ点チェックがあった。プチルスコボラミン臭化物は抗コリン作用があるため、薬剤師が救急外来の処方医に疑義照会したところ、処方削除となった。

【推定される要因】

患者は、眼科医から飲んではいけない薬剤があると説明を受け、緑内障連絡カードを渡されていたが、そのことを受診した医療機関の医師や看護師に伝えていなかった。緑内障連絡カードはお薬手帳のカバーの内側に挟んであり、保険証などで隠れていたため、医療機関では見落とされた可能性がある。

【薬局での取り組み】

患者に、緑内障連絡カードの重要性を説明し、お薬手帳カバーの表紙の見える部分に挟んで返却した。今後も、提出されたお薬手帳はカバーの内側まで確認し、重要な情報を見落とさない。



その他の情報

プチルスコボラミン臭化物錠10mg「ツルハラ」の添付文書 2019年7月改訂（第9版）（一部抜粋）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

（2）閉塞隅角緑内障の患者 [抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。]

【使用上の注意】

（1）慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

7）開放隅角緑内障の患者 [抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。]

緑内障連絡カード（一部抜粋）

医療機関・薬局(薬剤師)へ	参考 緑内障禁忌の記載がある薬剤
<p>当患者様は、緑内障の治療(前通観察)中です。薬剤処方、検査、手術の際には以下の点にご注意願います。なお、緑内障の病型は変化することがあります。</p> <p>●緑内障の病型</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 開放隅角 <input type="checkbox"/> 閉塞隅角 <input type="checkbox"/> その他 <p>●緑内障禁忌薬の使用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 使用制限はありません <input type="checkbox"/> 抗コリン作用・交感神経刺激作用のある薬剤の使用禁止 <input type="checkbox"/> 眼科への問い合わせ希望 	<p>精神・神経治療薬(抗不安薬等)</p> <p>中枢神経治療薬(抗てんかん薬・抗パーキンソン薬)</p> <p>消化性潰瘍治療薬(鎮痛剤)</p> <p>抗ヒスタミン剤</p> <p>循環器系治療薬</p> <p>緑内障治療薬</p> <p>気管支拡張剤</p>

公益社団法人日本眼科医会 作成(参照2023年3月31日)



事例のポイント

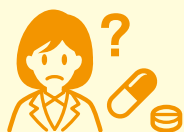
- 本事例は、薬剤師がお薬手帳に挟んであった緑内障連絡カードのチェック欄を確認し、疑義照会した事例である。患者が救急外来を受診した場合、患者情報の確認が不十分なまま処方箋が発行される可能性に留意し、薬剤師はより一層注意深く情報収集する必要がある。
- 今回の事例では、薬剤師が緑内障連絡カードをお薬手帳の目立つ場所に挟んで患者に返却した。薬剤師が患者にお薬手帳や緑内障連絡カードを適切に活用するように促すことは、薬物療法の安全性を高めるために有用である。



公益社団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通）FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 共有すべき事例

2023年
No.5
事例3

疑義照会・処方医への情報提供

併用禁忌



事例

【事例の詳細】

医療機関Aからイグザレルト錠15mgを処方されている患者は、医療機関Bから口腔カンジダ症と診断されフロリードゲル経口用2%が処方された。フロリードゲル経口用2%はイグザレルト錠15mgと併用禁忌であるが、医療機関Bの処方医は患者に、フロリードゲル経口用2%を口腔内に塗布後、吐き出さうがいをするよう伝えていた。薬剤師が製薬企業に問い合わせたところ、フロリードゲル経口用2%は口腔内では吸収されないが、吐き出しても少量が体内に入り、併用薬の代謝を阻害して血中濃度を上昇させた報告があることが分かった。患者は80歳代と高齢であり、フロリードゲル経口用2%を誤って飲み込む可能性も考え、薬剤師は、医療機関Bの処方医に疑義照会を行った。その結果、ファンギゾンシロップ100mg/mLへ変更になった。

【推定される要因】

医療機関Bの処方医は、フロリードゲル経口用2%を口腔内に塗布後に吐き出さうがいをすれば、併用薬と相互作用を起こさないと考えた可能性がある。

【薬局での取り組み】

併用禁忌の薬剤が処方された際は、添付文書等で詳細を確認する。疑義照会をするうえで必要な情報が不足する場合は、製薬企業から情報を入手する。それらの情報を処方医に提供し、適切な代替薬への変更を提案する。



その他の情報

フロリードゲル経口用2% 製品Q&A*

Q:フロリードゲル経口用2%を口に含んだ後に飲み込まなければ、相互作用を防ぐことができますか？

A:フロリードゲル経口用2%を飲み込まずに吐き出しても、相互作用を起こした症例が報告されています。本剤を飲み込まない場合であっても、併用禁忌の薬剤との併用は避けてください。また、本剤は通常、口腔内に含んだ後、飲み込みます。口に含んだ後、吐き出す使い方については有効性・安全性の検討を実施しておらず、承認外の使用法となります。

*持田製薬株式会社ホームページ（参照2023年3月31日）

<https://med.mochida.co.jp/qa/flo-g-h.html>



事例のポイント

- 本事例は、処方医がフロリードゲル経口用2%は吐き出せば併用禁忌に該当しないと考えた可能性のある処方について、薬剤師が製薬企業に問い合わせた結果、処方医が変更になった好事例である。薬剤師が安全な薬物療法を患者に提供するためには、正確な情報に基づいて処方医に疑義照会を行うことが肝要である。
- 薬剤師は、処方医から患者に指示された薬剤の使用法が添付文書や診療ガイドライン等に記載されていない場合は、その有効性や安全性について製薬企業に確認するなど、広く情報を収集して適切に対応する必要がある。
- 医師が処方設計する際に適切な判断を行えるよう、薬剤に関する有用な情報を提供しサポートすることは、薬剤師の重要な役割のひとつである。



公益財団法人 日本医療機能評価機構
医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル
電話：03-5217-0281（直通） FAX：03-5217-0253（直通）
<https://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。※この情報の作成にあたり、薬局から報告された事例の内容等について、読みやすくするため文章の一部を修正することがあります。そのため、「事例検索」で閲覧できる事例の内容等と表現が異なる場合がありますのでご注意ください。



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口
「おくすり相談室」受付事例から
消費者専用電話：098-963-8935

●医薬品一般●

[質問] 薬剤師からモンテルカストはアレルギー性鼻炎に使用することもあると聞いたけど、本当ですか。

[回答] はい。このお薬は気管支喘息に伴う咳や喘鳴、息苦しさなどの症状を起こりにくくする効果がある他、鼻の通りを良くし、アレルギー性鼻炎に伴う鼻づまり、鼻水、くしゃみなどの症状にも効果があります。

[質問] 子供（10代）が精神科から粉薬のフルボキサミン25mgとプロマゼパム1mgをもらっている。どちらの薬も見た目に同じ位の量が入っているので、薬剤師に聞いたら他のものを混ぜていると言われた。そういうことってあるんですか。

[回答] お薬の説明書等に記載のある薬のmg数はそれぞれの薬の主成分の量です。処方された粉薬の量が少なすぎると、服用時に薬の袋にへばりついて残ってしまったり、量のばらつきが出てしまう可能性があるため、薬の効果等に影響のない乳糖などの賦形剤を混ぜ増量して均一にします。薬剤師の言う「他のもの」とは、賦形剤のことと思われます。今回、成分量が異なる2種類の薬剤が処方されましたが、賦形剤で調整したため、患者様にお渡ししたお薬が見た目に同じ量になったと考えます。

[質問] 1才3ヶ月の子供が39℃近く熱がある。鼻水と咳もある。小児科からは今日は予約が取れないと言われた。市販の薬で利用できる薬はないですか。

[回答] 市販の風邪シロップには、生後3か月から服用できる製品もあります。薬店等でお尋ねください。ただし、子供さんの顔色が悪く呼吸が苦しそうな場合にはすぐに救急を受診してください。

●安全性情報●

[質問] 授乳中。歯科を受診したら、セフトレンピボキシルを出すけど、授乳中に出してもいいのか産婦人科に聞いてと言われた。

[回答] セフトレンピボキシルを含むセフェム系の抗生物質は、通常小児の感染症治療にも安全に使用されています。母乳を通じて子供が摂取する薬剤の量は少なく、子供への悪影響についても大きな問題はないとされていますので、安心して服用していただけます。

[質問] 授乳中。眼の瞼が腫れで眼科からガチフロ点

眼液0.3%とフルオロメトロン0.1%が処方された。大丈夫ですか。

[回答] 点眼液などの母乳移行する量はごくわずかですので、赤ちゃんに影響する可能性は低いとされています。また、両薬剤とも授乳婦への投与は問題ないとされています。

[質問] 妊娠6週半ば。発熱して耳鼻科に行ったら、頓服でカロナール、その他にアジスロマイシン、アスピリン散、アムプロキシソールを処方された。飲んでも大丈夫ですか。

[回答] 妊娠6週頃は赤ちゃんの体の大切な器官が作られる時期で、薬の影響を受けやすい時期になります。処方されたカロナールの成分であるアセトアミノフェンは、妊娠中にも服用できる解熱鎮痛薬として使用されています。アジスロマイシンについても同様です。アスピリンやアムプロキシソールについては服用により赤ちゃんへの影響、危険度が上昇することは考えられないとされています。妊娠中に激しい咳が続く場合には、時に流産を引き起こす危険性もあるため、症状のある時には医師の指示通りに服用してください。

[質問] 妊娠25週。喉が痛くて耳鼻科を受診した。セフカペンピボキシルとカルボシステインを5日分もらった。カロナールは家にあるのでもらわなかった。ネットで調べたら絶対過渡期となっていた。大丈夫ですか。

[回答] 25週は安定期にはいっており、薬の影響の少ない時期となります。セフカペンピボキシルは抗菌薬の中でも、胎児に対する毒性は低いと考えられているため、妊婦に投与する場合の第一選択薬と考えられています。また、カルボシステインは妊娠には影響しない可能性が高いとされています。

[質問] 2年前からバイアスピリンを飲んでいる。1年前から体調が崩れ、胃の不快感がある。近々胃カメラの検査が予定されているが、薬の副作用かどうか教えて欲しい。

[回答] バイアスピリンの服用による胃の不快感については服用期間等のデータはないが、胃潰瘍については1年以上、2年以上等の期間を経て発現しているといった報告があります。胃の不快感については副作用だけでなく他の病気が隠れている場合もあるため、医師の指示通りに検査を受けるようにしてください。



沖縄県薬剤師会・消費者くすり相談窓口
「おくすり相談室」受付事例から
消費者専用電話：098-963-8935

●ドーピング●

[質問] 選手が鼻炎で市販のヒストミン鼻炎カプセルLP（小林薬品工業）を使用している。とてもよく効いているというが、ドーピングは大丈夫ですか。（スポーツ団体）

[回答] この製品に含まれているプソイドエフェドリンは興奮作用等があるため競技会時に禁止されています。ただし、競技会前に服用しても大会時に体から排出されずに残っている場合もありますので、日頃から禁止物質の含まれていない製品を服用するようにしましょう。日本スポーツ協会のアンチ・ドーピング使用可能薬リスト（かぜ薬）に記載されているパイロンPL錠、パイロンPL錠ゴールド、パブロンSゴールドW錠等は安心して服用していただけます。

[質問] 選手が成長ホルモン分泌不全性低身長症の注射ノルディトロピンフレックスプロ注10mg（ソマトロピン）を使用している。大丈夫ですか。

[回答] このお薬は常（競技会時及び競技会外）に禁止される物質となっています。成長ホルモン分泌不全の患者様に使用されるヒト成長ホルモン補充療法に対する代替治療はないため、治療使用特例（TUE）申請が必要となります。まずはご自身のアスリート・カテゴリーの確認を行い、TUEの提出期限と申請先をご確認し、早めに主治医へご相談ください。

[その他ご意見・ご相談]

- ・訪問を行っている薬局を教えて欲しい。
- ・ダチョウの卵で作られたマスク（5千円位）を使っている。それを使ってもいいですか？
- ・頭痛で解熱剤のカロナールは使えますか。
- ・5/8から国の対応が変わったが、今日からの生活について教えて欲しい。マスクなど感染対策はどうすればいいですか。
- ・薬局でゾコーバとかコロナ治療薬は販売していない、処方箋がないと買えないと言われた。病院に行かなくても買えるようにならないのか。
- ・薬剤師にお父さんと呼ばれた。そう呼ばれる筋合いはない。
- ・統合失調症ではないのに医師からそう断言されている。来月からジスバルという薬を処方されると言われているが飲みたくない。
- ・薬剤師に診察の予約日に来れない理由をしつこく聞

かれた。薬剤師って患者さんにどこまで立ち入っていいんですか。

・薬局によってキットの値段が違うの？前に同じものを買ったんだけど、値段がだいぶ違っていた。統一すべきでは？

●医療機関から●

[質問] 抗ウイルス薬を処方するのにコロナの抗原検査などが陽性でないと処方できないのか。

[回答] 新型コロナウイルス感染症における抗ウイルス薬の処方の留意事項等については、厚生労働省より令和5年5月22日付けで通知が発出されています。ご参考までに、「新型コロナウイルス感染症における経口抗ウイルス薬（ゾコーバ錠125mg）の取扱いについて（所有権の移転および再譲渡）」より抜粋したものをお示しします。パキロビッドバック及びラゲブリオカプセルについても同様の文書が発出されています。

Q:臨床症状から診断した場合においても、検査を実施せずにゾコーバ錠を処方することは可能か。

A:新型コロナウイルス感染症の診断にあたっては、添付文書において「本剤の投与対象については最新のガイドラインを参考にすること」とあり、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第9.0版」（令和5年2月10日）、及び日本感染症学会から示されている「COVID-19に対する薬物治療の考え方第15.1版」（令和5年2月14日）による最新の指針等を参照してください。なお、臨床症状から診断して本薬剤を処方することは可能ですが、日本感染症学会から示されている「COVID-19に対する薬物治療の考え方第15.1版」では、「原則として、PCR、抗原検査などによりCOVID-19の確定診断がついていない患者は薬物治療の適応とならない。」とされていることを留意してください。

[その他の質問]

- ・別の施設内でコロナ陽性を確認したというが、ラゲブリオなどを処方してもいいのか。
- ・抗ウイルス薬を処方する際には同意書が必要ですか。同意書のひな型はありますか。

Medical Magazines titles

今月の特集・論文

*薬事情報センターで購読している雑誌の中より特集および文献情報を掲載しました。

【今月の特集】

- ◇medecina 60巻5号
 - *臨床医からみたPOCT
- ◇medecina 60巻6号
 - *Common diseaseの処方箋ファイル 臨床経過から学ぶ20症例
- ◇medecina 60巻7号
 - *整形外科 プライマリ・ケア
- ◇エキスパートナース 39巻5月号
 - *“心電図あるある”10の悩み
- ◇エキスパートナース 39巻6月号
 - *術後患者のみるべき“ここ”
- ◇エキスパートナース 39巻7月号
 - *すぐにうまくできる！医師への報告
- ◇きょうの健康 5月号
 - *肥満対策、中高年の転倒&腰痛予防
- ◇きょうの健康 6月号
 - *胃がん・食道がん、腎臓体操
- ◇きょうの健康 7月号
 - *肝臓病
- ◇月刊薬事 65巻6号
 - *【特集1】気になるがん治療の最新Topics
 - 【特集2】免疫チェックポイント阻害薬の使い方&irAE対策
- ◇月刊薬事 65巻7号（臨増）
 - *病態生理学
- ◇月刊薬事 65巻8号
 - *抗真菌薬選択がよくわかる 表在性皮膚真菌症・深在性真菌症の薬物治療
- ◇産科と婦人科 90巻5号
 - *時間の流れと産婦人科生物学
- ◇産科と婦人科 90巻6号
 - *「痛み」に強くなる
- ◇産科と婦人科 90巻7号
 - *ここまで進んだ産婦人科領域の検査法 - 先制医療に向けて -
- ◇総合診療 33巻5号
 - *疾患別“イルネススクリプト”で学ぶ「腹痛診療」を磨き上げる22症例
- ◇総合診療 32巻6号
 - *知っておくべき！モノクローナ薬たち（モノクローナル抗体）
- ◇総合診療 32巻7号
 - *“消去法”で考え直す「抗菌薬選択」のセオリー 広域に考え、狭域に始める
- ◇調剤と情報 29巻5号
 - *リスクコミュニケーションとヘルスリテラシー
- ◇調剤と情報 29巻6号
 - *薬局から発信するエビデンス 薬剤師の臨床研究
- ◇調剤と情報 29巻7号（臨増）
 - *医療用麻薬のトリセツ
- ◇調剤と情報 29巻8号
 - *さまざまな視点で考える在宅医療の患者の目標達成
- ◇治療 105巻5号
 - *運動療法・食事療法のエッセンス
- ◇治療 105巻6号
 - *患者の不安をやわらげるクリニカルスキル
- ◇治療 105巻7号
 - *関節痛
- ◇日経ドラッグインフォメーション 307号
 - *同種同効薬の使い分け
- ◇日経ドラッグインフォメーション 308号
 - *令和時代の医師との付き合い方
- ◇日本医事新報 5163号
 - *神経障害性疼痛薬物療法 Up-to-Date
- ◇日本医事新報 5164号
 - *新概念「MAFLD」で変わる脂肪肝の診療
- ◇日本医事新報 5165号
 - *自己免疫疾患としての円形脱毛症 - 発症機序と治療のup date
- ◇日本医事新報 5168号
 - *YUMINO 流心不全の在宅管理 -5つのポイント
- ◇日本医事新報 5169号
 - *フレイル・サルコペニアを考慮した高齢者の肥満症対策
- ◇日本医事新報 5175号
 - *小児とは違う成人のウイルス発疹症 - 手足口病とヒトパルボウイルスB19感染症
- ◇薬局 74巻6号
 - *硬すぎずゆるすぎないやさしい便秘・下痢サポート術
- ◇薬局 74巻7号
 - *みるみるわかる 眼とくすり
- ◇薬局 74巻8号
 - *循環（ながれ）を止めるな！血液凝固とくすり

【今月の論文等】

■薬物療法■

- ▶がん治療におけるバイオシミラー
月刊薬事 65 (6) p.38
- ▶型が身につく薬物動態学 [16] (完) 血漿タンパク結合と血中濃度
月刊薬事 65 (6) p.117
- ▶侵襲性カンジダ症に対する診断・治療ガイドラインバンドル (ACTIONs Bundle 2014) 薬剤師の活用法
月刊薬事 65 (8) p.57
- ▶深在性真菌症の薬物治療～抗真菌薬の予防投与
月刊薬事 65 (8) p.99
- ▶長引く咳に処方したPPIとプレガパリン
日経ドラッグインフォメーション (307) p.PE035
- ▶いまさら聞けない?! 坐剤・浣腸の正しい取り扱い
薬局 74 (6) p.103
- ▶基剤の性質の違いで理解する! 点眼順序
薬局 74 (7) p.71

■新薬■

- ▶添付文書からRMP、審査報告書まで 新薬ななめ読み [31]
ミチーガ® 皮下注用〔ネモリズマブ(遺伝子組換え)〕
月刊薬事 65 (6) p.123
- ▶添付文書からRMP、審査報告書まで 新薬ななめ読み [32]
アリドネ®パッチ 27.5mg、55mg (ドネペジル)
月刊薬事 65 (8) p.136

■安全性情報■

- ▶免疫関連有害事象(irAE)対策～irAEの症状と発現時期-早期に発見・治療を開始するために
月刊薬事 65 (6) p.89
- ▶免疫関連有害事象(irAE)対策～irAEの対策・対応
月刊薬事 65 (6) p.96
- ▶免疫関連有害事象(irAE)対策～irAEフォローアップ-退院時指導、保険薬局との情報交換・連携
月刊薬事 65 (6) p.101
- ▶抗真菌薬の薬物相互作用
月刊薬事 65 (8) p.41
- ▶ケースでわかる処方箋のチェックポイント 外来・薬局感染症学 [13]
抗菌薬と相互作用をもつ薬剤服用中の患者/抗菌薬アレルギーの患者/受診勧奨を行うべき患者
月刊薬事 65 (6) p.151
- ▶総合診療医が教える。外来薬物療法ケースカンファレンス [15]
重症薬疹の原因となりやすい薬剤はどれか?
月刊薬事 65 (6) p.143
- ▶総合診療医が教える。外来薬物療法ケースカンファレンス [16]

薬物代謝酵素のCYP3A4で代謝されないスタチンを3つ選べ

- 月刊薬事 65 (8) p.129
- ▶周術期中止・継続の評価が必要なくすり
薬局 74 (8) p.113
- ▶1日2回服用のイグザレルトを飲み忘れたら
日経ドラッグインフォメーション (307) p.023
- ▶アセトアミノフェン投与時に注意すべき副作用
日経ドラッグインフォメーション (308) p.045
- ▶論文で読み解くくすりのリスク～酸化マグネシウムと高Mg血症のリスク
日経ドラッグインフォメーション (307) p.PE016
- ▶論文で読み解くくすりのリスク～ピボキシル基を有する抗菌薬と低血糖
日経ドラッグインフォメーション (307) p.PE016

■薬剤師業務■

- ▶フォローアップに活かす薬歴の書き方～SGLT2阻害薬開始時の記載のコツ
日経ドラッグインフォメーション (308) p.PE016
- ▶多職種連携と情報共有ツール
調剤と情報 29 (8) p.54
- ▶オピオイド開始時の説明の仕方と、経口/貼付オピオイドの使い方
治療 105 (6) p.794
- ▶[場面別で学ぶ!便秘薬の使い方・患者指導のポイント]
服用タイミングの自己調節が難しい
薬局 74 (6) p.35
- ▶そのさし方、誰が教えた?点眼指導のコツとピットフォール
薬局 74 (7) p.80

■新型コロナウイルス感染症関連■

- ▶がん患者とCOVID-19
月刊薬事 65 (6) p.21
- ▶味覚障害(コロナ後遺症)×当帰芍薬散[漢方スツキリ方程式(73)]
日本医事新報(5163) p.14
- ▶COVID-19における凝固線溶異常
薬局 74 (8) p.82
- ▶新型コロナウイルス感染患者の排便トラブルに対処する
薬局 74 (6) p.87

■漢方薬■

- ▶ホルモン治療中に処方された加味逍遙散
日経ドラッグインフォメーション (308) p.027

■その他■

- ▶手指衛生による接触皮膚炎の対応は?
日本医事新報(5173) p.58

Book Information

日薬幹旋図書のご注文は事務局(代表:098-963-8930)までお願いします。

※日薬幹旋図書は会員価格で購入できます。

※会員価格のない書籍については定価での購入となります。

★印は情報センターに見本があります。

★ 図解 医薬品情報学

【編集】医療データの活用基盤整備機構 折井孝男 【発行】南山堂

【発行日】2023年4月 【版型/頁】B5判/439頁 【定価】4,950円(税込)

医薬品情報を有効に活用するための入門書!

インターネット等により誰もが容易に情報入手可能な現在、薬剤師もその中から必要な情報を見極め入手し、自信をもって発信・提供することが望まれる。医薬品情報に関わる基礎的な要素を、さまざまな角度から分かりやすく解説した。薬学生や医薬関係者のテキストとして最適な書である。今版より、講義等で使用可能な演習問題を新設した。

薬剤師のための 基礎からの検査値の読み方 第2版

臨床検査専門医×薬剤師の視点

【編著】上裕 俊法、森嶋 祥之 【発行】じほう 【発行日】2023年6月

【版型/頁】A5判/320頁 【定価】3,740円(税込)

臨床検査値は、示された数値を解釈し、臨床医学的に判読して初めて意味をもちます。臨床検査値を読み解くために薬剤師として知っておきたい基本的検査の基礎知識とその解析手順を、臨床検査専門医と薬剤師の2つの視点で解説している。

薬剤師のための感染抑制マニュアル 第5版

【監修】日本病院薬剤師会 【発行】薬事日報社 【発行日】2023年5月

【版型/頁】A4判/588頁 【定価】7,370円(税込)

感染制御や感染症治療に必要な知識を網羅!

感染制御に携わる薬剤師に必要な基礎知識(問題となる微生物や原因菌、対応する抗菌薬、薬物療法、予防など)から実践的な内容まで詳細に解説している。新型コロナをはじめとした感染制御に関する最新情報や国際的な動向と取り組みについても追記するなど内容をより一層充実させた6年ぶりの全面改訂版。

ほぼ2ページでギュッとまとめた生化学 1版

【著者】元千葉大学大学院理学研究科 教授 田村隆明 【発行】南山堂

【発行日】2023年6月 【版型/頁】B5判/212頁 【定価】2,200円(税込)

もうつまづかない!生化学の基本をスッキリ解説

生化学の基本108テーマをほぼ2ページに凝縮。わかりやすい解説と豊富な図表で要点が理解できる。身近な話題や最新のトピックスを取り上げたコラムも多数掲載している。

薬事情報センターの利用のしかた

○業務内容

(1)医薬品情報の提供 (2)「薬事情報おきなわ」の編集・発行 (3)医薬品に関するお問い合わせ (4)県薬ホームページの制作・管理 (5)消費者薬相談業務「おくすり相談室」 (6)ドーピング防止ホットライン業務

○業務時間

(会員対象) 平日 午前：8時30分～12時 午後：1時～5時30分 (土・日・祝日休業)

(一般対象) 「おくすり相談室」・「薬剤師会ドーピング防止ホットライン」

平日(月～金) 午前：9時～12時 午後：1時～5時

※おくすり相談室及びドーピング防止ホットラインの電話は **098-963-8935** になります。お気軽にご利用ください。

TEL : 098-963-8931 FAX : 098-963-8937
沖縄県薬剤師会 薬事情報センター

令和5年度

医療機器販売等の営業所管理者・医療機器修理業の責任技術者に対する継続研修 ～ 高度管理医療機器等継続研修会の開催について～

平成14年に公布され平成17年4月より施行された改正薬事法により、医療機器の安全対策が強化され、市販後安全管理制度の導入により、販売業者等に係る遵守事項が強化されました。

高度管理医療機器等を取り扱う場合は、事前に都道府県知事の許可を受ける必要があります。平成18年度からは、許可を受けた販売業等の営業所の管理者は、薬機法施行規則第168条に基づき、毎年度研修を受講することが義務付けられています。

沖縄県薬剤師会では、この継続研修を事業に組み入れ、継続研修会を開催いたします。

つきましては、下記の通り標記研修会を開催しますのでお知らせいたします。

日 時：令和5年12月1日(金)～12月7日(木) ※Web研修会

対象者：薬機法施行規則第168条及び第175条第2項に基づく高度管理医療機器(コンタクトレンズを含む)・特定管理医療機器(家庭用電気治療器、補聴器等)の販売業及び賃貸業の届出をしている事業所の管理者。薬機法施行規則第194条に基づく医療機器修理業の責任技術者。

※詳細につきましては、10月上旬頃にFAX一斉同報・HP等にてご案内いたします。



MR残酷物語一回顧録一 (完結編)



レモン薬局 糸満店
詫摩 敏康

話が変わりますが、MR減らしがここ数年で加速しております。勿論私も離職組ですが継続して沖縄在住が叶い薬剤師未経験ながら雇用してもらえ、今の職場に大変感謝しており後悔もしておりません。では、なぜ製薬業界もこのようなかじ取りになってきているのかというと、先行してアメリカでここ数年大量にMRが減らされており、IT・ネットインフラの整備で実面談をする機会が今後も益々減り10年以上前よりMR不要論も唱えられております。また、2017年に財務省から製薬会社の高コスト体質が薬価引き下げのネックになっていて、MRの人数が多く賃金が高いのに面会の待ち時間が工作中20%以上を占めていると横やりが入り業界も生き残りのためMRを再編している背景もあります。それに加えコロナでより一層、医師、薬剤師に施設の規制などで面会することが難しくなり、MRの面会自体が現在も行われていない施設もあるとの事です。会社側も利益を上げるために削減しやすいMRに退職を勧めていると思われる。近年リストラや早期退職をした企業で私が思い浮かぶだけでもこれだけあります。アステラス製薬（2回目）、ノバルティスファーマ、ヴィアトリス製薬、ファイザー（何回目かも分からない）、武田薬品工業、バイエル、ヤンセンファーマ・・・。特にヤンセンファーマは昨年年末にびっくりしました。ポジションクローズという新の手法での実質解雇です。つまりはあなたの仕事自体がなくなるので3月までに転職するか社内の適切な部署に異動を希望してください。異動は必ず通るとはかぎりませんが、的な意味だそうです。愛知県時代に仲良くしていたMRから「今後は薬剤師になろうかと思う

けどどうすればいい？」と連絡が来ました。MRにも一定数の薬剤師が今でもいるので、今後は私みたいにMRキャリアの薬剤師が増えるかもしれませんね。最初は使い物にならないとは思いますが、その様な薬剤師が先生方の薬局に入社された際はどうか末永く辛抱して御指導をお願い致します。

長文、乱文でまとまりもなく、お恥ずかしい限りの文書となり最後までお読みいただけた方々に感謝申し上げます。最後になぜ調剤薬局でMRの姿をあまり見なくなったのか？ですが、書ききれない程の理由は思い浮かびますが、まずは幅広く使われる新薬が減ったうえにジェネリックが普及している事、そしてやはり処方元が最重要だからです。各メーカー調剤薬局は今ではただの情報収集源と位置付ける企業が殆どです。その情報も近年は薬局側の諸事情で出せない事もあります。昔は先生に口添えしてくれる薬剤師もいましたし、アドバイスをしてくれる薬剤師がいました。が近年は業務の多忙化もあり薬剤師もメーカーに付き合っただけであげられない事情があるのだと逆の立場になりよくわかります。大手グループ調剤だと薬剤師も異動があり施設に定着していない事もあるでしょう。また医療機関と調剤薬局の分離・独立性が進みいい意味で医薬分業が進んでいると感じておりますが反面協調性はなくなりつつあります。せめて現在も頑張っ来てくれている横柄でないMRには私なりに今後も応援をしてあげられたらと思います今回のリレー随筆の締めとさせていただきます。

※前編（316号：令和5年1・2月号73ページ～）と後編（317号：令和5年3・4月号56ページ～）を併せてお楽しみ下さい。

次号には、会営薬局うえはらの飯塚 雄矢 先生がバトンを受けて下さいました。ご期待下さい！

第60回 暮らしの中の薬草学
身近な薬草を知ろう



女性薬剤師部会
狩俣 イソ

見慣れない果物や野菜がいろいろ野菜コーナーに並んでいます。その一つアテモヤは亜熱帯の沖縄で栽培が有利なようです。「交配種なので両親の影響を受ける」と知って、人間と同じだなあと妙に胸に響きました。

アテモヤ

学名 *Annona* × *atemoya* Mabb. (1998)
Annona squamosa *Annona cherimola*
科名 バンレイシ科 Annonaceae
属名 バンレイシ属 *Annona*
使用部位 果実、種子、葉、樹皮、根、花
有効成分 アセトゲニン、ポリフェノール、K



【アテモヤの名称】

アテモヤは、熱帯西インド諸島原産のバンレイシ（蕃荔枝、釈迦頭）と冷涼なアンデス山脈の高地を原産とするチェリモヤを掛け合わせて作出された交雑品種、またはその果実のことである。アテモヤの名は、バンレイシのブラジル名であるアテ (ate) と、チェリモヤ (cherimoya) のモヤ (moya) を組み合わせて付けられた。食感や風味がパイナップルに似ている。食味がとても甘く「森のアイスクリーム」（熟したアテモヤの糖度は20～25度）とも呼ばれている。

バンレイシは英語でシュガーアップルとも呼ばれる甘みの強い果実で、一方チェリモヤは「世界の三大美果」と称えられてきた果実で、カスタードアップルとも呼ばれている。アテモヤはこの両者の掛け合わせということや、栽培が難しいこと、生産量が少ないことなどから高級果実として扱われている。

アテモヤは様々な国で品種改良が行われ、ジェフナーやブラッドリー、アフリカンプライドなどの品種がある。

【アテモヤの形態】

米国の研究者が1911年にフィリピンで交配して得られた種子をフロリダへ持ち帰り植えて、1913年に初結実し、名づけられたと言う。常緑中高木・果樹で、樹高3-10mになる。低温期がある場所では落葉する。葉は互生し、楕円形、葉縁が波打つ。

花期は3-6ヶ月に及び、その間に2-3回の花のピークがある。花は釣鐘状で黄緑色の3枚ずつ2輪の花弁をもち、外花弁が大きく厚い。一日花で開花時間は夕方（ミツバチの活動時間が終了している）、雄雌同花、雌雄異熟型（メシベが先に成熟し、オシベは遅いので時期が合わず人工授精が必要）、多数のメシベに由来する多数の果実が合着した集合果であり、ハート型、表面は区画に分かれ、各区画は突出または平坦。亀甲状の模様で、小指の先ほどの黒い種子が散在している。

開花から5ヶ月後が収穫期で収穫直後は濃緑色で硬い。常温で数日おくと表面が白っぽくなり、果肉が軟らかくなる。果皮は緑から黄色、茶色へと変わっていく。芳香が出ると食べ頃で、皮をむいたゆで卵のような感触で、甘味と酸味がある。

【沖縄の産業としてのアテモヤ】

アテモヤは剪定による開花期の調節が可能なことから、マンゴー等主要熱帯果樹類の収穫が少ない冬春期に出荷可能な品目として注目されているが、台風等の影響によって着花や結実が安定しないという問題がある。受粉に好適な開花ステージを特定することで、こうした問題を改善することができる。

【アテモヤの成分】

主成分は炭水化物。カリウムが突出して多く、カルシウム、ビタミンB6が多い。食物

繊維、ナイアシンやビタミンB1を含む。アルカロイドやアセトゲニンを含む。

熱帯、亜熱帯産のバンレイシ科植物は約130属2300種からなる樹木、灌木、蔓性の植物であり、古来より薬用植物や食用果実として利用されている。バンレイシ科植物は1982年に全く新奇な化合物が単離、構造決定されて以来、単離された関連化合物は51種の植物から400を超えており、総称してバンレイシ科アセトゲニンと呼んでいる。

【アテモヤの効能効果】

カリウムにはナトリウムが腎臓で再吸収されるのを抑制し、尿への排泄を促す働きがあることから、血圧を下げる作用があるとされ、高血圧を予防する効果がある。カルシウムも結構含まれている。カルシウムは骨や歯を丈夫にし、血液凝固や筋肉の収縮、神経の興奮抑制作用等もある。

バンレイシ科植物から単離されるアセトゲニン類と呼吸鎖阻害系殺虫剤のハイブリッド化合物が強力な抗腫瘍活性を持つことを見出した。

【シワ、肌荒れ等の改善作用】

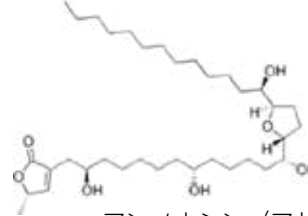
アテモヤの抽出物（葉、茎、樹皮、花、果実、根を抽出したもの、より効果的なものは果実、果肉、果皮、種子等から抽出したもの）を有効成分として含有することを特徴とするシワ予防又は改善剤、抗炎症剤、肌荒れ改善剤、過酸化脂質生成抑制剤としての作用が確認されている。アテモヤの抽出物は、優れた過酸化脂質生成抑制作用、MMP（コラーゲナーゼ・ゼラチナーゼなどの皮膚の真皮マトリックスの主な構成成分であるコラーゲンを分解する酵素）活性阻害及びヒスタミン遊離抑制作用を有する。安全性が高く、化粧品、食品、医薬品などに利用可能である。

【アテモヤの抗酸化性】

アテモヤの特性を知るために、一般栄養成分の分析およびポリフェノール成分量と抗酸

化性の検討を行った。無機栄養素含有量は、カリウムが突出して多く、カルシウム、ナトリウム、マグネシウムも比較的多い。総ポリフェノール量が多く、DPPHラジカル消去活性が優れていることが確認された。

【アセトゲニン】



アンノナシン（アセトゲニン類の一種）

アセトゲニン類は、バンレイシ科植物に含まれるポリケチド天然物の一群である。抗腫瘍、細胞毒性、免疫抑制、アポトーシス誘導、殺虫、昆虫摂食障害、抗寄生虫、抗マラリアなどの広範の生物活性が明らかになっている。

【アセトゲニン類によるATPの制御】

バンレイシ科アセトゲニン類は、腫瘍や癌細胞内で働く非常に優れた効果的な酵素活性阻害剤であるため、通常の健常細胞には害を及ぼさない。腫瘍細胞は通常の健常細胞と比べ機能に多くのエネルギーを必要とする。アセトゲニン類は、ATPが腫瘍細胞へ到達することを遮断し、最終的に細胞が機能を維持できなくなって衰えるように働く。

多くのアセトゲニン系統は顕著なATP阻害特性を示しているが、特に乳癌症例において有効である。結腸腺癌細胞株、ヒトリンパ腫細胞株、ヒト乳房固形腫瘍株、肝癌細胞株などの腫瘍細胞に対しアセトゲニン類が明確な毒性を示すことが示されている。主要エネルギー蛋白の遮断が癌細胞を殺傷することが明らかになっている。

参考 沖縄県農業研究センター、旬の食材百科、eヘルシーレシピ、日本調理科学会大会研究発表要旨集、小島直人京都薬科大学 薬学部、かぎけん花図鑑、真壁秀文信州大学農学部応用生命科学科生物制御化学特許公報82特許第5144362(57)、NutraomicsGenEpic

アテモヤ生 可食部100g中の含有量 廃棄率35% 第七訂日本食品標準成分表

エネルギー	タンパク質	炭水化物	食物繊維	リン	カルシウム	カリウム	亜鉛
79 kcal	1.8 g	19.4 g	3.3 g	24 mg	26 mg	340 mg	0.2 mg
マグネシウム	鉄	マンガン	ナイアシン	ビタミンB6	パントテン酸	葉酸	ビタミンC
29 mg	0.3 mg	0.2 g	0.9 mg	0.28 g	0.23 mg	23 μg	14 mg

転載記事

ぶれいく
たいむ



仕事の矜持

崎濱祐美子(57)

娘が年中に上がるタイミンで始めた仕事は、某病院内の院外処方箋案内コーナー業務。その後誕生した息子も今年、大学生になった。

産休に入る前日、患者さんから「君の笑顔がまた見たいから、必ず戻ってきなさい」と言われ、いいエールをもらった。

個人情報扱っているのだから、見かけ以上に神経を使うこの仕事を長く続けてこれたのは、前述のエールはもとより、亡くなった患者さんの息子が「いつも母に良くしてもらっていたから」と、雨の中をさあさいさつに来てくれたりした。

コロナ禍で入院中の気分転換に「ここに連れて行くよ」と指名です」と看護師に車椅子を押してもらって会いに来てくれた患者さん。在宅に移行するため

娘さんが病を乗り越えて、高校生になったことがうれしくて、自身の生い立ちを含め、これまでの経緯を細かく話してくれたお父さんもいた。また、私の新聞投稿を気にかけて、来るたびに叱咤激励してくれる患者さん。他にも挙げれば切りがないほど、多くのすてきな出会いが私の仕事のモチベーションになっている。

処方箋をファクスする前後のわずかな時間ではあるが、患者さんやご家族とのコミュニケーションを通して背景にも寄り添い、これからも真心で接していきたいと思う。

(浦添市、パート勤務)

沖縄タイムス
令和5年7月11日 (火)

本会職員の投稿文です。

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

会報原稿募集のご案内

広報委員会



おきなわ薬剤師会報は皆様の会報です。広報委員会では、会員の皆様からの原稿や作品を多方面にわたり募集致します。活発な御投稿をお待ち致しておりますので、是非、御協力下さいますようお願い致します。

【会報表紙及びカット写真】

写真にタイトルを付けて奮ってご応募願います。写真の採否、掲載月については広報委員会に一任頂きますのでご了承下さい。表紙写真はカラー、カットについては白黒印刷となります。

【会員からの意見箱】

皆様の質問、意見、主張を掲載します(薬剤師会活動や社会に対する本音など何でも結構です)。日常業務の中での疑問、薬剤師会活動、賠償責任保険、医薬分業、一般薬販売等について質問を受け付けます。

- ・誌上匿名は可能です。
- ・回答者を指名されても結構です。

【寄稿コーナー】

勤務薬剤師としての立場から見られた日常業務、過去、現在の職場に対する長短所・要望等。若い先生方からの御意見、御投稿をお待ちしております。

同時にベテランの先生方からの店舗経営に関する事、開業顛末記等、今後の進路を決める若い先生方へのアドバイス等についても募集します。

【会員作品・趣味のコーナー】

会員からの作品・趣味等を随時募集しております(手記、随筆、紀行文、詩、短歌、俳句、川柳、写真、絵画、毛筆等の作品、スポーツ同好会や趣味の集い等の紹介や活動状況報告など何でも歓迎します)。

☆原稿送付先(会報に関する問い合わせ)

沖縄県薬剤師会事務局 大城まで 〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 218-10
TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp



令和5年度 沖縄県薬剤師連盟定時評議員会報告

日時：令和5年6月18日（日）13:00～13:30

会場：沖縄県薬剤師会館 ホール

<式次第> 会長あいさつ 議題 報告 第1号 令和4年度会務経過報告 第2号 令和4年度会務並びに会計監査報告 議案 第1号 令和4年度決算承認の件 第2号 沖縄県薬剤師連盟監事選出の件 第3号 沖縄県薬剤師連盟役員選出の件 日本薬剤師連盟あいさつ 本田頭子参議院議員メッセージ動画放映	司会・議長 副幹事長 名 嘉 紀 勝 会 長 前 濱 朋 子 幹 事 長 石 川 恵 市 監 事 江 夏 京 子 会計責任者 川 満 直 紀 会長候補者 前 濱 朋 子 会長候補者 前 濱 朋 子 日本薬剤師連盟 副幹事長 中 原 靖 明
--	--

沖縄県薬剤師会定時総会に先立ち、沖縄県薬剤師連盟定時評議員会が開催された。

司会進行の名嘉紀勝副幹事長より、本評議員会の議長について、本連盟会則第12条3項に「評議員会の議長は会長とする。ただし、会長は総務の中から議長を委任することができる。」とあることから、先だって、会長から委任されたことが述べられ、議長を務めた。

本連盟会則の第6条に、「本連盟に評議員をおくこと。評議員は沖縄県薬剤師会代議員の中からあてる。」とあることから、沖縄県薬剤師会代議員に本連盟評議員を兼ねてもらうことで就任依頼をしたところ、代議員51名の内48名から承諾を得ていた。

新型コロナウイルス感染症の5類移行後の今回の開催の取り扱いについては、新型コロナウイルス感染症等の予防対策に留意した上で会場を設けているが、発熱や風邪様症状等があり体調に不安がある場合等は参加の自粛を要請、また、参加に際しては、マスク着用や手指消毒等の感染予防を心掛け、濃厚接触を避けていただくこととし、どうしても出席を避けたい、他事由により出席できない評議員

は、「予備評議員を出席させる」もしくは「議決権の代理行使」を提出していただくよう案内していた。現地参加した評議員は35名、「議決権の代理行使」を議長に委任することで出席の提出をした評議員が10名、欠席が3名の計48名であった。本連盟会則第15条に、「評議員会は評議員の過半数の出席をもって成立し、承認および議決は出席者の過半数をもって決するものとする」とあることから、評議員数48名の内、過半数の45名が出席扱いとなり、議長が開会を宣言した。

最初に、前濱朋子会長が、「4年に及ぶコロナ禍では、病院、開局、卸、行政などに勤務する薬剤師との連携に加え、病院、診療所の医師との連携も進展したように感じる。これらの業務連携により、薬剤師職能が県民にも広く周知されることになった。その結果、沖縄県知事との新型コロナウイルス感染症対策等に係る意見交換会に参加案内があり、錚々たる医師らに加えて看護協会会長と共に参加した。これもひとえに、会員の、長いコロナ禍における日々の患者目線の活動が認められたものである。このような積極的な活動が認



司会・議長 名嘉紀勝 副幹事長	会長あいさつ 前濱朋子 会長	報告第1号 石川恵市 幹事長	報告第2号 江夏京子 監事	議案第1号 川満直紀 会計責任者	日本薬剤師連盟あいさつ 中原靖明 日本薬剤師連盟副幹事長
--------------------	-------------------	-------------------	------------------	---------------------	------------------------------------

められ、国や県からの補助・支援もつくことになった。これは、薬剤師の職能を熟知した薬剤師議員のお力添えがあればこそだ。」と挨拶した。

報告第1号「令和4年度会務経過報告」では、石川恵市幹事長が、主な会務を報告した。「岸田文雄内閣総理大臣との意見交換会」、「神谷まさゆき・古謝げんた総決起大会」、「古謝げんた・神谷まさゆき街頭演説会および個人演説会」、「世耕弘成大臣来訪」、「菅義偉前総理と沖縄復興・県知事選挙を語る会」、「第2回沖縄県市町村議会議員との情報交換会」、「沖縄県薬剤師連盟若手薬剤師フォーラム」について報告した。

報告第2号「令和4年度会務並びに会計監査報告」では、江夏京子監事が次のように報告

した。本連盟規約第9条第11項に基づいて、令和4年度監査を山里勇監事と共に、去る5月11日に本会館にて、前濱朋子会長、川満直紀会計責任者、関係職員同席のもと、決算報告書内訳および予算執行状況等関係書類を基に監査を行った。監査の方法の概要として、会計監査については、帳簿並びに関係書類の閲覧などに必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討し、業務監査については、関係役員から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧などに必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

監査意見については、

- (1) 収支決算書、貸借対照表、財産目録等は、会計帳簿の記載金額と一致し、収支状況及び財政状態を正しく示していると認める。

- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 役員職務執行に関する不正の行為等の重大な事実はないと認める。

と、報告書を読み上げて監査報告とした。

議案に入り、議案第1号「令和4年度決算承認の件」を川満直紀会計責任者、議案第2号「沖縄県薬剤師連盟監事選出の件」と議案第3号「沖縄県薬剤師連盟役員選出の件」を前濱朋子会長候補者が説明した。

議案事項における主な提案は、次のとおりである。議案第2号「沖縄県薬剤師連盟監事選出の件」では、本評議員会の後に開催する第88回沖縄県薬剤師会定時総会において執行される監事選挙に当選した監事を本連盟の監事にあてたいとのことであった。議案第3号「沖縄県薬剤師連盟役員選出の件」では、前記の監事を含めた新たな役員を選任の承諾であった。

各議案について、挙手による採決を行い、いずれも賛成多数で承認された。

続いて、日本薬剤師連盟の中原靖明副幹事

長から、次のとおり挨拶をいただいた。

「本日は、挨拶の時間をいただき感謝申し上げます。本来であれば、山本信夫会長が出席して挨拶をするところだが、本日は全国18の都道府県薬剤師会で総会が開かれているため、役員で手分けをして各総会に参加している。昨年の参議院議員選挙で神谷政幸を当選させていただいた御礼と、2年後の本田顕子の2回目の選挙のお願いに参った。神谷政幸は当選して1年になるが、国会で数回、薬剤師、薬局関係の要望、答弁を行っている。まだ若い、頑張っている。現在の2人体制を維持することが非常に大切である。現在、本田は厚生労働大臣政務官を拝命しているため、全国各地をまわることが難しい。それで、本田顕子に代わって、一人でも多くの支援をいただけるよう、協力依頼に参った。」

閉会前に、最新の本田顕子氏からのメッセージ動画を閲覧し、令和5年度沖縄県薬剤師連盟定時評議員会は終了した。

(報告：事務局 徳元あおい)

お知らせ

沖縄県薬剤師連盟 Facebookをご覧ください！



下記アドレスより、お待ちしております。ホームページからも閲覧できます。

<https://www.facebook.com/okinawayakuren/>

薬連だより

オレンジ日記

新年度にあたって ～近況のご報告～

参議院議員・薬剤師

本田 顕子



桜色が爽やかな風に舞い街中を彩る季節の訪れとともに、マスク着用をはじめ、新型コロナ対策の段階的見直しが始まっています。

昨夏から大臣政務官として医療、薬事、公衆衛生等の厚生分野を担務させていただく中で、現在、5月8日の類型見直しに向けて、感染や医療の現況等も踏まえつつ慎重な議論を進めております。改めて、ここに至るまでの現場の先生方の献身的かつ弛まぬご尽力に心より感謝を申し上げます。

他方、依然として医薬品供給不足の問題と向き合う状況が続き、多くのご負担を強いているところ、たくさんのお声をいただいております。

これまで製薬各社に生産努力を求め、薬局同士の連携や在庫情報の共有などをお願いし、薬価上の対応も行いましたが、安定的な生産と供給を回復させるための道筋は未だ描き切れていないのが実情です。

安定供給のための体制整備を薬業界全体の課題として捉えるとともに、経済安全保障上の観点も踏まえた対応策の検討を続けているところです。

2024年度からの第8次医療計画に関しましては、薬剤師は医薬品の提供に加え、在宅、災害、感染拡大時など「基本方針」に記載される全てにおいて期待が寄せられていると理解しております。

新年度は各自自治体が地域の実情に応じた計画を策定する時期ですので、是非、各自自治体の薬務系および医務系の部局との連携を強めていただき、薬剤師がやり甲斐をもって活躍しやすい環境を互いに創り出していきたいと思っております。

年度当初は、国会対応として衆参両院の各委員会での質疑にて政府の見解を答弁することのほか、G7保健大臣会合に向けた国際会議などが予定されています。

このような中、これからも皆様との接点を大切にしながら、「薬剤師から政策提言」を軸に、薬剤師のため「難局突破」と「政策断行」に邁進してまいります。

法案成立を通して感じること

令和5年4月21日、参議院本会議にて、新型インフルエンザ等対策特別措置法及び内閣法の一部を改正する法律案が賛成多数で可決、成立しました。

この法律によって、国民生活や国民経済に甚大な影響を与えるおそれのある感染症が発生した場合に迅速な指示や要請を可能にする権限が明確になりました。加えて、内閣感染症危機管理統括庁という新しい組織が総合調整機能を担います。司令塔として関係府省による施策を総合的に束ねて主導し、感染症の発生・まん延を防止することが期待されています。

今回の法案成立に至るまでに、衆参両院の内閣委員会での審議や、内閣委と厚生労働委員会との連合審査に関わらせていただきました。法律が目指す趣旨を損なわないよう、緊張感を持って施行準備をしていく示唆に富む審議の数々でした。

今国会では、厚生労働省が所管する水道行政と食品衛生行政を他府省へ移管することを趣旨とする法律案の審議も行われています。委員会質疑を通じて、人の健康を守る観点で取り組むことの大切さ、すなわち保健衛生の重要性について国民的視点から再認識しております。

組織再編や行政事務の移管による効果を実感できるようにするには、これらに関わる方々が自らの価値を最大限に生かすことが何よりも大切と私は捉えています。

水質も食品も、そして感染症も薬学教育の範疇であり、国民生活に直結する課題の多くが薬学的知見を必要としていると考えます。

薬剤師として国民の皆様の命と暮らしを守るために持てる力を最大限に生かしてまいりましょう！

もちろん私自身も尽力してまいります！！



参議院内閣委員会（令和5年4月11日）

令和6年度予算編成に向けて

「骨太の方針」

皆様はご存知ですか？

「経済財政運営と改革の基本方針」（通称“骨太の方針”）は、経済財政政策のほか社会、行政などを含むあらゆる分野の改革の方向性を記した文書です。この方針の下、年末に控える来年度予算編成や税制、そして薬価・診療報酬改定などの重要政策の具体的検討がなされます。

現在6月の閣議決定に向けて、政府内では各府省の検討結果などを踏まえ、岸田総理が議長を務める経済財政諮問会議で案文作業が進められています。自党内では各種勉強会やプロジェクトチームおよび政務調査会の下に置かれている部会が大忙しの状態で侃々諤々の政策論議が展開されています。

この方針は地方の行財政にも大きく影響しますので、この時期の議員会館には各自治体の首長をはじめ県市議会、団体などの皆様がたくさん来られます。

日本薬剤師会からは、医療分野における物価・賃金高騰対策および来年度予算・税制改正要望に加えて、日本薬剤師会が直面する喫緊の諸課題として次の4つのお話を伺っております。

- 1 令和6年度診療報酬・介護報酬改定に向けた必要な財源の確保
- 2 安定した地域医療提供体制の維持に必要な社会保障財源の確保
- 3 物価・賃金の高騰を踏まえ、骨太の方針に薬局への財政支援を明記
- 4 国民の安全な医薬品使用を脅かす過剰な規制改革の抑制

また、少子化・子育て対策も気になるところで、こども政策を進めることには皆が賛同しますが、財源論として社会保障費に切り込む旨の報道が先行しているため、党内では「社会保障の充実なしに少子化対策は進まない」との意見が多く出されています。

年末に向けて、国民の命と暮らしを守るための社会保障制度の充実を通じ、地域の皆様の安心・安全な生活を確保していけるように頑張ってまいります。

<内閣府ホームページ 令和5年第8回経済財政諮問会議>

<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/minutes/2023/0607/agenda.html>

薬連だより

政幸だより

薬事に関する小委員会

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸



自由民主党の組織として「政務調査会」があり、その下に「厚生労働部会」、さらにその下に「薬事に関する小委員会」があります。

薬事に関する小委員会は、自民党が野党となった平成22年12月1日に正式に設置され、与党による薬事行政等について提言するという目的であったとのことです。平成24年12月に与党に復帰してからは、与党の立場で薬事行政に対して意見を述べる組織となりました。

初代の委員長は松本純先生であり、二代目が藤井基之先生、現在の委員長は田畑裕明衆議院議員が務められています。事務局長は初代が藤井基之先生、次に村井英樹衆議院議員、そして昨年12月より私が事務局長を務めさせていただいております。

小委員会の開催は定期的ではなく、薬事法改正等の薬事行政における重要な動きが予定されている際に随時開催されてきています。これまでの主なテーマは、脱法ハーブ等の乱用問題の現状等と今後の課題、医薬品医療機器等法の改正に向けた検討状況と薬業団体からのヒアリング、医薬品医療機器等法の一部改正案の法案審査、薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会の状況報告、大麻取締法の見直しに向けた検討状況、医薬品の安定供給等が挙げられます。

私が事務局長として開催された昨年12月の小委員会では、薬局・薬剤師関係の主な規制改革の動向について、内閣府の規制改革推進室と厚生労働省医薬・生活衛生局から説明を受けて、活発な質疑応答がなされました。また、本年3月に開催された小委員会では、本田顕子政務官をはじめ厚生労働省の幹部の参加のもと①経口中絶薬、②医薬品の販売制度に関する検討会、③薬局・薬剤師に関する規制改革の動向について意見交換を行いました。

今後とも事務局長として頑張っております。

内閣委員会で創薬ベンチャーについて質問しました

今国会で「新型インフルエンザ等対策特別措置法及び内閣法の一部を改正する法律」が審議され、令和5年4月13日（木）の参議院内閣委員会で質問に立ちました。法改正のポイントは大きく2つです。現在、まん延防止等重点措置時及び緊急事態宣言時に限られている総理大臣による都道府県知事などへの指示権を初期段階から対応するため、政府対策本部を設置した段階で発動できるよう前倒しすることと、内閣官房に「内閣感染症危機管理統括庁」を設置することです。

今回の統括庁創設にあたって、未知の感染症が与えた国民生活への影響をどのようにとらえているのか、ワクチン接種の効果に対する政府の見解と今後のワクチン接種、新型コロナウイルス感染症治療薬の効果、新たな感染症に対応するワクチンや医薬品の国内開発に必要な創薬ベンチャーの育成、検査キット等の確保や流通、内閣感染症危機管理統括庁と厚生労働省及び国立健康危機管理研究機構との連携について質問を行いました。

特に創薬ベンチャーの育成については政府参考人から、新薬創出の鍵を握る創薬ベンチャー育成のため、経済産業省では国が認定したベンチャーキャピタルが出資する創薬ベンチャーを対象とした実用化開発に対し、合計3500億円規模で支援を行っており、厚生労働省ではベンチャー企業を対象とした相談窓口を設置し、研究開発から実用化に至るまで、法規制対応やマーケティング

ングに関する相談などの支援を行うなど、創薬ベンチャーの成長を強力に後押ししていくとの回答を得ました。この回答に対して、今後も一貫性を持った投資を継続していくことが必要と訴えました。創薬イノベーション・エコシステムの構築に向けて頑張っております。

厚生労働委員会で質問に立ちました

今国会で「全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律案」が審議され、令和5年4月25日(火)の参議院厚生労働委員会で質問に立ちました。

委員会では、改正法案の政府の考え方、後発医薬品の安定供給と業界の産業構造の改善や課題、重複投薬・多剤投与の適正化と電子処方箋の活用、電子処方箋の運用状況と薬剤情報の調剤現場における活用環境、医療法人・介護サービス事業者の経営情報の収集と病院薬剤師の確保・処遇改善等について質問を行いました。

後発品の安定供給問題では、薬局や医薬品流通業の現場の疲弊はピークに達しており、一刻も早い状況改善が必要であることを訴えました。また、日本製薬団体連合会による「医薬品の供給状況にかかる調査」が毎月報告となった予算対応は評価するものの、現場は検索する時点で当該医薬品の供給が無い状況に直面していることから、オンタイムで状況が把握できる必要があることと、医療上重要な製品にも限定出荷がかかっている現状を踏まえ、「供給状況の見える化による医薬品の安定供給確保」を確実に進めるよう要望しました。

厚生労働委員会で行ったそれぞれの質問については、項目毎に動画をYouTubeにアップしました。短いものは2分ちよつとで視聴可能です。下のQRコード、若しくは「神谷まさゆき」で検索していただき、興味のある項目をご覧ください幸いです。



令和5年4月25日
厚生労働委員会での質問
(YouTube)



厚生労働委員会で質問に立つ神谷政幸議員

転載記事

本会会員が紹介されました。

5

2023年(令和5年) 7月9日 日曜日

沖縄タイムス

第1300号発行



おきなわ薬剤師会報 令和5年5・6・7月号掲載記事



仲間とのミーティングで仕事の悩み具合を共有する。



はかりを使って必要な量の薬を計る

全自動で錠剤を分類、
分別して包装する「分
包機」を確認する

沖縄タイムス 子ども新聞ワラビー 令和5年7月9日(日)

転載記事

2023年6月23日金曜日

PHARMACY NEWSBREAK 2394号



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

© 2023じほう

HARMACY NEWSBREAK

株式会社 じほう

弊社の許諾なしに、転送・転載、複写そのほかの複製、翻訳、およびデータの使用は固くお断りいたします

那覇市の古謝副市長が県薬副会長に 沖縄県薬、薬学部新設や「第8次」での活躍期待

沖縄県薬剤師会は18日に開かれた定時総会で役員改選を行い、薬剤師免許を持つ那覇市の古謝玄太副市長を副会長に選出した。

古謝氏は那覇市出身の39歳。東京大薬学部卒業後、キャリア官僚として総務省に入省し課長補佐などを務めた。2022年7月の参院選沖縄選挙区に自民党新人で立候補し落選したが、同年12月に那覇市副市長に就任している。

県薬担当者は「県で初の薬学部新設に向けて動いていることや、薬剤師確保などがテーマとなる第8次医療計画の策定作業が進む中での就任となった。行政との連携を考える上で、古謝副市長が副会長を引き受けてくれたことは非常に大きい」と活躍への期待を述べた。

前濱朋子会長は再任され、中村克徳、川満直紀両副会長は続投する。また、理事を務めていた元県保健医療部参事の阿部義則氏が新たに専務理事に就いた。

[許諾番号20230628_03]

※発行元が記事の利用・編集を許諾しています。

訃報

生前のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

山城 貞国 先生（享年54歳） 令和5年4月23日ご逝去

平尾 秀子 先生（享年89歳） 令和5年4月30日ご逝去



会員にかかる弔事に関する薬剤師会への連絡について

会員及び一親等の親族のご不幸は、沖縄県薬剤師会へ御一報下さい。
(香典・生花等の手配があります)

※各地区、各支部及び、友人、知人の方、御一報よろしくお祈りいたします。

【連絡先】 沖縄県薬剤師会事務局（玉寄・大城）：098-963-8930

令和5年4月

- 3月○令和5年度第1回理事会準備委員会 県薬研修室
- 4火○国保連合会常務理事就任あいさつ 県薬研修室 大城事務局長
- 5水○令和5年度第1回広報委員会 県薬研修室
- 6木○スズケン沖縄来訪 県薬会長室 前濱会長、大城事務局長
- 8土○令和5年度第1回理事会 県薬研修室
- 10月○沖縄県保健医療部へ表敬訪問 前濱会長、川満副会長、大城事務局長
- 11火○本竹秀光沖縄県病院事業局長来訪 県薬会長室 前濱会長、大城事務局長
- 12水○令和5年4月審査運営協議会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 宮城常務理事
- 12水○令和5年度九州厚生局沖縄事務所との連絡会議 県薬研修室 宮城常務理事、大城事務局長、長嶺主任
- 13木○がん終末期の在宅医療を考える会 県薬ホール 主催：第一三共株式会社
- 14金○令和4年度沖縄県（委託・補助）事業実績報告監査 県薬会議室 沖縄県保健医療部衛生薬務課：米村わかな、宮城隼人 大城事務局長、玉寄課長、稲嶺係長、事務局平安山
- 14金○小分けサポートシステムに係る説明会（株式会社ファーマクラウド）WEB 前濱会長、川満副会長
- 14金○八重山地区薬剤師会総会 大濱信泉記念館研修室
- 16日○令和5年度第1回学校薬剤師部会役員会 県薬研修室
- 16日○**令和5年度学校薬剤師新人研修会** 県薬ホール・WEB
- 18火○令和5年度第1回管理者会議 県薬研修室
- 20木○安東賢太郎千葉科学大学教授来訪 県薬会長室 大城事務局長
- 21金○2023年度第1回病院・薬局実務実習九州・山口地区調整機構総会 WEB 宮城常務理事
- 24月○新琉球大学病院敷地内への保険薬局整備計画の撤回を求める要望書提出 琉球大学医学部 前濱会長、川満副会長、佐藤常務理事、大城事務局長
- 24月○令和5年度保健体育課関係機関等懇親会 沖縄県青年会館 村田学校薬剤師部会長、知名学校薬剤師部会副会長、新垣紀子学校薬剤師部会副会長、村田美智子副会長
- 26水○令和5年度第1回医療保険委員会 WEB
- 26水○宮古地区薬剤師会主催研修会 宮古地区医師会館・WEB 主催：宮古地区薬剤師会
- 27木○公立沖縄北部医療センター敷地内薬局誘致に関する要望書提出 県庁 前濱会長、川満副会長、屋嘉比康作北部地区薬剤師会副会長、島袋大沖縄県議会議員、大城事務局長
- 27木○令和5年度第1回九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関運営委員会 WEB 佐藤常務理事、兼城崇（薬学生実務実習受入委員会）
- 27木○令和5年度協会けんぽ沖縄支部との禁煙支援事業説明会in八重山地区 WEB 盛本常務理事、笠原大吾（保健福祉委員会）、長嶺主任
- 29土○第85回認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in九州・熊本（30日迄）WEB 屋良愛

令和5年5月

- 1月○令和5年度第2回理事会準備委員会 県薬研修室
- 8月○株式会社ダイコー沖縄代表取締役の異動に係る来訪 県薬会長室 前濱会長、大城事務局長 来訪者：秋信裕一代表取締役社長、村上伸一取締役顧問（前代表取締役社長）
- 8月○日本薬剤師会第8次医療計画及び地域医薬品提供体制に係る全国会議 TKP市ヶ谷カン



ファレンスセンターホール 西川常務理事、盛本常務理事

- 9火○令和5年度第1回学術研修委員会 県薬研修室
- 10水○中部地区薬剤師会宜野湾支部会議 プラザハウス 前濱会長
- 10水○令和5年度第Ⅱ期薬学生実務実習受入薬局事前説明会 県薬研修室・WEB 佐藤常務理事、宮城常務理事、兼城崇（薬学生実務実習受入委員会）、長嶺主任
- 11木○令和5年度沖縄県「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会 八汐荘 前濱会長
- 11木○令和5年度下期監事監査 県薬研修室 江夏監事、山里監事、前濱会長、川満副会長、事務局：大城事務局長、玉寄課長、上原主任、城間
- 12金○令和5年度第1回沖縄県がん診療連携協議会 琉球大学医学部 川満副会長
- 12金○全国介護事業者連盟沖縄県支部「令和5年度会員総会」 パシフィックホテル沖縄 盛本常務理事
- 13土○令和5年度第2回理事会 県薬研修室
- 16火○おきなわ電子おくすり手帳に関する打ち合わせ 県薬会議室 宮城常務理事、西川常務理事、盛本常務理事、長嶺主任
- 16火○令和5年度第2回管理者会議 県薬研修室
- 16火○沖縄県内国公立大学薬学部設置推進に係る県との情報交換会 県薬研修室 前濱会長、阿部理事、古謝玄太那覇市副市長、大城事務局長、沖縄県保健医療部衛生薬務課：久高課長、中村薬務専門監、川崎主幹
- 17水○令和5年5月審査運営協議会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 宮城常務理事
- 17水○沖縄県国民健康保険団体連合会来訪 県薬会議室 大城事務局長、長嶺主任
- 18木○新規個別指導 宮古合同庁舎 川満副会長
- 18木○脳関連疾患スキルアップセミナー 県薬ホール 共催：第一三共株式会社
- 20土○宮古地区薬剤師会総会 シモジ薬局
- 20土○第17回学術大会 日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会（21日迄） 那覇文化芸術劇場なはーと
- 22月○令和5年度第Ⅱ期実務実習オリエンテーション 県薬ホール 佐藤常務理事、兼城崇・金城奈々美（薬学生実務実習受入委員会）、稲嶺係長
- 24水○日本薬剤師会令和5年度第1回都道府県会長協議会 日本薬剤師会 前濱会長
- 24水○令和5年度第1回災害対策委員会 県薬研修室
- 25木○新規個別指導 那覇第一地方合同庁舎 宮城常務理事
- 26金○九州山口地区薬剤師会薬局実務実習受入調整機関評議員会 福岡県薬剤師会 前濱会長
- 26金○令和5年度第1回九州山口各県代表者会議 福岡県薬剤師会 前濱会長、川満副会長
- 26金○令和5年度第1回九州ブロック日薬代議員予備会議 福岡県薬剤師会 前濱会長、川満副会長
- 27土○那覇地区薬剤師会総会 県薬ホール
- 28日○令和5年度第2回学校薬剤師部会役員会 県薬研修室
- 29月○卸勤務薬剤師部会令和4年度会計監査 県薬研修室 島袋理事、吉富弓江・鈴鹿玲子（卸勤務薬剤師部会）
- 29月○令和5年度第1回なごみ会主催県民健康フェア実行委員会 沖縄県医師会館 松本圭五（保健・福祉委員会）、長嶺主任

令和5年6月

- 4日 ○ **令和5年度女性薬剤師部会総会・特別講演会** 県薬研修室
- 5月 ○ 沖縄県内国公立大学への薬学部設置に関する県と四師会会長との意見交換会 県薬研修室 前濱会長、中村副会長、阿部理事、大城事務局長、沖縄県保健医療部衛生薬務課：新城保健衛生統括監、久高課長、中村薬務専門監、川崎主幹、沖縄県医師会：安里哲好会長、上原貞善事務局長、崎原靖課長、沖縄県歯科医師会：米須敦子会長、小禄克子事務局長
- 6火 ○ 令和5年度第3回理事会準備委員会 県薬研修室
- 7水 ○ 新型コロナウイルス感染症対策等に係る沖縄県知事との意見交換会 沖縄県知事公舎 前濱会長、大城事務局長
- 7水 ○ 沖縄県医療提供体制協議会「令和5年度第1回小児医療部会」 沖縄県医師会 石田浩（地域医療提供体制対策委員会）
- 8木 ○ 令和5年度那覇地区学校保健功労者表彰 沖縄県立博物館・美術館 受賞者：新垣紀子（学校薬剤師部会副会長）
- 8木 ○ 沖縄県薬業連合会第68回理事会・総会・懇親会 ダブルツリー byヒルトン那覇首里城
- 9金 ○ 令和5年度沖縄県警察友の会理事会・総会 沖縄県市町村自治会館 村田副会長
- 10土 ○ 令和5年度第1回沖縄県認知症疾患医療連携協議会 WEB 中尾滋久（保健・福祉委員会）
- 10土 ○ 令和5年度第3回理事会 県薬研修室
- 11日 ○ 中部地区薬剤師会総会 沖縄市福祉文化プラザ 前濱会長
- 13火 ○ 令和5年度第3回管理者会議 県薬研修室
- 14水 ○ 令和5年6月審査運営協議会 社会保険診療報酬支払基金沖縄支部 宮城常務理事
- 17土 ○ 北部地区薬剤師会総会・懇親会 ホテルゆがふいんおきなわ
- 18日 ○ **沖縄県薬剤師会第88回定時総会** 県薬ホール
- 18日 ○ 令和5年度第4回臨時理事会 県薬会長室・会議室
- 18日 ○ **沖縄県薬剤師会第88回定時総会懇親会** 県薬研修室
- 18日 ○ 沖縄県薬剤師会永年勤続表彰式 県薬研修室 受賞者：城間盛光（会営薬局医療センター前管理薬剤師）、幸地多美子（会営薬局うえはら事務主任）、島仲厚子（会営薬局うえはら）
- 21水 ○ 新型コロナウイルス感染症医師向け勉強会 県薬研修室 講師：糸嶺達（薬事情報委員会委員長） 前濱会長、吉田理事
- 22木 ○ 新規個別指導 那覇第一地方合同庁舎 照屋林一郎（医療保険委員会）
- 23金 ○ **沖縄戦殉職医療人之碑へ慰霊** ひめゆりの塔構内 神村相談役、川満副会長、村田理事、事務局：大城事務局長、平安山
- 24土 ○ 日本薬剤師会令和5年度第102回定時総会（25日迄） ホテルイースト21東京 前濱会長、川満副会長
- 26水 ○ 令和5年度第1回表彰選考諮問委員会 県薬会議室
- 27火 ○ 令和5年度沖縄県薬物乱用防止協会第1回理事総会 沖縄県教職員共済会館 前濱会長、阿部専務理事、吉田久子
- 27火 ○ 「地域薬学ケア専門薬剤師制度」における連携研修マッチングに係る全国説明会 WEB 潮平学術研修委員長、中尾副委員長、事務局：稲嶺係長、徳元
- 28水 ○ 薬剤師による個別支援を活用した禁煙サポート事業に係る説明会 WEB 盛本直也（保健・福祉委員会）、長嶺主任

会 務 報 告

- 29木○新規個別指導 那覇第一地方合同庁舎 喜屋武芳美（医療保険委員会）
 29木○県薬職員向けBLS講習会 県薬研修室 講師：中尾滋久（災害対策委員会）
 29木○第9回薬剤師スキルアップセミナー 県薬ホール 主催：第一三共株式会社
 30金○令和5年度国民体育大会第43回九州ブロック夏季大会監督会議（アンチ・ドーピング研修）
 沖縄県体協スポーツ会館 吉田薬事情報センター長、笠原大吾（薬事情報委員会）
 30金○地域医療提供体制対策委員会（小委員会） 県薬研修室

沖縄県薬剤師連盟

令和5年4月

- 6木○那覇市長知念さとる激励会 ザ・ナハテラス 前濱会長
 11火○松本哲治浦添市長就任10周年記念～松本哲治と語る夕べ～ アイム・ユニバースてだこ
 ホール 石川幹事長、姫野副幹事長
 26水○古謝玄太第1回沖縄を元気にする会（元気会） パシフィックホテル沖縄 前濱会長
 27木○令和5年度第1回沖縄県薬剤師連盟総務会 県薬研修室

令和5年5月

- 12金○自由民主党平成研究会セミナー ホテルニューオータニ 前濱会長、姫野副幹事長
 14日○本田あきこkick-off meeting 福岡県薬剤師会 前濱会長、新垣紀子副幹事長、与儀和子
 総務、草壁瑞恵女性薬剤師部会長
 15月○公明党政経文化セミナー パシフィックホテル沖縄 前濱会長、姫野副幹事長
 17水○古謝玄太第2回沖縄を元気にする会（元気会） えん沖縄 久茂地本店 前濱会長
 18木○自由民主党志公会と語る夕べ ホテルニューオータニ 前濱会長、石川幹事長
 25木○自由民主党沖縄県支部連合会令和5年春の政策対話 自由民主党沖縄県支部連合会 前濱
 会長、川満副会長、大城事務局長

令和5年6月

- 17土○自由民主党沖縄県支部連合会総務会 沖縄ハーバービューホテル 前濱会長
 17土○自由民主党沖縄県支部連合会政経セミナー 沖縄ハーバービューホテル 前濱会長、川満
 副会長
 17土○自由民主党沖縄県支部連合会県連大会 沖縄ハーバービューホテル 前濱会長、川満副会
 長
 18日○**沖縄県薬剤師連盟定時評議員会** 県薬ホール
 22木○衆議院議員西銘恒三郎国政報告会 南風原町立中央公民館 名嘉副幹事長、事務局：大城
 事務局長、長嶺主任、平安山
 23金○藤井基之先生旭日重光章ご受章祝賀会 東京会館 前濱会長
 29木○日本薬剤師連盟令和5年度第1回都道府県薬剤師連盟会長会 WEB 前濱会長



誌上ギャラリー（裏表紙）について

左上：「宮古島のひまわり」 photo by 前里 由紀子（コジャ薬局） 撮影地：宮古島空港前

右上：「サボテンの花」 photo by 平良 恭子（薬局えぱーわーな〜） 撮影地：庭
一夜限り、見逃したくないものですね。

右中：「ハスの花」 photo by 宮城 幸枝（株式会社沖縄健康企画） 撮影地：那覇新都心

下：「川平湾」 photo by 安村 慶子 撮影地：石垣市川平
石垣島が誇る日本百景の一つで、何度訪れてもつい写真を撮ってしまいます。

編 集 後 記

アロマセラピーの講座やワークショップに毎月参加している。精油（花や葉などから抽出したもの）を使って化粧品を作っているのだ。世界に一つしかない自分のためだけのオリジナルコスメだ。その他にもシャンプーやハーブチンキ、ハンドクリームなども作っている。それがけっこう楽しい。さて、その精油・・・振動数がとても高いことがわかった。ローズ320MHz、ラベンダー 118MHz、ペパーミント88MHz・・・健康な人の振動数は62～78Hzだということから、精油の振動数には驚いた。振動数の高い精油を使い、免疫やエネルギーを高めることを期待しながら今日も（多分、明日も！）アロマセラピーと向き合っている。アロマに関わる薬剤師が増えているという。なんだからうれしい。（クララ）

新型コロナウイルスが再び広がりを見せています。現在沖縄県では全国と比べても突出して感染者数が多く、医療をひっ迫する状況となってきました。当薬局でも抗原検査キットや感染した際の対応などに関する問い合わせが急激に増えています。新型コロナウイルスが第5類に移行されたことに伴い、人の動きも活発になっています。観光立県である沖縄県にとって県内各地が観光客で賑わうことは喜ばしい反面、医療がひっ迫状態に近づきつつある状況も事実です。拘束力を伴う行動制限はされておりませんが、一人ひとりが周りにつさない意識が大切かと思えます。薬剤師として最新の情報を把握し、地域住民に対して“正しく知り、正しく対応する”ための情報発信も重要ですね。（ハンバーグ）

麻薬を廃棄した。保健所職員の方の立ち会いのもと、大量の麻薬を廃棄した。錠剤273錠、坐剤32個、テープ8枚、内服液65包。なぜこのように多くなってしまったのかというと、実は10数年以上も前の麻薬には製造年月日のみの記載で、有効期限の記載が無かったのである。昭和55年9月26日交布の厚生省告示第166号において「3年以内に性状及び品質が経時変化を起こすおそれのある有効成分を含有する医薬品は、使用期限を記載すること」と規定され、メーカーの言い分ではそれ以外の医薬品は、記載しなくてよいという解釈で記載していなかったらしい。2020年以降に仕入れた麻薬には有効期限が入っているので法改正があったのかもしれない。というわけで「有効期限のないものはいつまで使っているのだろうか」などと思い悩んでいるうちに月日が経ち（月日が経ち過ぎです！！）今回一気に廃棄した次第であります。（ピアナ）

5月に大阪で大学時代の友人の結婚式に参加しました。友人の結婚式は、とても素敵で感動的なものでした。結婚式の後は、久しぶりに会えた友人たちと楽しく過ごしました。コロナ禍の影響もあり、友人とは4年ぶりの再会となりましたが、みんな元気そうでした。友人の中にはエリアマネージャーや管理薬剤師になる人もいて、自分もこのままではいけないと思い、自分自身を励ませるものとなりました。また、私の悩みにも親身になってくれて、アドバイスをもらうことができました。久しぶりの再会もあってか、大学時代のときよりも心強い存在になったと感じます。自分も友人たちに負けないようにより精進していきたいと思います。(チャグ)

お知らせ

Facebook をご覧ください！



下記アドレスより、お待ちしております。ホームページからも閲覧できます。

<https://www.facebook.com/okinawaopa>

沖縄県薬剤師会

〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川218-10 <http://www.okiyaku.or.jp> e-mail: kouhou@okiyaku.or.jp
 ■事務局 TEL 098-963-8930 FAX 098-963-8932 ■薬事情報センター TEL 098-963-8931 FAX 098-963-8937
 ■会営薬局医療センター前 TEL 098-963-8940 FAX 098-963-8946 ■試験検査センター TEL 098-963-8934 FAX 098-963-8932
 ■会営薬局うえはら 〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原1-26-1 TEL 098-946-1185 FAX 098-944-0567
 ■会営薬局とよみ 〒901-0244 沖縄県豊見城市字宜保271-1 TEL 098-856-4160 FAX 098-856-6026

おきなわ薬剤師会報 第318号 令和5年7月23日発行

◇次号は、令和5年9月下旬発行予定です。

発行人：沖縄県薬剤師会 会長 前濱朋子
 編集：広報委員会 委員長／宮城敦子 委員／池間記世・運天芳生・宮本直樹
 久米島通信員／山城晶 宮古地区通信員／前里由紀子
 八重山地区通信員／波多江直也 事務局／大城喜仁・徳元あおい 印刷：株式会社 東洋企画印刷



誌上ギャラリー（会員作品）
お気軽にご投稿下さい。

